

五 日露国交回復交渉関係 二七四 二七五

問題ナリト言フニ至ラシメ帝政国トシテ亡命白徒ノ巢窟タル丁抹ガ吾人ト締約シ底力ナキ「ファシスチ」派ニ依リ樹立セル伊太利ガ否ガ応ニモナク露国ト通商ヲ欲スルニ至リタルハ如何ニ吾人ノ経済的貫目ト國際的地位ノ鞏固ナルカヲ証スルモノナリ云々ト最得意ニ誇張セリ

註 渡辺總領事代理六月八日發第四八七号電報ヲ省略セルガ右ハ日本政府ガ後藤氏ヲ介シ交渉開始ノ準備アル旨ヲ「ヨッフエ」ニ伝ヘタルコトヲ報ジ日露接近ヲ謳歌セル浦潮新聞ノ社説ヲ報告セルモノナリ

二七四 六月二十日 在リガ(出張駐在)上田書記官ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日ソ交渉ニ対スル当地輿論報告ノ件

第七号

(六月二十一日接受)

日本政府ハ国内ノ輿論ニ余儀ナクセラレ勞農政府ト通商談判ノ開始ハ愚カ同政府ヲ承認スルニ至ルベシトノ勞農露國側ヨリ出デタル報道ニ対シ内外人ハ一般ニ異様ノ感ヲ抱キ右輿論ヲ以テ「ヨッフエ」一派ノ宣伝ノ結果ニ外ナラザルベシトセリ猶太人機關露字新聞財政經濟部主任「ジフ」本官ニ語リテ曰ク何処ニ於テモ煽動セラレ易キ労働者ガ凶ニ乘リテ勞農政府承認乃至同政府ト通商条約締結ノ必要ヲ叫

2 川上・ヨッフエ 非公式交渉

二七六 六月九日 閣議決定

日露非公式予備交渉ヘノ日本代表トシテ川上

俊彦ヲ任命スル旨内田外務大臣ヨリチチェリ

ン外務委員ヘ通告ノ件

帝國政府ハ露西亞社会主義連邦「ソヴィエト」共和国政府ニ於テ日露會議ニ関スル非公式予備交渉ニ対スル貴方ノ代表トシテ「アドルフ・ヨッフエ」氏ヲ任命セラレタル旨本月十六日付電報ヲ以テ通報ノ趣了承セリ
帝國政府ハ右非公式交渉ニ対スル我代表トシテ目下滯京中ナル波蘭國駐節特命全權公使川上俊彦氏ヲ任命スルコトヲ通告スルノ光榮ヲ有ス

註 本通告ハ六月二十一日仏文ニテ發電セラレタリ

二七七 六月十六日 在モスクワチチェリン外務委員ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日露非公式予備交渉ニ対スルソヴィエト政府

代表任命通告ノ件

(六月十七日接受)

五 日露国交回復交渉関係 二七六 二七七 二七八

三七〇

ブハ何等怪ムベキ事ニ非ザルモ貴國商工業者等ガ同様ニ之ガ必要ヲ叫ブハ不思議ニシテ了解ニ苦シムモ之レ畢竟彼等ガ勞農露國ノ事情ニ暗キガ為ニ外ナラズ貴國商工業者ガ勞農政府ト通商条約サヘ締結セバ日露通商行ハレ又露国内ニ自由ニ仕事出来ベシト考ヘルガ大ナル間違ナリ云々

二七五 六月二十三日 在仏國石井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日露交渉ノ經過ニ関スル情報ヲ其都度詳細ニ

電報方稟請ノ件

第四〇二号 (六月二十四日接受)

日露交渉ニ付テハ当地新聞モ多大ノ注意ヲ払ヒ居ル次第ナルヲ以テ本邦側ニ於テ機先ヲ制シテ其ノ經過ヲ發表セザルトキハ結局歐洲ノ輿論ハ莫斯科側ノ發表ニ依リテ指導セララルコトナリ我方ニ取り不利益ナル点少ナカラザル可キニ付今回ノ交渉ニ付テハ若シ公報等遅ルル場合ニハ新聞情報ニテモ差支無キニ付当方ニテモ事件ノ經過發表シ得ル様其都度成ルベク詳細ニ電報相成様致シタシ

露西亞社会主義連邦「ソヴィエト」共和国政府ハ日本帝國政府ニ於テ露國ノ正式代表ト第三露日會議ノ予備条件ニ関シ差当リ非公式タルヘキ交渉ニ入ルコトヲ希望セラルル旨ノ報道ニ接セリ依テ本官ハ露西亞社会主義連邦「ソヴィエト」共和国人民委員會ノ名ニ於テ右予備交渉ノ為當方代表トシテ極東諸邦駐露西亞社会主義連邦「ソヴィエト」共和国特命全權代表タル全露中央執行委員會委員「アドルフ・ヨッフエ」氏ヲ任命スルコトヲ閣下ニ通告スルノ光榮ヲ有ス

註 原文(仏語)省略ス

二七八 六月十九日 閣議決定

日露非公式予備交渉ニ於テ我方ノ執ルベキ方

針ニ関スル件

帝國政府ハ日露予備交渉開始ニ関スル本年六月二日付閣議決定ニ基キ後藤子爵ヲ通シ我方意向ヲ「ヨッフエ」氏ニ傳達シタル処右ニ対シ露國側ハ外務委員「チチェリン」發帝國外務大臣宛六月十六日付電報ヲ以テ露西亞社会主義連邦「ソヴィエト」共和国人民委員會ノ名ニ於テ日露予備交渉

ノ為露国側代表トシテ「ヨッフエ」氏ヲ任命セル旨通告シ来レリ就テハ此際我方代表ヲ任命シ同人ヲシテ非公式ニ「ヨッフエ」氏ト会见セシメ左記方針ニ依リ諸般ノ重要問題ニ涉リ予備的意見ノ交換ヲ行ヒ以テ正式交渉ノ成否ヲ確ムルコトト致度

一、後藤子爵ト「ヨッフエ」氏トノ從來ノ会谈ハ全然私的ノモノナルヲ以テ之ヲ交渉ノ参考ト為スコトハ差支ナキモ之ニ依テ我政府ハ何等拘束ヲ受ケサルコトヲ明ニスルコト

一、尼港事件解決条件トシテハ露国政府ヲシテ我領事及領事館員ヲ始メ居留民ノ虐殺ニ対シ陳謝セシムルコト及北樺太ヲ老億五千万円内外ニテ帝國ニ売渡サシムルカ又ハ北樺太及貝加爾湖以東ノ露領ニ於ケル重要利権ニ関シ日本政府又ハ日本会社若ハ日露合弁会社ニ長期「コンセンション」ヲ許セシムルコト（露国側ニ於テ之ヲ尼港事件ヨリ切放シテ行フコトヲ主張スレハ夫ニテモ差支ナシ）尚又尼港事件ニ因ル損害賠償ハ一応之ヲ露国側ニ要求スルコト然ルヘシ尤モ先方ニ於テ飽ク迄之ヲ拒絶スルカ或ハ之ヲ支払フノ能力ナキ場合ニ於テハ其ノ善後処置ニ関シ更ニ考慮ス

ル所アルヘシ又相互主義ニ依リ日本側ノ露国側ニ対シ与ヘタル損害ニ付日本側ノ責任ヲ問ハムトスル露国側主張ハ之ヲ承認スルヲ得ス

一、正式承認ニ関シテハ列国ト必ス同時ニ之ヲ行フノ義務ヲ有セス但シ日本側ニ於テ单独承認ヲ行フコトハ列国ノ猜疑ヲ招来スヘキニ依リ實際問題トシテハ他国ノ行動ニ重要な注意ヲ払フ必要アリ而シテ若シ单独ニ之ヲ行フ場合ニハ列国ニ対シ帝國ハ露国ト地理上政治上經濟上特ニ重要ナル關係ヲ有スルノミナラス尼港問題漁業問題交通問題通商問題等迅速ノ解決ヲ必要トスル事項尠カラサルニ顧ミ之ヲ遷延スルコトヲ許ササル情況ニ在ルコト及国論ノ趨向ヲ楯トシ充分ナル説明ヲ用意スルコト必要ナリ而シテ承認ノ条件ニ関シテハ尼港事件ノ解決及國際義務ノ履行ヲ以テ今日迄其ノ要件ト為シ来リタル処右國際義務中旧条約ノ承認ハ國際信義ノ表章トシテ根本義ニ属スルモノナルヲ以テ先方ニ之ヲ承認セシムルヲ第一案トシテ進ムヘキハ勿論ナルモ冷静ニ考慮スルトキハ日露間条約及取極中通商条約ハ既ニ消滅セリト見ルヲ適當トスヘク又四次ニ渉ル秘密協約ハ時勢ノ変転ニ顧ミ実行ニ適セサルノミナラス此等政治的協

定中ノ或モノハ革命等政体ノ變更ニ伴ヒ廃棄シ得ヘキコトハ國際法ノ亦予見スル所ナリ又一部ハ既ニ歴史の既成事実トシテ其ノ実行ヲ完了シタルモノアリテ此等ヲ除キタル範圍ニ於テ最モ重要ナルハ「ポーツマス」条約ニ依ル漁業利権ノミナルヲ以テ便宜ノ方法ヲ以テ所要ノ目的ヲ達シ得ヘキ余地アルノミナラス一方之ヲ「ゼノア」會議ニ關スル倫敦準備委員會等ノ実例ニ徴スルニ列国ハ旧条約問題ニ付多大ノ興味ヲ有セサリシモノノ如ク同委員會ニ於テ特ニ審議ノ目的トナリタル經濟的技術的又ハ法律的性質ヲ有スル条約ニ付テモ英國側ヨリ提出シタル原案ニハ最早其ノ効力ヲ有セサルヘキコトヲ規定シアリタルニ依リ我方委員ヨリ力説ノ結果再三ニ渉リ修正ヲ加ヘ漸ク右諸条約ハ其ノ効力ヲ喪失セルモノト看做サルルコトナカルヘク其ノ存続如何ハ露国ト關係国トノ单独商議ニ依ルヘント規定セシメタル次第ナルモ「ゼノア」ニ於テハ更ニ何等論議ノ目的トナラサリシ事情ヲ考慮ニ加フルヲ適當トスルニヨリ露国側ニ於テ強硬ニ旧条約ノ承認ヲ拒ム場合ニハ後日正式交渉ニ於テ我方ノ地位カ從前ヨリ不利ナラサル様新条約ヲ締結シタル後旧条約ハ之ヲ廃棄スルコトニ予備交渉中先方ト取極ムルコ

ト然ルヘク之ニテ纏マラサル場合ニハ日露双方ニ於テ主義上旧条約廢棄問題ニ触レサルコトトシ從前条約又ハ協定ニ依リ我方カ獲得シタル權利又ハ利益ヲ尊重シ既成事實ニ就イテハ變更ヲ加ヘサルハ勿論從前ノ条約又ハ協約ニ依ル我方ノ地位ヨリ不利ナラサル様新条約ヲ締結スルコト並日露兩國ヲ包含スル多數當事国間ノ条約ノ存廢又ハ改訂ノ問題ハ他日關係諸国間ノ共同決定ニ留保スルコトヲ予備交渉ニ於テ約束セシムルニ止ムルモ可ナルヘク又我方ノ對露債權ニ付テハ第一ノ方法トシテ勞農政府ヲシテ之ヲ承認セシムルコトニ努ムヘキハ勿論ナルモ露国側ニ於テ之ニ応スルコトハ「ゼノア」會議ニ於ケル彼等ノ態度ニ徴スルモ困難ナルヘク其ノ場合ニハ第二ノ方法トシテ此際露国側ニ於テ主義トシテ我方ノ債權ヲ認ムルニ於テハ其ノ額ノ減免ニ関シ後日協議ニ応スヘキ旨ヲ約諾スルモ差支ナカルヘシ尤モ列国ニ於テハ戰前債務ノ取立ニ重キヲ置クカ如キニ反シ我方ニ於テハ戰爭發生後ノ債務ニ全利害ヲ傾倒スルノ必要アル關係上其ノ間自ラ利害ヲ一ニセサル点アルコト從テ現ニ「ゼノア」會議中英仏伊白四國代表者ハ我方ト何等協議スルコトナク戰時債務ハ後日決定セラルヘキ歩合ニヨリ之ヲ

免除スルモ差支ナキ意思ヲ露国代表者ニ通告シタル等ノ事情ニ顧ミ本問題ニ関シ強ヒテ我方ノ主張ヲ枉ケサルニ於テハ他日我方ハ孤立ノ立場ニ陥リ結局主張ノ貫徹不能トナル虞アルニ付若シ露国側ニテ第二ノ方法ニ対シテモ飽ク迄反對スルニ於テハ更ニ考慮ヲ加フルコトトシ又私有財産問題ニ関シテハ前記債權問題ト同様ノ方針ニ依リ第一ニ勞農政府ヲシテ其ノ返還又ハ賠償ヲ認メシムルコトトシ第二ノ方法トシテ返還又ハ賠償ニ関スル實際の方法ハ後日協議ニ応スルコトトシ勞農政府ヲシテ主義上返還又ハ賠償ノ義務ヲ認メシムルコトトシ尚勞農政府ニシテ飽ク迄反對スル場合ニハ更ニ考慮スルコトトシ然ルヘシ而シテ後日正式交渉ニ於テ以上ノ方針ニ依リ諸種ノ条約並約束ノ成立ヲ見ルニ至リ國際義務ノ問題並尼港事件及北樺太問題ニ付テモ解決ヲ見タル際ニハ勞農政府ヲ正式ニ承認スルコトトシ然ルヘシ

一、以上ハ主トシテ露国側ヨリ提供シタル問題ニ付テ我方方針ヲ列記セルモノニシテ通商ニ関スル取極ハ追テ正式交渉ニ於テ之ヲ行フヘキ処其際ハ露国領域内ニ於ケル本邦人ニ付生命ノ安全私有財産權ノ尊重ニ関シ保障ヲ求メ又通商

二七九 六月二十三日 川上代表 ヨッフエ代表 会谈録

川上代表 日露非公式予備交渉開催ニ先立
チヨッフエ代表ヲ往訪シ会議ニ付打合せノ件

六月二十三日午後二時川上代表ハ露国側代表「ヨッフエ」氏ト面識ヲ得ル為宮川通訳官ヲ帶同シ同氏ヲ築地精養軒ニ訪問シタルニ同氏ハ大寝台ノ傍ニ会議用大「テーブル」肘掛椅子數脚ヲ入レタル客間ニ案内シ川上代表ノ来訪並病氣ノ為横臥ノ儘応接スルノ無礼ヲ謝シタル後後藤子爵トノ諒解ニ基キ御覽ノ如ク寢室ヲ改造シ會議ニ差支ナキ体裁ニ變更シタル次第ナリトテ居室ヲ示シタルニ付川上代表ハ本日ノ来訪ハ面識ノ為ニシテ會議ノ場所ハ政府ニ於テ配慮ノ筈ナレハ何等回答シ難キ旨ヲ答ヘ且先方ニ於テ頻リニ日本渡来後既ニ五ヶ月ヲ閲シタルヲ述ヘ交渉ヲ急クモノノ如ク明日ニモ交渉ニ入ルコトヲ希望シタルモ当方トシテハ来ル六月二十八日ヨリ開始ノ希望ナルコトヲ述ヘ其同意ヲ得タリ會議ハ日曜日ヲ除キ毎日二時間（正午ヨリ午後三時迄ノ間）トシ必要アレハ休会トナスコト會議ノ用語ハ便宜露語

及産業ノ自由ニ付テモ成ルヘク広汎ナル範圍ニ涉リ之ヲ保障セシムル様努ムルコト然ルヘシ

一、尚宣伝禁止及非侵略ニ関シテハ「ゼノア」ニ於テ協定セシト雖其ノ効果ノ持続ニ関シテハ疑ハシク而シテ勞農政府ハ依然世界革命ノ意圖ヲ拋棄シタルモノトハ思ハレス事
實ニ於テモ極東方面ニ於テ我國ニ對スル危險ナル宣伝ヲ行ヒ居ル形跡アルヲ以テ予備交渉ニ於テ此点ニ付嚴重ニ露国側ノ注意ヲ喚起シ帝國ノ安寧秩序ヲ害スル如キ宣伝又ハ行動ヲ行ハサルヘキ旨ノ了解ヲ得置キ後日正式ニ之ヲ約束セシムルコト然ルヘシ

一、以上ノ如クシテ予備交渉ニ入り更ニ進ンテ正式交渉ニ移ルニ於テハ交渉終了ニ至ル迄ニ相当ノ時日ヲ要スヘキ処其ノ間帝國臣民ノ露国入国ニ関スル不利不便ハ之ヲ放置スルヲ得サルニ付差当リ予備交渉ニ於テ(イ)従前ノ如キ便法ニ依ラシムルカ(ロ)露国側ヨリ査証官吏ヲ派遣セシムルカ(ハ)我方提案ニ係ル貿易事務官交換ニ同意セシムルカノ何レカニ依リテ速ニ之ヲ解決シ更ニ正式交渉ニ於テ適當ニ協定スルヲ要ス

ヲ以テスルコト議事録ハ双方談話ノ要領ヲ略記シ後五ニ照合スルコト會議ニ関スル對新聞紙公表ハ必要ニ從ヒ毎日會議終了後双方協議ノ上之ヲ為スコトトシタリ

尚「ヨ」代表ハ予備交渉中自分ノ意見ニテ応答シ本國政府ノ訓令ヲ受ケサルモ最後ニ至リ政府ノ認許ヲ受クルコトトスル旨申出タリ

前記ノ如ク會議ノ場所、日時、方法等ニ関スル談話アリタル後「ヨッフエ」氏ハ今回ノ非公式予備交渉ニ於テ従来行ハレタル後藤子爵トノ会谈ハ之ヲ存在セサルコトトスルモ同氏カ本國政府ノ訓令ニ依リ曾テ同子爵ニ提示シタル日露會議開催ノ為ノ露国側三条件ニハ何等變ハルコトナキコト露国側ハ「プレスチジ」ノ問題ヲ重大視スルコト等ヲ述ヘタリ

又「ヨッフエ」氏ハ雜談トシテ長春會議當時ニ於テ日露双方ノ意見甚タシク懸隔セルコト日本新聞ノ評價ヲ誤リタルコト等ヲ述ベタリ

川上代表ハ非公式予備交渉開始前今一度往訪ヲ約シ午後四時辞去シタリ

二八〇 六月二十八日 欧米局第一課調書

日露予備交渉会議場ニ関スル交渉顛末

加藤首相が後藤子爵ニ対シ我方ハ日露予備交渉開始ニ主義上異存ナキ旨政府ノ意嚮ヲ同子ニ回答シタル際会議ノ場所ニ付テモ帝國政府ハ「ヨッフエ」氏ノ病氣中ナル特別ノ事情ヲ諒トシ右予備交渉ヲ同氏ノ滞留セル精養軒「ホテル」ニ於テ行フニ異議ナキコトトシ而シテ会議ハ仮令非公式交渉ナリトスルモ苟クモ政府代表者間ノ交渉ナル以上「ヨッフエ」氏ノ寢室ニ於テ之ヲ行フヲ得サルニ付會議室ハ別ニ同「ホテル」内ニ之ヲ設クヘキ旨ヲ加藤首相ヨリ後藤子爵ヘ通シ置キタルヲ以テ政府ニ於テ右ノ次第ハ同子爵ヨリ「ヨッフエ」氏ヘ通セラレタルコトト了解セリ

然ルニ其後日露間ニ予備交渉開催ノコトニ決定シ我方ニ於テ會議室ノ準備ニ付露国側ト打合ヲ為スニ至ルヤ意外ニモ「ヨッフエ」氏ハ會議室ニ付テハ六月七日後藤子爵日露予備交渉開始ニ関スル日本政府ノ意嚮ヲ實ラシテ自分ト会见シタル際後藤子爵ハ自己ノ寢室ニ充テ居ル室ニ適當ナル設備ヲ加フルニ於テハ同室ニ於テ之ヲ行フモ差支ナカルヘキ旨ヲ答ヘラレタリト述ヘタリ玆ニ於テ我方ニ於テハ政府ハ

斯ノ如キコトヲ承諾シタルコトナク「ヨッフエ」氏ノ寢室ニ於テ會議ヲ行フカ如キコトニハ同意シ得サル旨ヲ説明シ先方モ「ヨッフエ」氏寢室以外ニ會議室ヲ設クルコトニ同意シタル処六月二十七日後藤子爵ハ森孝三ヲ「ヨッフエ」氏ノ許ニ遣ハシ「ヨッフエ」氏寢室ヲ名義上會議室タルコトトスヘキ旨申入レシメタル趣ヲ以テ「ヨッフエ」氏ハ更ニ自己ノ寢室ニ於テ會議ヲ行フコトニ付後藤子爵ヨリ正式申入アリタリト主張スルニ至リ我方ニ於テ別ニ會議室ヲ設クルコトヲ飽ク迄主張スルヤ「ヨッフエ」氏ハ遂ニ自己ノ寢室ノ隣室ヲ會議室トスルコトニ同意スルニ至リタルモ之カ為ニ新聞記者ノ使用セル室ヲ開渡サムコトヲ我方ニ希望セリ右ハ予テ「ヨッフエ」カ本邦新聞記者団ト紛紜ヲ醸セルニ依リ此ノ機會ニ於テ帝國政府ヲシテ右記者団ヲ圧迫セシメムトスル魂胆ニ出ツルモノト察セラルル処政府ニ於テハ此ノ如キ私的問題ニ関知スルヲ得サルヲ以テ露国側希望ヲ拒絶シタリ

二八一 六月二十八日 欧米局第一課調書

日露予備交渉會議室選定顛末

(島田副領事記)
大正十二年六月二十三日夕島田副領事ハ松平欧米局長並東郷第一課長ヨリ會議室問題ニ付左記ノ趣旨ニテ「レーウィン」秘書官ト懇談スベキ旨ノ命令ヲ受ケ次デ二十四日午前中松平局長ヨリ電話ニテ委細訓令ヲ受ケタリ

會議室ハ精養軒「ホテル」二階 Ballroom ニ之ヲ設ケ「ヨッフエ」代表以下ハ居室ヨリ右 Ballroom 迄出張スルコト
右ニ対シ先方異議ヲ唱フル時ハ第二案トシテ第三十一号第三十二号又ハ第二十九号室ノ如キ「ヨ」氏寢室ト隣接セル室ヲ會議室ト指定スルコト

右第二案ニ対シテモ尚且先方ニ於テ異議アルニ於テハ第三十号即 Royal Suite 即「ヨ」氏寢室ヲ帝國政府ニ於テ會議室トシテ声明設備シ「ヨ」氏ノ寢室ヲ隣接室ノ何レカニ移転セシムルコト

以上ノ訓令ニ基キ島田副領事ハ六月二十四日午後三時「レーウィン」秘書ト会见スルコトナレリ

第一回 島田「レーウィン」会见

二十四日午後三時島田ハ「レーウィン」ト会见シ先ヅ前頭訓令第一案ニ付述ブル所アリタル処「レ」ハ本件ニ関シテ

ハ予テ後藤子爵側ヨリ話モアリ「ヨ」代表ノ寢室ニ於テ會議ヲ行フコトナリ既ニ了解成立シ居レリ随テ何等問題トナシ居ラズ加之「ヨ」氏ノ病狀ハ斯々ト委細説明シ事宜ニ依リテハ阪本博士ト会谈セラレタキ旨ヲ申述ベ更ニ当方ノ申分ニ耳ヲ傾ケズ依テ島田ハ一応引取り改メテ參上スベキ旨ヲ述ベ帰館セリ

第二回会见

島田ハ六月二十五日第一回会见ノ模様ヲ松平局長ニ報告シタル処右ハ更ニ大臣、首相側ニ伝達セラレ其ノ結果引続キ島田ニ於テ「レ」ト会见シ大臣ノ名ニ於テ左記ノ案ヲ提出スベキ旨ノ訓令發セラレタリ

「ヨ」代表病軀ノ実狀ヲ考慮シ「ヨ」代表寢室即第三十号室ヲ帝國政府ニ於テ會議室ト選定シ之ニ要スル室代、設備等ハ我政府之ヲ負担ス、「ヨ」代表ハ隣接室中ノ一ニ寢室ヲ設ケラレレヨリ會議室ニ出席セラルルコトトシタシ尤モ會議後引続キ「ヨ」氏ガ會議室ニ残留スルコトハ之ヲ默認ス

依テ島田ハ二十六日「レ」ト会见シタキ旨申入レタルニ「レ」氏ハ二十五日夕ナレバ好都合ナル旨回答ノ次第モア

リ島田ハ六月二十五日午後八時半「レ」ヲ訪問シ前陳ノ趣旨ヲ述ベタルニ「レ」ハ「ヨッフエ」代表ノ室ニ入り約四十分間会谈ノ末「ヨ」ニ於テ島田ニ面会シタキ旨申出タル由ヲ伝ヘタルニヨリ島田ハ入室シタルニ「ヨ」代表ハ極メテ丁重ニ引見シ日本側ノ言分ハ尤モナルモ実ハ余ハ肺病モアリ多量ノ空氣ヲ要シ長日月横臥スルヲ要スルニヨリ隣室ノ如キ小室ニテハ寢室トシテ使用不可能ナリ又日本政府ノ費用ヲ負担シ居レル室ニ於テ余ガ露国代表トシテ横タハリ居ルコトハ心苦シキコトニシテ主義上不同意ナリ就テハNo. 30号ヲ会議室トスルコト並ニ余ノ寢室ハ他ニ設ケタル由ヲ声明スルコトトシ余ハ依然No. 30号室ニアルコトトシタシ尚室代、設備（家具ハ三週間ノ約束ニテ借入レタルモノニシテ其代価七百円内外ナリ）等ハ余ニ於テ負担シタシ兎モ角御覽ノ通り寢室ノ体裁ヲ全然取り去リ會議室ノ体裁ニ改メタルコトニ特ト注意ヲ払ハレタシ

尚右会谈中「ヨッフエ」氏ハNo. 31号室ガ會議室トナル様ノコトアリト仮定セバ余ハ松葉杖ニテ出席スベク外部ヨリ窓ヲ経テ見エヌ様「ブライインド」ヲ下セバ可ナリトノ言ヲ洩セリ

ニ寢台ヲ以テスル件ハ黙認セラレタリ

尚松平局長ヨリ二十七日精養軒ニ赴キ二室移転問題其他會議室設備ノ件ニ付手配スベキ旨島田ニ命令アリタリ

第四回会見

六月二十七日午後一時島田ハ「レーウイン」方ニ赴キ前記局長ノ命ニ基キ実行上ノ問題ニ取掛カラントセシニ「レ」氏ハ実ハ今朝公式ノ通知ニ接シ第三十一号第三十二号ハ表面會議室ト政府ニ於テ声明スルモ事實ハ「ヨ」代表寢室ニ於テ會議ヲ行フコトニナレリト云ヒ随テ移転其他ノ問題ハ自然解決トナリタル次第ナリト語リタルガ島田ハ不可解ナリシニヨリ公式トハ何人ヨリノ通知ノコトナリヤト問ヒタルニ右ハ後藤子爵側ヨリナリト答ヘタリ依テ島田ハ本省ニ歸リ其旨東郷課長ニ報告シタル処課長ハ大臣並ニ浅井内閣總理大臣秘書官ニ問合セタルニ何レモ斯カルコトナシトノ回答ナリシ由次デ松平局長ト共ニ島田ハ大臣室ニ赴キ川上代表松平局長列席ノ席ニ於テ前回会見ノ際決定シタル通り決行スルコトトナリ左ノ通り「レーウイン」ニ申込ムベキ旨島田ニ命令アリタリ

帝国政府トシテハ前日ノ決定ヲ變更シタルコトナシ即チ

午後十一時ニ至リ「ヨ」氏疲労シタル様子ニ付島田ハ其儘引取り二十六日朝右ノ次第ヲ松平局長ニ報告シ次テ大臣ニ報告セリ

第三回会見

二十六日午后二時大臣ノ命ニ基キ島田ハ精養軒ニ赴キ「レ」氏ト会見当方最後ノ決定案即チ是非共先方ノ承認ヲ得度キ案トシテ左記ノ通り「レ」ニ声明セリ

帝国政府ハ第三十一号第三十二号ヲ會議室ト声明シ度キニ付之ヲ譲受ケタシ「ヨ」代表ハNo. 30号ニ残リ之ヲ寢室トシテ使用シ同室ヨリ第三十一号室迄出張セラルルコトト致度シ會議中ハ「ヨ」氏ガ長椅子ニ横タハルコトヲ希望ス

右ニ対シ「レ」氏ハ之ヲ「ヨ」氏ニ伝ヘ種々審議シタル後之ニ応諾スルコトトナリタル旨ヲ述ベ唯希望トシテ長椅子ニ代フルニ寢台ヲ以テセンコトヲ請ヒ（阪本博士モ委曲説明スル所アリタリ）又二室ヲ失フ關係上之ニ代フルニ更ニ二室ヲ得度旨ヲ申添ヘタリ

右ノ回答ニ接シタルヲ以テ島田ハ午后五時半頃帰省シ其ノ旨松平局長並ニ大臣ニ報告シタル処大臣ハ長椅子ニ代フル

第三十一号第三十二号室ヲ會議室ト声明スルモ事實上

ハ第三十号即チ「ヨ」ノ寢室ニ於テ會議スルコトニ異議ナシト言フガ如キ通知ヲ公式ニ「ヨッフエ」代表ニ出シタルコトナシ

第五回会見

六月二十七日午后四時半島田ハ前述ノ趣旨ヲ体シ「レーウイン」ヲ往訪シ右ノ趣旨ヲ伝ヘタルニ「レーウイン」ハ百方弁明ニカメ結局「ヨ」代表ガ寢室ヨリ出デテ隣接會議室ニ出席スルニ異議ハナキモ「ヨ」氏ニ対シ會議中寢台ニ横臥センコトヲ許サレタシト云ヒ又第三十一号第三十二号二室ニ代フルニ他ノ室殊ニ記者団俱樂部室（No. 26）、報知電通用室（No. 33）ノ両室ヲ与ヘラレタシト答ヘタリ茲ニ於テ島田ハ北村「ホテル」支配人ノ来席ヲ求メ空室ノ数ヲ調査シタルニ僅ニ三階ニ一室アルノミ依ッテ島田ハ「レ」ニ対シ一室ニテ我慢セラレンコトヲ求メタルニ「レ」ハ之ニ応ゼズ事務室、応接室、「シワルサロン」秘書寢室即三個ノ必要ヲ充タシ居レル二室ニ代フルニ僅ニ三階ノ一室ヲ以テスルガ如キハ到底不足ナリ何故日本政府ハ新聞記者俱樂部用室、報知電通用室ヲ与ヘラレザルヤ、露国代表ノ利

益ト新聞記者ノ利益ト何レガ重要ナルヤ後藤子爵秘書森孝三氏ノ通知ハ公式ノモノニアラズト云フヤ等種々昂奮的言辭ヲ弄シタリ

当日島田ハ昼食、夕食共未ダ了ラザルニ付暫時休息センコトヲ求メ午後七時過ぎ松平局長ニ対シ電話ニテ単簡ニ事ノ成行ヲ報告シタル処局長ヨリ第三十一号一室ヲ会議室トシ日本代表ガ第三十二号室ヲ通過シ得ルコトトシテモ可ナリトノ回答ニ接シタルニヨリ其趣旨ニテ「レ」ニ伝ヘ即チ会議室トシテハ一室ヲ取ルノミナレバ其ノ代リニ三階ノ一室ヲ与フレバ可ナルニ非ズヤト云ヘルニ「レ」ハ稍当惑シタル態度ニテ右様取計フコトハ為シ得ル次第ナルモ此際是非共新聞記者用ノ室ヲ得タシト主張シ島田ハ強ヒテ記者団室ノ件ハ触レズトモ解決シ得ル次第ニシテ殊ニ会議ハ明二十八日ノ正午ニモ差迫リ居ルコト故此際当方希望通り決定セラルルコト至当ナリト思考スル旨極力論弁シタル処「レ」ハ「ヨ」代表ノ室ニ入り約一時間協議ノ末島田ニ対シ左記二個ノ覚書ヲ相互交換センコトヲ求メタリ

(甲) 島田副領事ノ署名スベキモノ (要領)

労農代表「ヨッフエ」ガ今朝得タル通牒即チ日本帝国政

コトハ誠ニ解シ難キ所ナリト論弁シ兎モ角午後十時トナリ相互ニ食事モセズ大ニ疲労シタレバ本日ノ会见ハ之ニテ休会トシタシト述ベタルニ「レ」モ誠ニ然リトテ散会シタリ

前記会见ノ模様ハ六月二十八日午前大臣次官川上公使松平局長列席ノ席上之ヲ報告シタル処大臣ハ早速「ヨッフエ」方ニ赴キ指定ノ会議開催時間モ間際ニ迫リ居ルコト故兎モ角第三十一号室ニテ本日ノ会議ヲ行フコトトシタク然ラザレバ今日ノ会见ヲ延期スベキ旨申入ルベキ旨訓令セラレタリ

第六回会见

六月二十八日午前十一時十分島田ハ「レーウィン」ヲ往訪シ前述ノ趣旨ヲ申入レタルニ唯今「ヨッフエ」寢室閉鎖中(注射中)ナレバ暫時待タレタシト云ヒ程経テ「ヨッフエ」会见シタシトノコトナリト云ヘルニ付島田ハ其寢室ニ入レルニ会議場ヲ同室内ニ既ニ準備シアリ「ヨ」代表ハ衣服ヲ改メ居リタリ「ヨ」代表ハ島田ニ対シ本日ハ気分悪シト前提シ貴官ハ会議場問題ノ如キ小問題ノ為一千回モ種々ナル問題ヲ提出シタリ就テハ本日ハ第一千一回ノ提案ヲ承

府ハ会議室トシテ第三十一号第三十二号ノ二室ヲ指定シタルモ事実上会議ハ「ヨ」代表ノ寢室ニ於テ行ハルルコトニ異議ナシトノ後藤子爵側ヨリノ通知ハ日本帝國政府ノ公式ノ通牒ニハ非ザルコトヲ外務大臣ノ名ニ於テ茲ニ声明ス

(乙) 「レーウィン」秘書ノ署名スベキモノ (要領)

労農代表「ヨッフエ」ハ日本政府ヨリ會議室ハ第三十一号ニ之ヲ定ム「ヨ」代表ハ第三十号室ヨリ之ニ出席スベキ旨ノ通知ニ接シタル処「ヨ」代表ハ最モ不愉快ナル出来事ヲ惹起シタル新聞記者団ノ利益ニ比シ勞農代表ノ利益ガ輕視セラレタル模様アルハ実ニ不快ヲ感ズル所ナリ

島田ハ右ニ対シ主義上斯カル書類ヲ作成スルガ如キコトハ好マシカラズト思考ス又余ノ署名スベキ書類ナリトテ示サレタル分ノ内容ニ付「外務省ハ斯カル内容ノ通牒ヲ貴方ニ送リタルコトナシ」ト云フ趣旨ヲ述ブルハ差支ナキモ特ニ後藤子爵側ヨリノ通知ヲ云為スルハ後藤子爵側トノ關係ヲ險惡ナラシムル虞モアリ余ハ之ヲ避ケタシト思考ス又「ヨ」代表ノ利益ヲ記者団ノ利益ヨリモ輕視ス云々ト云フガ如キ

ハラント云ヒ自分ハ世界ノ六分ノ一ヲ有シ人口一億八千万ヲ有スル大露國ノ代表者ナルコトヲ述べ次デ日本新聞記者ニ対スル罵言ヲ発シ望月小太郎氏ヲ嘲リ日本警視庁ヨリ精養軒ニ派遣シアル警察官ヲ「スパイ」ナリト称シ自分ハ十五年間「スパイ」ト闘ヒタレバ「スパイ」ノ心裡状態ハ之ヲ熟知スト語り余ノ秘書官モ役立タヌ奴ナリト島田ノ面前ニ於テ叱責シ頗ル昂奮セル不平ナル態度ニテ徒言ヲ並ベタル末第三十一号室ヲ會議室トシテ之ヲ日本政府ニ譲渡シ且ツ會議中日本代表ガ第三十二号室ヲ通行スルコトヲ許シ余ガ第三十号ヨリ第三十一号室ニ出席スベキコトハ昨夕秘書ヲ經テ書類ニテ貴下ニ明言済ナリ(島田ヨリ斯カルコト無カリシ様記憶スト答ヘ「ヨ」代表ハ調査スル所アリタルガ要領ヲ得ズシテ了レリ)唯条件トシテ二個ノ書類「レ」ト交換センコトヲ求メタリ然シ今ヤ本条件ヲモ撤回スベキニヨリ即チ全部貴需ニ応ジタル次第ナリ就テハ早速会場ヲ準備スルコトトシタシ準備整ヘバ一時間先ニ本代表ニ通知アリタシト答ヘタリ時二十二時二十五分ナリ

依リテ直ニ北村支配人ニ対シ第三十一号内ニ設備スベキ旨ヲ伝ヘ帰省後右ノ趣ヲ大臣川上公使松平局長列席ノ席上報

告シタリ午後一時十分会場準備成立シタル趣北村支配人ヨリ電話アリ松平局長ハ午後二時ヲ会議開催時ト定メラレタルニヨリ島田ヨリ其旨宮川通訳官ヨリ「ヨ」代表側へ通知セリ

二八二 六月二十八日 川上代表 ヨッフエ代表 会議(第一回)議事録

日露會議ニ関スル非公式予備交渉議事録

(第一回正式会見)

大正十二年六月二十八日東京築地精養軒ホテルニ於テ(午後二時乃至同五時)

出席者

日本側 「ポーランド」国駐節特命全權公使 川上俊彦

公使館一等通訳官 宮川船夫

露西亞側 極東諸邦駐派特命全權代表 ア・ヨッフエ

秘書官 イ・カ・レーヴィン

「ヨッフエ」代表ヨリ會議ノ場所ニ関シ種々ノ誤解アリタル事ニ付キ詳細申出タルモ川上代表ハ會議ノ場所ニ関シテハ外務省ニ一任シアルヲ以テ何等応答スルコトヲ避ケタク本日外務大臣ヨリ此ノ場所ニ於テ貴代表ト交渉スヘキ旨ノ

ニ當リ貴代表ト右會議開催ニ関シ双方ニトリ受諾シ得ヘキ基礎ヲ発見スルニ全力ヲ尽スヘキコトヲ明言ス抑今回交渉ノ成功ヲ期スル為ニハ互ニ誠意ト尊敬ヲ以テ事ニ當ラサルヘカラス予ノ意見ヲ以テスレハ日本政府ハ勞農政府ニシテ或条件ヲ受諾スルニ於テハコレヲ承認スルニ異議ナカルヘシ今右条件ヲ列挙スル前ニ一言シ度キハ日露親善ノ道程ニ横タハル難關ハ日本全国民ノ憤怒ヲ惹起シタル尼港事件タルコト之ナリ依ッテ先ツ本問題ヨリ解決スルヲ必要ト思考ス北「サガレン」ノ売却ハ尼港問題ノミナラス其他ノ日露係争問題ヲ容易ニ解決スルノ可能ヲ与フルモノト信ス「サガレン」ノ如キ一島ヲ二国ニテ領有スルコトハ將來種々ノ紛争ヲ惹起スルノ虞アルヲ以テ此際勞農政府ニ於テ相当價格ヲ以テ日本ニ譲渡セラレンコトヲ希望セサルヲ得ス就イテハ勞農政府ニ於テ果シテ右売却ニ応セラルヘキヤ否ヤ貴代表ノ意見ヲ了知シ度シト述ヘタリコレニ對シ

「ヨッフエ」代表ハ本件ニ関シテハ既ニ五月十日付後藤子爵宛書ニ尽セリ予ハ主義トシテ売却ニ同意ナリ露国ハ戦争及革命ノ為經濟財政上ノ破綻ニ遭遇シタルヲ以テ露国ソ

命ヲ受ケタルヲ以テ罷リ出タル次第ナリ貴代表ニ於テハ交渉ノ場所ヲ露国ニ移シ度キ希望ヲ我外務大臣ニ致シタル由ナルカ果シテ右ノ如キ御希望ヲ有セラルルヤト尋ネタルニ

「ヨッフエ」代表ハ第一露国政府トシテ日露交渉(此ノ非公式予備交渉ヲモ含ム)ヲ露国ニ移サルルニ於テハ日本代表ニ對シ露国ト既ニ外交關係ヲ有スル外国使臣ニ對スルト同様ノ優遇ヲ与フルコトニ吝ナラサルヘシ次ニ予個人トシテハ交渉ノ場所ハ何処ニテモ差支ナク只一時間前ニ會議ノ場所ヲ御通告アランコトヲ希望スル旨答ヘタリ

コレヨリ兩代表ハ會議ヲ築地精養軒「ホテル」第三十一号室ニ於テ毎日午后一時乃至三時迄(但日曜日ヲ除ク)行フコトトシ議長ハ是レヲ置カサルコト新聞発表ハ双方協議ノ上日露兩文同一内容ノ公表ヲ作成シコレヲ発表スルコト但露国代表ト日本新聞紙ノ關係ニ鑑ミ日本新聞ニ對スル発表ハ露国側ニ於テ之ヲ為ササルコトトナレリ此ニ於テ川上代表ハ

予ハ露国ト親善關係ヲ復旧セントスル希望ヲ有スル日本政府ノ命ニ依リ日露會議ニ関スル非公式予備交渉ヲ開始スル

ノモノノ回復ニモ多数ノ年月ヲ要スヘク其間「サガレン」問題ヲ解決セサレハ日本ハ依然同島ニ占拠シ同島ヲ開發シテ利益ヲ収ムヘケレハ売却次第ニテハ之ヲ売却スルコトニ政府ニ於テモ異議ナカルヘシト思考ス五月十日ノ覚書ニハ同島ノ軍事上及輸送上ノ価値並ニ太平洋ニ於ケル石炭庫トシテノ価値ニ鑑ミ予限リノ意見トシテ其價格十億留以下ナルコトヲ得サル旨申シ置キタルカ今回政府ニ於テ本官ノ報告ニ基キ學者、専門家ノ委員會ヲ組織シ同島ノ經濟的価値ヲ評価セシメタル処其ノ価値莫大ナリ故ニ政府トシテ正式ニ申出ツル場合ハ恐ラク十億留以上ナルヘシト思考スル旨ヲ述ヘタリ

川上代表ハ日本學者及専門家ノ評価ニ依レハ同島ノ經濟的価値斯ク大ナルモノニ非ス且同島ノ富源ヲ開發スルニハ多額ノ資本ヲ投スルコトヲ要スルヲ以テ價格一億五千万円内外ヲ以テ相当價格ト思考スル旨ヲ述ヘ且ツ本件ハ重要問題ニ付キ明日更ニ審議スルコトト致シ度シト提議シ「ヨッフエ」代表ノ同意ヲ得タリ

此ニ兩代表ハ左ノ如キ新聞公表ヲ作成シ本日ノ會議ヲ終レ

大正十二年六月二十八日発表

日露両国代表ハ本日午後二時乃至五時築地精養軒第三十一号室ニ会合シ日露會議ニ関スル非公式予備交渉ノ場所日程ヲ議シ明二十九日ヨリ日曜日ヲ除キ毎日午後一時乃至同三時迄前記「ホテル」ニ於テ交渉ヲ行フコトトシ明日ノ会合ニ於テハ尼港問題及「サガレン」問題ニ関シ意見ノ交換ヲ行フコトニ決定セリ

露国側ハ日本新聞トノ関係ニ鑑ミ其ノ或ルモノニ本公表ヲ発表セサルコトトナレリ

出席者

日本側 川上代表

宮川一等通訳官

露国側 「ヨッフエ」代表

「レーヴィン」秘書官

付録

一、永井通商局長ノ依頼ニ依リ川上代表ヨリ露国査証官ノ留置方提議シタルニ「ヨッフエ」代表ハ結局査証官二三名ヲ留置キ日本漁業家ノ便宜ヲ計ルコトニ同意セリ

二、「ヨッフエ」代表ハ本国政府ヨリ「モスコ」ニ開催セラルヘキ農業博覧会ニ日本人ヲモ参加セシムルコトニ決定セリトノ通報ニ接シタル旨川上代表ニ申出テタリ

大正十二年六月二十九日（午後一時乃至四時）

築地精養軒「ホテル」ニ於テ

出席者日本側露国側共前日ノ通

川上代表ハ二十八日ノ議題トナリシ「サガレン」売却問題ニ関シ露国側評価ノ甚タ高価ナリト思考スル旨ヲ述ヘ双方折り合ヒ得ヘキ価格ヲ示サレンコトヲ求メタルニ「ヨッフエ」代表ハ露国政府カ学者専門家ヨリ成ル委員会ノ調査ニ基キ予ノ評価ヲ以テ寧ロ低キニ過クルモノトナスモノノ如シ同島ノ売却価格ハ其包蔵スル自然ノ富源ノ価値ニ政治上軍事上ヨリ見タル価値ヲ加ヘサルヘカラス又同時ニ露国民ヲシテ同島売却ノ応諾シ得ヘキモノナルコトヲ諒解セシムルコト必要ナリ例ヘハ売却十億留ト云ヘハ「ゼノア」會議當時問題トナリシ露国ノ經濟復興ニ要スル金額ノ約三分ノ一ニ当ルヲ以テ無知ノ農民ト雖モ斯ル価格ナラハ同島ヲ売却スルニ異議ナカルヘキナリ又露国民ハ同島ヲ売却スル以上日本カ其ノ敵国タラサルノミナラスコレカ与国ナリトノ信念ヲ得サルヘカラス例ヘハ露国カ波蘭ト戦争ヲ為スカ如キ場合日本カ之ニ乗シテ露国ノ不利トナルコトヲ為ササルカ如シ然ルニ日本ハ今尚「サガレン」ニ駐兵シ且ツ白党ニ

三、「ヨッフエ」代表ハ日本渡来後屢々本来領事ニ於テ執行スヘキ事件ニ付日本人側ヨリ日々種々ノ問合及依頼アリ殊ニ最近其数ヲ増加シタルニツキ自分ノ許ニ領事部ヲ置カン考ナリト述ヘタルニ付川上代表ハ斯ル場合双方ノ便益ノ為日本政府ハ試案トシテ曩ニ貿易事務官交換ヲ提議シタル次第ニ非サヤト反問シタルニ「ヨッフエ」代表ハ右試案ハ駐在地等ニツキ相互主義ニ反シ露国ニ不利ナル点アリ旁々之ヲ拒絶スヘキ旨本国政府ニ意見具申シ置ケリト答ヘタリ依ッテ川上代表ハ右試案ハ日本政府ニ於テ別ニ最終的ノモノト思考シ居ル次第ニ非サルヘク露国側ヨリ修正ヲ希望スレハ必スシモ之ニ応セスト言フニ非サルヘシト思考スル旨申置ケリ「ヨッフエ」代表ノ口吻ヨリ察スルニ露国側ハ貿易事務官交換ニ関スル提議ヲ容ルレハ日本側ハ差当リ露国ト今回ノ如キ交渉ヲ為ササルヘシト思考シ居ルモノノ如シ

二八三 六月二十九日 川上代表
「ヨッフエ」代表 會議（第二回）議事録

日露會議ニ関スル非公式予備交渉議事録

（第二回正式会見）

根拠地ヲ与ヘツツアリト述ヘタルニ川上代表ハ日露間ニハ過去数年ニ亘リ種々ノ誤解ナキニアラサルモ日本国民及政府ノ露国ニ対スル同情及善隣ノ友誼ニ至リテハ何等渝ル所ナシ只「サガレン」駐兵ハ悲ムヘキ尼港事件ノ保障占領ナレハ其解決ヲ待チテ後始メテ撤兵スヘク又日本ハ露国側カ虞ルルカ如ク白党ニ根拠地ヲ与ヘ之ヲ支持スルカ如キコト絶対ニナシサレハ今回露国政府ニ於テ北「サガレン」ヲ日本ニ売却スルニ同意センカ日本国民ハ之ヲ以テ日露親善ノ表徴トナスヘク尼港問題其他ノ係争問題ヲ解決スルニ種々ノ便宜アルヘシト思考ス

之ニ対シ「ヨッフエ」ハ尼港事件ハ日本ノ出兵ニ基ケル一ノ出来事ニシテ虐殺ハ暴徒ノ行為ナリ本件ニ関シテハ露国側ニ日本ヨリモ更ニ確実ナル材料アリト思考ス如何トナレハ當時尼港全市ハ焼土ニ帰シ事件前ノ在者ニシテ生存セルモノ僅ニ三名ノ露国人アリタルノミナリ而シテ事件後第一ニ同港ヲ訪レタルハ「アントーノフ」時代ノ露国汽船ナレハナリ尼港事件ト「サガレン」問題ヲ関連セシムルコトハ同意シ難シト述ヘタリ

依ッテ川上代表ハ北「サガレン」売却問題ハ露国側ニ於テ

尼港事件ト切離スコトヲ主張スルニ於テハ之ト関連セシメサルコトトシテ差支ナキ旨ヲ答ヘタリ
「ヨッフエ」代表ハ売価ニ関シ學者專門家ヨリ成ル委員會ノ評價ナルモノハ極メテ抽象的ナルヲ以テ調査ノ基礎ヲ何処ニ置クカニ依リ如何様ニモナルモノナランモ露国政府ハ十億留以下ニ折合フコトニハ同意セサルヘシ尤モ売買ニ際シテハ価格支払ノ方法モ重大要件ナリト述ヘタリ
茲ニ於テ川上代表ハ「サガレン」ノ売価ニ関スル意見ハ未決ノ儘トスルコトヲ提議シ「ヨッフエ」ノ同意ヲ得「サガレン」問題解決ノ第二案トシテ露国政府ニ於テ日本政府又ハ会社ニ同島ニ於ケル利権ヲ与フヘキヤト尋ネタルニ「ヨッフエ」ハ利権ナル意味カ同島ニ於テ行政権、警察権ヲ行使シ軍隊ヲ駐屯セシメ得ルカ如キ租借地ノ意味ニ非スシテ単ニ同島ニ於ケル地下埋藏物及其ノ他ノ天然富源ノ開発ヲ意味スルモノナルニ於テハ何等異議ナシト思考ス但シ日本ハ「シンクレーヤ」ニ對シ露国カ支払フヘキ利権契約破棄ノ賠償ヲ代リテ支払ハサルヘカラス又利権ハ日露合併会社ニ提供スルコトト致シ度シト答ヘタルニ依リ川上代表ハ「カラハン」カ本年初同代表莫斯科通過ノ際勞農政府ノ意

向トシテ樺太ニ於ケル利権ヲ日本政府又ハ日本会社ニ与ヘ差支ナキ旨ヲ声明シタルコトヲ引用シ日本ハ合併ヨリモ日本政府又ハ日本会社ニ對シ利権ヲ与ヘラレンコトヲ希望スル次第ナリト述ヘ「シンクレーヤ」ニ對スル破約料ノ如何程ナルヘキヤヲ尋ネタルニ「ヨッフエ」代表ハ何等承知セサルモ大シテ多額ト思考セサル旨回答セリ
川上代表ヨリ樺太売却ト利権借与ト何レヲ撰フヘキヤヲ尋ネタルニ「ヨッフエ」代表ハ売却ナラハ高価ナラサルヘカラスト答ヘタリ
右ニテ會議ヲ打切り尼港問題ハ次回ノ會議ニ於テ議スルコトトシ左ノ新聞公表ヲ作成セリ
日露兩國代表ハ本二十九日ノ會議ニ於テ「サガレン」問題ノ全般ニ亘リ意見ヲ交換セリ

出席者前日ノ通

付 録

一、會議後「ヨッフエ」代表ハ余談トシテ同代表付トシテ領事部ヲ置キタキ意向ヲ仄メカセリ
一、勞農政府カ鈴木重治ノ利権ヲ批准セサリシ為或ル新聞ハ勞農政府ヲ攻撃シ居ル処右ハ却テ面白カラサル結果ヲ

惹起スヘキニ依リ外務省ヨリ新聞紙ニ注意ノ方法ナキヤ若シ方法ナシトセハ親ラ筆ヲトリ勞農政府ノ立場ヲ弁護セサルヘカラサルニ至ルヘシト述ヘタリ

二八四 六月三十日 川上代表
ヨッフエ代表 會議(第三回)議事録

日露會議ニ關スル非公式予備交渉議事録

(第三回正式會見)

大正十二年六月三十日(午後一時乃至三時)

築地精養軒「ホテル」ニ於テ

出席者日本側露国側共前日ノ通

本日ノ會議ハ天候ノ為「ヨッフエ」代表ノ気分勝レサルモノノ如ク議論区々トナリ何等要領ヲ得ルコトナクシテ終リタルカ之ヲ総合スルニ其大要左ノ如シ
川上代表ハ前回ノ続キトシテ「サガレン」ニ於ケル利権ハ長期ト解釈スル旨ヲ述ヘタルニ對シ「ヨッフエ」代表ハ旧極東共和国ノ法律ニ依レハ利権ノ期間ハ三十六ケ年ヲ出ツルコト能ハサリシモ勞農露國ノ現行法ニハ之ニ関シ何等制限ナキヲ以テ九十九ケ年迄ノ期間トナシ得ルモノト思考スル旨回答セリ

川上代表ハ右ニテ「サガレン」問題ヲ打切り尼港問題ニ移

ルヘシトテ尼港事件ニ對シテハ露国側ニ於テ全責任ヲ負ヒ一、日本領事、領事館員及居留民ノ虐殺ニ對シ遺憾ノ意ヲ表スルコト、二、尼港事件ニ依リ蒙リタル日本人ノ損害ヲ賠償スルコト、三、北樺太ヲ日本ニ売却スルカ又ハ同島ニ於ケル主要利権ヲ日本政府又ハ日本会社ニ提供スルコトヲ提議シタルニ「ヨッフエ」代表ハ尼港事件ニ對スル責任ハ日本ニ在リテ露国ニ存セス故ニ「サガレン」問題ヲ尼港問題ト関連セシムルコトニハ同意シ難シ「サガレン」問題ニ關シテハ兩方未タ確タル意見ノ一致点ナキニ付今先ツ之カ大体ノ經過ヲ明ニシタシトテ同島ノ売却問題ハ未解決ナルコト同島ノ利権問題ニ關シテハ露国側ハ全島ニ於ケルアラユル天然富源開発ノ為日露会社ニ利権ヲ与フルカ又ハ何等カノ形式ニ於テ露国政府ノ参与スル利権借与ヲ希望シ「シンクレーヤ」会社トノ利権契約破棄ニ對スル賠償金ハ日本側ニ於テ支払フヘキコト利権ノ意味ハ旅順租借ノ如キ意味ニ非サルヘキコトヲ述ヘタリ

川上代表ハ「サガレン」ノ売買問題ハ主義ニ於テ異議ナキモ價格ニテ折合ハス暫ク未解決ノ儘トナシタルコトニ諒解

スルコト又同島ノ利権問題ニ関シテハ日本ハ旅順租借ノ如キ利権ヲ得ントスルモノニ非ス同島ノ主要富源即チ油田、炭田、森林等ノ長期ニ亘ル開発権ヲ日本政府又ハ日本会社ニ供与センコトヲ求ムルモノニシテ日露合併ハ希望セス尤モ露国側ノ所謂 Participation ノ意味カ利権ヨリ生スル利益ノ分配(例ヘハ収益ノ五分乃至六分)ナリトセハ日本ハ之ニ同意ナルヘシト思考スル旨答ヘタルニ

「ヨッフエ」代表ハ露国トシテハ日露合併ヲ希望スヘキモ若シ日本ノ希望スル形式ノ利権トナス場合露国ハ右利権ニ第三国ノ資本ヲ参加セシムルコトニ付キ何等カ制限ヲ付スヘキヤ否ヤノ問題起ルヘキモ之ニ関シテハ何等政府ノ意向ヲ知ル材料ナシト語レリ

本日ノ会議ハ「ヨッフエ」代表ノ申出ニヨリ三時ヲ以テ終了シタルカ会議後「ヨッフエ」代表ハ余談トシテ日本ハ會議中露国側ノ受諾シ得ヘキ「サガレン」撤兵期日ヲ明示セサルヘキヤト質問シタルニ付川上代表ハ露国側カ自分カ今日迄述ヘタル条件並ニ今後述フヘキ条件ヲ容レ正式条約ヲ締結シタル上ナラテハ撤兵スルコト能ハサルヘク又本會議円満結了前撤兵期日ヲ明示スルコト能ハサルヘシト答ヘタ

国ニ還付スヘキ意向ヲ声明スルコト能ハサルヘキヤ(尤モ「サガレン」問題ニシテ買収ニ依リテ解決セラルル場合ハ別ナリ)ヲ質問セリ

川上代表ハ「サガレン」ヨリ撤兵スルコトハ当然正式交渉ニ於テ決定スヘキコトナルヲ以テ夫レ迄ハ政府ニ於テ撤兵ノ期日ヲ明示スルコト能ハスト思考スルモ若シ尼港問題及「サガレン」問題ヲ円満ニ解決シ得レハ帝國政府ハ何等カノ形式ニ於テ正式交渉前或ハ「サガレン」ノ撤兵期日ヲ明示シ得ルヤモ知レスト思考スル旨回答セリ

「ヨッフエ」代表ハ日本ハ買収ヲ以テ「サガレン」問題ヲ解決スル唯一ノ方法トセラルルヤ又ハ他ノ方法ヨリモ之ヲ撰フモノナリヤト尋ネタルニ依リ川上代表ハ有利ナル利権ヲ提供スルコトモ解決ノ方法ナリト思考スル旨ヲ答ヘタリ

之ニ対シ「ヨッフエ」代表ヨリ然ラハ「サガレン」ノ売却問題ハ消滅シタル次第ナリト述ヘタルニ依リ川上代表ハ然ラス同問題ハ売買価格ニ関シ折合ハス未解決ノ儘留保シ居ル次第ナリト回答セリ

「ヨッフエ」代表ハ日本側ノ所謂正式交渉ノ意味如何ヲ尋

ルニ「ヨッフエ」代表ハ次回會議ニ「サガレン」問題ニ関シ露国側ノ条件ヲ陳述シ度シトテ次回會議ニ於テハ日本カ正式會議前本非公式予備交渉中「サガレン」ノ撤兵時期ヲ明示センコトヲ要求スル意志ナルコトヲ仄メカセリ

本日ノ會議ニ関スル新聞公表左ノ如シ

日露兩國代表ハ本三十日ノ會議ニ於テ「サガレン」問題ニ関シ更ニ詳細ナル意見ノ交換ヲ行ヘリ

出席者前日ノ通

二八五 七月二日 川上代表
ヨッフエ代表 會議(第四回)議事録

日露會議ニ関スル非公式予備交渉議事録

(第四回正式會見)

大正十二年七月二日(午後一時乃至四時半)

築地精養軒「ホテル」ニ於テ

出席者日本側露国側共前回ノ通

「ヨッフエ」代表ハ前回ノ會議ニ打合セタル通り「サガレン」問題ニ関シ提議スヘシトテ日本政府ハ自己ヲ拘束スル何等カノ形式ニ於テ正式交渉開始ニ至ル迄ノ間ニ露国ノ応諾シ得ヘキ期間ヲ定メ「サガレン」島ヲ撤兵シ之ヲ勞農露

ネ川上代表ハ正式日露會議開催ニ関スル予備条件ヲ提示シ意見ヲ交換シタル後之ヲ各自本國政府ニ傳達シ其ノ訓令ヲ待チテ覚書ヲ作成シ之ヲ基礎トシテ正式交渉ニ移ルモノト解釈スル旨回答シタルカ先方ハ現在交渉カ特ニ非公式予備交渉ト称スル理由ヲ解スルニ苦ムモノノ如ク之ヲ以テ正式予備交渉トナサンコトヲ希望スル意向ヲ仄メカセリ(此ノ意向ハ前二回ノ會議ニ於テモ窺知シ得タリ)

「ヨッフエ」代表ハ現在交渉カ日露會議ノ予備条件ニ関スルモノナル限り旧條約ニ依ル日本ノ既得權問題ノ如キハ過去一ケ年間露国カ日本人ニ対シ幾多ノ好意的讓歩ヲナシタルニ鑑ミ日本ヲ「ポーツマス」條約ヨリモ不利ナル地位ニ置カントスルモノニ非サルコトヲ証スルモノナルヲ以テ本問題ハ安心シテ正式交渉ニ讓ルヘキモノナリ又國際義務問題殊ニ戰爭債務ハ軍需品ヲ以テ支払ハレタルモノニシテ何等露国民ニ利益ヲ齎ラササリシノミナラス露国民ハ連合國ノ為數百万ノ人命ヲ犠牲ニ供シ然モ何等戰勝ノ分配ヲ受ケサル旨ヲ述ヘタルニ付川上代表ハ夫ハ露國力恣ニ戰爭途中ニシテ連合國ノ列ヲ脱シタルカ為ナルコトヲ指摘セリ

「ヨッフエ」代表ハ日本ハ尼港事件ノ解決ヲ見サレハ「サ

ガレン」ヨリ撤兵シ得スト云ハルモ右ハ日本ニ於テ帝国主義的野心ヲ包蔵スル為ナリト解釈スルノ外ナシ尼港事件ハ「トリヤピーツイン」一派ノ「バルチザン」ノ惡ムヘキ行為ニシテ露国政府ニ責任ナシ且露国ハ「トリヤピーツイン」ヲ裁判ニ付シ同人及共犯者ヲ処刑セリ又日本ハ西伯利亞軍事占領シタルモノナルヲ以テ其期間起リタル事件ニ対シテハ露国ニ責任ナシト申出テタルニ依リ川上代表ハ日本ハ西伯利亞占領シ軍政ヲ行ヒタルコトナシ連合国ト共同シテ「チェク」軍ノ救援並鉄道保護ノ為出兵シタル迄ナリ又「トリヤピーツイン」ハ赤軍司令官ニシテ勞農政府モ之ヲ認メ且其ノ部隊カ哈府及浦潮ノ赤軍ト關係アリタルコトハ我方ニ充分ノ証拠アリト注意シタルニ「ヨッフエ」ハ尼港事件ニ対シテハ日本政府ニ於テ余リニ国民ノ感情ヲ激昂セシメタル結果政府トシテ何トカ之ヲ解決セサレハ立場ナキ次第ハ自分ニ於テモ之ヲ了知ス故ニ日露兩國ノ為本問題ヲ円満解決スルニハ表面「露国ハ尼港ニ於ケル憎ムヘキ事件ニ対シ日本ニ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ右事件ニヨリ蒙リタル日本側ノ損害ハ之ヲ賠償スヘキコト同時ニ日本政府ハ西伯利亞ニ於テ日本軍隊ノ敢テセル同様ノ事件ニ対シ

深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ其ノ損害ヲ賠償スヘキコト」トシ内実ハ互ニ公表セサルヘキ外交文書ノ交換ヲ以テ相互ニ右賠償ヲ為ササルコトトシテハ如何ト提議セリ川上代表ハ露国側ニ於テ今後日本側カ如何ナル条件ヲ提示スヘキヤニ付キ不安ノ念ヲ懷キ居ルヤニ看取シタルヲ以テ日本側条件ノ全般ヲ承知セスシテ個々ノ問題ニ付確タル回答ヲナスコト困難ナルヘキニ依リ次回ニ於テ書面又ハ口頭ヲ以テ一応日本側ノ条件全般ニ付申述フヘシト語リタルニ「ヨッフエ」代表ハ喜ンテ之ニ同意シタリ

「ヨッフエ」代表ハ本日ノ會議ニ於テモ繰返シ露国側ノ三条件ハ依然タルヘキコト但シ第一条件平等待遇ハ事実上解除セラレタルコトヲ述ヘタリ

「ヨッフエ」代表ノ提議ニ依リ會議ノ時間ヲ從前毎日二時間トアリタルヲ變更シ隔日三時間トナスコトトシ次回ヲ七月四日ニ開催スルコトトセリ日本側提議ニヨリ時々會議外会合ヲ催スコトナレリ

查ヲ希望スルコト刑事ニ於テ訪問者ヲ訊問スルコトナキ様取計ハレ度キ旨ヲ述ヘタリ

本日ノ會議ニ關スル新聞公表左ノ如シ

日露兩國代表ハ本七月二日ノ會議ニ於テ引統キ「サガレン」問題ヲ議シ更ニ尼港問題ノ一部ヲ議セリ

出席者前回ノ通

二八六 七月四日 川上代表
ヨッフエ代表 會議(第五回) 議事録

日露會議ニ關スル非公式予備交渉議事録 (第五回正式會見)

大正十二年七月四日(午後一時乃至四時半)

築地精養軒「ホテル」ニ於テ

出席者日本側露国側共前回ノ通

川上代表ハ尼港問題ニ關シ左ノ声明ヲ為セリ
連合諸国及日本カ協議ノ上西伯利亞ニ其軍隊ヲ派遣シタルハ其同盟軍タル「チェック」軍ヲ救援並ニ之カ為西伯利亞鐵道ヲ守備スルニ在リタリ而シテ露国ハ連合国ノ一員タリシナリ日本軍ハ黑竜鐵道全線及烏蘇里鐵道ノ一部ヲ守備スル任務ヲ負ヒタルカ最モ忠実ニ其任務ヲ遂行シ曾テ露国地方民

ノ内政ニ干渉シタルコト無ク日本ハ西伯利亞占領シタルモノニ非サルナリ

日本ハ烏蘇里鐵道ノ交通杜絶スルヤモ計ラレサリシヲ以テ水路黑竜鐵道トノ交通ヲ保証シ且尼港ニ於ケル居留民ヲ保護スル為同地ニ一部隊ヲ派遣セリ

右尼港派遣隊ハ其後三百五十一名ニ減セラレタルカ露国側ノ「プロヴォケーション」ニ依リテ「トリヤピーツイン」ノ率ユル露国軍隊ト戰鬪スルニ至レリ之ニ際シ「トリヤピーツイン」ノ軍隊ハ最モ残忍ナル方法ヲ以テ領事及領事館員ヲ始メ婦女子ノ區別ナク日本居留民全部ヲ虐殺セリ斯ル残忍ナル行為ハ歷史上類例ナキ所ニシテ全日本國民ノ憤怒激昂ヲ招致セサルヲ得サリキ平和ノ日本居留民ヲ殺害シタルコトハ日本軍ニ何等關係ナキ平和ノ露國人數千人ヲ殺害シタルト同様何等軍事上ノ必要ニ依ルモノト弁護シ能ハサルナリ之レ彼等ノ所謂有産階級ノ殺戮ナリ

露国側ノ書類ヲ見ルニ「トリヤピーツイン」ノ軍隊ハ独リ「モスコ」ト關係ヲ有シタルノミナラス「ハバロフスク」及浦潮ニ於ケル赤衛軍司令部トモ關係ヲ有シタリ故ニ露国政府ハ前記虐殺カ匪徒又ハ「バルチザン」ニ依リテ行ハレ

「トリヤピーツイン」カ露国裁判ノ判決ニ依リ処刑セラレタリトノ單ナル理由ヲ以テシテハ尼港事件ニ対スル責任ヲ免ルコト能ハサルナリ

露国側カ日本軍隊ニ責任アリト称スル事件ハ次ノ如キ事情ノ下ニ行ハレタルモノナルヲ以テ日本政府ニ於テ責任ヲ負フコト能ハス

連合諸国ハ共同シテ其軍隊カ守備スル鉄道ヲ破壊セントスル者ニ対シテハソノ何人タルヲ問ハス之ヲ許容セサルコトニ約束セリ然ルニ日本軍ノ守備区域ハ匪徒ノ攻撃殊ニ甚タシク彼等ハ或ハ停車場ヲ襲撃シ或ハ鉄道線路及橋梁ヲ爆破シ或ハ列車ヲ顛覆シテ乗客ヲ掠奪殺害セリ為ニ日本軍隊ハ武器ヲ以テ之等ノ襲撃ヲ撃退シ鉄道交通ヲ保証セサルヲ得サリキ然ルニ其後匪徒ノ襲撃益々頻繁トナリ一夜ノ中ニ數十回ニ上ルコトアリ日本軍隊モ奔命ニ疲レ其禍根ヲ一掃スルコトニ決シ匪徒ノ潜伏シ居ル村民ニ対シ再三警告ヲ与ヘタル上其根拠ヲ襲ヒタリ若シ之ニ際シ平和ノ住民中ニ被害者アリトスレハ右ハ日本軍隊ニ於テ何等惡意アリタルニ非スシテ軍事行動ノ止ムヲ得サルノ結果ナリ

右ニ対シ「ヨッフエ」代表ハ大要左ノ如キ弁明ヲナシタリ

出兵シタル當時ニ於テハ極東ニ露国軍隊ナルモノ無カリキ極東ハ當時正当政府ノ露国ト千露里以上ヲ隔テタリ當時極東ニアリテ政府又ハ軍隊ト称セルモノハ露国政府ニ非ス從ッテ露国ノ名ニ於テ他国軍隊ヲ招請スル權利ナカリシナリ赤軍ト称スル露国軍隊カ「プロヴォケーション」ヲナシタルコトナシ露国人民カ外国ノ軍隊ニ対シ匪徒トシテ反抗セルコトハ事実ナリ之レ露国民ノ占領者ニ対スル敵愾心ノ反映ナリ匪徒カ良民ヲ殺害セルコトモ事実ナリ然レトモ匪徒ヲシテスル行為ニ出テシメタルハ日本軍力不法ニモ露国ニ出兵シタルカ為ナラスヤ露国農民カ鋤鋤ヲ取リテ日本軍ニ対シ反抗セリトセハ之レ自己ヲ防衛センカ為ナリシナリ精神ニ異常アリト認メラレタル「トリヤピーツイン」ト雖モ何等ノ理由ナクシテ虐殺ヲ敢テセサリシナラント思考ス彼ハ自衛ノ為部隊ヲ組織シタル迄ニシテ正規軍ヲ率イタルニ非ス彼ハ最初正々堂々日本軍ト戦闘ヲナシテ尼港ヲ占領シタルナリ日本軍ハ破レテ尼港ノ要塞ニ立籠レリ「トリヤピーツイン」ハ罪ナキ芸妓ヲ屠リタル後要塞内ニ立籠レル日本軍ニ対シ兩度軍使ヲ派遣シタルニ日本軍司令官ハ之ヲ軍使ト認メス匪徒又ハ「バルチザン」ト談判スルヲ欲セスト

勞農政府ハ存在ノ期間及統治ノ面積ヨリスルモ正ニ露国ノ正当政府ナリ此ノ勞農政府ハ曾テ連合国ノ出兵ヲ招請セルコトナシ當時露国政府ト称シ之ヲ招請シタルモノアリトスルモ右ハ勞農政府ノ敵ナリシナリ日本及連合国ハ西伯利ヲ占領シタルコト無シト云フモ事實ニ於テ占領セリ加之連合国ハ露国内ニ於テ「チェック」軍ナル国家ヲ認メタリ然ルニ「チェック」軍ナルモノハ他国内ニ於ケル武装団体ナリシノミナラス又完全ナル意味ニ於ケル捕虜ナリシナリ連合国ハ此ノ捕虜カ當時ノ露国政權ニ対シ反抗シタルヲ援助シ然モ之ヲ以テ同盟軍トナシタルカ如キハ同シク同盟国タル露国ニ対シ不法ノ行為ヲナシタルモノニシテ連合国カ「チェック」軍救援ノ為軍隊ヲ西伯利ニ派遣シタルハ之レ取リモ直サス占領及干涉ノ行為ヲ敢テシタルモノナルコト疑ナシ殊ニ日本ハ列国カ最初各七千ノ武装兵ヲ極東ニ上陸セシムルコトニ取極メタルニ拘ラス七万ノ軍隊ヲ上陸セシメ且ツ連合国カ撤兵ヲ決定シタル後尚之ヲ増兵セリ日本軍ハ占領ヲ行ヒタル外露国政權ニ反抗スル暴徒ヲ助ケ戰爭掠奪ヲ敢テセリ日本ハ其ノ西伯利占領中露国軍隊ノ「プロヴォケーション」ニ遭遇セルコトヲ云々スルモ連合国殊ニ日本カ

テ之ヲ殺害セリ之レ日本軍自身カ「トリヤピーツイン」ノ軍隊ヲ正規軍ト認メサル明証ナラスヤ日本軍ハ糧食ノ絶ユルト共ニ「トリヤピーツイン」ニ軍使ヲ送り休戦ヲ申込メリ「トリヤピーツイン」ハ右軍使ヲ接受シ休戦ニ応セリ休戦後正規軍タルノ訓練ナキ「トリヤピーツイン」ノ部隊ハ規律ヲ忘レ放縱ニ走り飲酒ニ耽リタリ日本軍ハ密ニ居留民ニ武器ヲ与ヘ露国ノ祭日ニ乗シ不意ニ「トリヤピーツイン」ノ軍隊ヲ襲撃セリ此ニ於テ「トリヤピーツイン」ハ有史以來類例ナキ残忍ヲ敢テセリ然レトモ當時英吉利、仏蘭西、日本ノ軍隊モ露国ノ各地ニ於テ同様ノ残忍ヲ敢テセルニ非スヤ「トリヤピーツイン」ハ日本人ヲ虐殺シタル後露国人ヲモ殺害セリ斯クノ如クシテ人口一万二千ヲ有セル繁盛ナル都市ハ焼土ト化シ在留日本人七百名露国人八千名ハ虐殺ニ遇ヒ残り三千名ハ當時同市ニ非サルカ又ハ同市ヲ逃レタルモノナリ尼港事件後最初ニ同港ヲ訪レタルハ露国汽船ニシテ同船長ノ談ニ依レハ當時生存セルモノ僅カニ三名ノ露国人アリシノミナリト言フ

「トリヤピーツイン」ハ陸路大軍ノ襲来スルヲ聞キ難ヲ所謂「アントーノフ」共和国ニ避ケタリ然ルニ「アントーノ

フ」政權ハ之ヲ裁判ニ付シ銃殺ノ刑ニ処セリ彼ハ法廷ニ於テ尼港ヲ攻撃占領シタルハ全ク祖国ヲ防衛スル愛国心ニ基キタルモノナルコトヲ言明セリト云フ事件当時「トリヤピーツイン」ハ無政府黨員ノ表章タル黒ノ布片ヲ胸ニツケ其共產党ニ属セサルコトヲ宣言セリト云フ以テ彼カ自ラ労働政府ト關係ナキコトヲ証明セルモノニ非ス又沿海州地方ニ於テ日本軍ニ反抗セル匪徒ハ我等労働政權カ送りタルモノニ非ス彼等ハ日本軍ノ奪掠ニ遇ヒタル露国農民ナリキ露国農民カ日本軍ニ妨害ヲ与ヘタルニ非スシテ日本軍カ露国農民ニ迫害ヲ加ヘタルナリ露国ハ曾テ日本ニ出兵ヲ乞ヒタルコトナシ露国農民ハ日本軍隊ニ対シ自己ヲ防衛シタルノミナリ日本軍カ四ヶ年間露国ニ於テ傍若無人ノ行為ヲナシタルニ拘ラス何等「プロヴォケーション」ヲナシタルコトナシ又之レヲ為スヲ得サル状態ニ在リシナリ然ルニ日本ハ尼港事件ニ対シ露国ノ責任ヲ問フトハ何ゾヤ斯クノ如ク日本ノ要求ハ何等理由ナキコトナルモ予ハ日本政府ニ於テ尼港事件ヲ宣伝シ其国民感情ヲ極度ニ激昂セシメタル結果同事件ヲ不問ニ付スルコト能ハサル状態ニアルヲ知ルト共ニ平和ヲ愛好シ日露ノ親善ヲ切念スルノ余リ先日申シタル解

決案ヲ提議スルモノナリ即チ「露国ハ尼港ニ於ケル憎ムヘキ事件ニ対シ日本ニ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ右事件ニヨリ蒙リタル日本側ノ損害ハ之ヲ賠償スヘキコト同時ニ日本政府ハ西伯利ニ於テ日本軍隊ノ敢テセル同様ノ事件ニ対シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ其ノ損害ヲ賠償スヘキコト且ツ公表セサルヘキ外交文書ノ交換ヲ以テ相互ニ右賠償ヲ為ササルコト」

之ヲ要スルニ露国ハ尼港事件ノ責任ヲ負ヒ遺憾ノ意ヲ表スルモ賠償ヲ払フコトハ切腹スルモ承諾スルコト能ハス又露国ノ現状トシテ賠償ヲ支払フコトハ實際問題トシテ不可能ナリ露国ハ右陳謝ノ形式ヲ露国ニ取り日本ヨリ酷ナル形式ト為スコトハ之ヲ為シ能ハサルニ非ス但片務的ニ物質的責任ヲ負フコトハ困難ナリ

川上代表ハ右ニ対シ然ラハ物質的責任ヲ問ハサレハ貴方ノミニテ遺憾ノ意ヲ表スヘント云フ意ナリヤト突込ミタルニ「ヨッフエ」代表ハ物質的責任ヲ問フコトナク単ニ遺憾ノ意ヲ表スルノミナラハ露国側ニ於テ片務的ニ之ヲ為スコト或ハ差支ナカラント答ヘ別紙第一号ノ通り案文ヲ認メ示シ

タルニヨリ川上代表ハ慎重考量スヘントテ話ヲ打切りタル後日本側条件ヲ別紙(第二号)ノ通り未定稿トシテ先方ニ提示シタルニ「ヨッフエ」代表ハ一読ノ上斯ル条件ニテハ若シ正式交渉ナランニハ之ニテ話ヲ打切ル迄ナリト述ヘタルニ依リ川上代表ハ我等兩人ノ努ムヘキコトハ此ノ間如何ニシテ妥協点ヲ見出スヘキヤニ在リト述ヘ先方モ之ヲ諒トセリ

右ニテ會議ヲ終リ次ノ新聞公表ヲ作成セリ

日露両国代表ハ本七月四日ノ會議ニ於テ引続キ尼港問題ニ関シ意見ヲ交換シタルモノヲ議了スルニ至ラス明後六日更ニ審議ヲ続行スルコトトセリ
出席者前回ノ通り

(別紙第一号) 訳文

尼港事件ニ関シ露国カ遺憾ノ意ヲ表スル案文(ヨッフエガ川上ニ示シタルモノ)

露西亜ハ一九二〇年三月十二日乃至同五月二十八日「アムール」河畔「ニコラエフスク」市ニ発生セル残忍ニシテ罪惡的ナル事件ニ付最モ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表ス

當時日本人ハ軍人三百五十一名ノミナラス平和ノ住民三百

決案ヲ提議スルモノナリ即チ

「露国ハ尼港ニ於ケル憎ムヘキ事件ニ対シ日本ニ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ右事件ニヨリ蒙リタル日本側ノ損害ハ之ヲ賠償スヘキコト同時ニ日本政府ハ西伯利ニ於テ日本軍隊ノ敢テセル同様ノ事件ニ対シ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表スルト共ニ其ノ損害ヲ賠償スヘキコト且ツ公表セサルヘキ外交文書ノ交換ヲ以テ相互ニ右賠償ヲ為ササルコト」

之ヲ要スルニ露国ハ尼港事件ノ責任ヲ負ヒ遺憾ノ意ヲ表スルモ賠償ヲ払フコトハ切腹スルモ承諾スルコト能ハス又露国ノ現状トシテ賠償ヲ支払フコトハ實際問題トシテ不可能ナリ露国ハ右陳謝ノ形式ヲ露国ニ取り日本ヨリ酷ナル形式ト為スコトハ之ヲ為シ能ハサルニ非ス但片務的ニ物質的責任ヲ負フコトハ困難ナリ

川上代表ハ右ニ対シ然ラハ物質的責任ヲ問ハサレハ貴方ノミニテ遺憾ノ意ヲ表スヘント云フ意ナリヤト突込ミタルニ「ヨッフエ」代表ハ物質的責任ヲ問フコトナク単ニ遺憾ノ意ヲ表スルノミナラハ露国側ニ於テ片務的ニ之ヲ為スコト或ハ差支ナカラント答ヘ別紙第一号ノ通り案文ヲ認メ示シ

八十三名男女小児ノ別ナク「パルチザン」団ノ兇手ニ斃レ続イテ「ニコラエフスク」全市ハ約八千ノ露西亜住民ト共ニ該団匪ノ為焦土ニ帰セシメラレタリ

同地方ハ當時日本ノ軍事占領地帯内ナリシモ露西亜裁判ハ露西亜領内ニ逃レタル匪徒ヲ仮借スルコトナク団匪ノ首領「トリヤピーツイン」ハ多数ノ徒党ト共ニ最高刑罰即死刑ニ宣告セラレ此ノ宣告ハ直ニ執行セラレタリ

事情右ノ如クナル上露西亜赤軍ハ當時同シク占領軍ト戦争ノ為遠ク南方ニアリタルモ労働政府ハ戦闘員タルコト能ハサル婦女子ニ至ル迄戦争ノ渦中ニ誘致セラレタルノ事実ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルノミナラス更ニ一層深甚ナル痛憤ノ情ニ堪ヘサルナリ

露西亜社会主義連邦「ソヴィエト」共和国政府ハ尼港事件ヲ想起スル毎ニ露西亜ヲ激動スル有ラユル感情ヲ表示スルト同時ニ赤軍ノ規律アル部隊ニハ最早斯クノ如キ事実発生シ得サルコトヲ各人ニ了得セシメ得ルヲ誇トシ且斯ノ如キ事件カ何レノ時何レノ場所ニ於テモ発生スルコト不可能ナル時期ノ到来ハ遼遠ナラサルヲ期待シテ止マサル所ナリ

註 露語案文ヲ省略ス尚露語案文ニ左ノ記載アリ

本声明ハ朗読セルノミニテ先方ニ手交シタルモノニ非ス

(別紙第二号)

川上代表ガヨッフエ代表ニ提示セル日本側条件

一、「サガレン」問題

露国ハ日本ニ対シ相当価格ヲ以テ露領「サガレン」ヲ売却スルコトニ同意ス

日本ハ一億五千万円ヲ以テ相当価格ト認ム或ハ露国ハ日本政府又ハ日本会社ニ対シ北「サガレン」ニ於ケル石油、石炭、森林富源ヲ開発スルノ長期利権ヲ与フルコトニ同意ス

二、尼港問題

(イ)露国ハ在尼港我領事、領事館員及居留民ノ虐殺ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルコト

(ロ)露国ハ尼港事件ニ依リ蒙リタル日本人ノ損害ヲ賠償スルコト

三、露国ハ日本人ニ対シ「バイカル」以東ノ極東露領ニ於テ森林及鉱業ニ関スル利権ヲ与フルコトニ同意スルコト

四、国際義務問題

(イ)露国ハ旧条約ヲ承認スルコト

ノノ如ク会議中例ニナク言語明哲ヲ欠クノミナラス時々座睡ヲ為ス時ノ如ク目ヲ閉チ巻煙草ノ大半猶「バイプ」ニ残り居ルニ拘ラス再三新シキ巻煙草ヲトリテ之ヲ差込マントシ又紙片ニ僅々数行ノ「ノート」ヲ取ルニ途中再三目ヲ閉チ睡眠ニ陥レル人ノ如ク其支ヘタル万年筆將ニ机上ニ落チントシタルコトアリテ秘書「レーヴィン」モ見兼ねテ宮川通訳官ヲ通シ本日ノ会議ヲ早目ニ打切ランコトヲ請求シタル程ナリ

「ヨッフエ」代表ハ日本ニ於テ真ニ勞農露国ノ承認ヲ基礎トシテ話ヲ纏ムルノ意志アルヤヲ疑フモノノ如ク会議中談判長引キテハ病氣ナル自分モ之ニ堪ヘサルヘク莫斯科ヨリ來レル医師ノ如キハ自分ニハ云ハサルモ妻ニ対シ種々悲觀的注意ヲ与ヘ居ルモノノ如シ可成ハ話ヲ早ク纏メタシ若シ話カ遷延シ自分カ退クトスレハ果シテ何人カ來ルヘキヤト述ヘ暗ニ自分ノ外ニ適任者ナキコトヲ了解セシムルニ努ムルモノノ如シ

川上代表ハ前回會議ニ於テ露国カ一方的ニ尼港事件ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルコトニ同意ヲ与ヘタルハ一般ニ好印象ヲ与ヘタルコトヲ述ヘ露国側ニ於テ「サガレン」問題ヲ我方

(ロ)露国ハ日本ニ対スル債務ヲ認ムルコト

(イ)露国ハ没収セル私有財産ヲ旧所有者ニ返還スルカ又ハ其ノ損害ヲ賠償スルコト

五、以上ノ外両方ハ通商条約ノ締結ニ際シ左ノ事項ヲ保証スルコトヲ約スルコト

生命ノ安全、私有財産権ノ尊重、可成広汎ナル商業及産業ノ自由

六、当事国相互ノ安寧秩序ヲ害スル有害ナル宣伝又ハ侵略行動ノ禁止

註 露語ノ日本側条件ヲ省略

二八七 七月九日 川上代表 ヨッフエ代表 會議(第六回)議事録

日露會議ニ関スル非公式予備交渉議事録

(第六回正式會見)

大正十二年七月九日(午後一時乃至四時半)

築地精養軒「ホテル」ニ於テ

出席者日本側露国側共前回ノ通

本日「ヨッフエ」代表ハ川上代表ニ対シ数日来湿氣多キ天候ノ為氣分勝レスト語リタル程ニテ其容態甚タ不良ナルモ

ノ有利ニ解決スルニ於テハ同事件ニ対スル日本側ノ賠償要求モ之ヲ為ササルコトトナシ得サルコトナカルヘク自分モ充分尽力スヘキ旨ヲ述ヘ陳謝ノ形式ニ関シ先方案文ニハ「バルチザン」「占領」等ノ文字アリテ双方ノ論点ニ触ルルコトトナリ面白カラサル理由ヲ説明シ別紙ノ通り対案ヲ示シタルニ「ヨッフエ」代表ハ右我方対案ヲ一読シタル後「露国」ト云フ方カ「勞農政府」ト云フヨリ意味強キニ非スヤトカ「日本政府ニ対シ」ナル字句ハ必要ナカルヘントカ輕ク抗議シタル後「領事」ナル文字ニ対シテ尼港ハ日本軍隊ノ占領シタル所ナレハ領事ナルモノナキ筈ナリ依テ「領事」ナル文字ハ之ヲ削除セラレ度キ旨申出テタルニ依リ

川上代表ハ

日本ノ尼港駐兵ハ前回陳述ノ通り水路「アムール」鐵道トノ連絡ヲ確保シ且居留民ヲ保護センカ為ニ外ナラサリシモノニシテ日本ハ同地ニ軍政ヲ布キ同地方民ノ内治ニ干渉シタルコトナク我領事ハ帝政時代ヨリ引続キ同地ニ駐在シ領事ノ職務ヲ執行シ居リタルモノナリ

之ニ対シ「ヨッフエ」代表ハ

貴方ハ露国ニ対シ戰爭ヲ為シタルコトナシト云ハルルモ戰

争ハ武装セル或国ノ軍隊カ悪意ヲ以テ他国ノ領土ヲ侵害スルコトニヨリ成立ス軍政ヲ布クト否トハ何等軍事占領ノ事実ヲ否定スルモノニ非ス独逸ハ今回ノ戦争中其占領セル露国領土ニ軍政ヲ布カサリシニ非サヤト抗弁セルニ依リ川上代表ハ再三先方論理ノ誤レルコト日本ノ出兵ハ何等露国ニ対スル悪意ノ結果ニ非サリシコトヲ述ヘ置ケリ

「ヨッフエ」代表ハ

陳謝問題ハ主義上双方ノ意見合致シタルモノナルニ依リ形式ノ問題ハ更ニ考究スルコトト致シ度キ旨ヲ述ヘ前記我方対案ハ政府ノ意向ナルヘキヤヲ尋ネタルニ依リ右ハ自分一個ノ試案ナルモ政府ニ於テモ恐ラク之ニ異議ナカルヘシト思考スル旨ヲ答ヘ置ケリ

「ヨッフエ」代表ハ

「サガレン」ノ売価ニ関シ本国政府ヨリ正式ニ通牒ヲ受ケタルカ本国政府ニ於テ地質学者「クルイロフ」等ノ専門家經濟委員会ヲ組織シ評価セシメタル所ニ依レハ其價格十五億留ニシテ軍事専門家委員会ノ評価ハ更ニ大ナリト述ヘタルニ依リ

川上代表ハ

スルトスルモ（但之レハ日本ニテ支払フコト）極メテ些些タルモノナルヘシト思考スト述ヘ北「サガレン」ノ利権提供力後藤子爵トノ会談ノ際ノ如ク同島全域ニ亘ル總テノ利権提供ヲ意味スルニ非サレハ必スシモ日露合併トスルノ必要ナカルヘシ自分ハ利権ニ関シ何等知ル所ナキヲ以テ本国政府ニ照会スヘキ処「日本ハ北「サガレン」ニ於ケル石油、石炭、森林等ノ富源開発ニ関スル長期（九十九ケ年乃至五十五ケ年）利権ヲ希望スルコト右利権ハ日本政府又ハ日本当該会社名義トスルコト露国ノ労働法其他ノ法令ヲ尊重スルノ問題ハ日本側ニ於テ之等法令ヲ承知セサルニ付キ留保スルコト」トシ本国政府ノ意向ヲ確ムヘキカ右ニテ差支ナキヤト尋ネタルニ依リ川上代表ハ右ニテ差支ナキモ期限ハ可成九十九ケ年トセラレ度キ希望ナリト断リ置ケリ右ニテ会議ヲ終リ左ノ新聞公表ヲ作成セリ

日露両国代表ハ本七月九日ノ會議ニ於テ尼港問題ニ就キ審議ヲ重ネ交渉漸次順調ニ進ミツツアリ

出席者前回ノ通り

付録

一、「ヨッフエ」ノ言ニ依レハ「ウルクハルト」利権ハ最

スル價格ニテハ問題トナラス就テハ「サガレン」売価問題ハ之ニテ打切ト為スヘキヤト突込ミタルニ

「ヨッフエ」代表ハ

自分トシテハヨクハ存セサルモ延払ヒ等ノ方法モアル様思考セラル露国政府カ人民ニ対シ売却ノ措置ヲ弁解スルニハ数字ノ大ナルコト必要ナリ日本側ノ一億五千万円ト云フカ如キハ同シク専門家ノ評価ナルヤモ知レサルモ御話ニナラス最初冗談ト思考シタレハコソ今回ノ話ヲ打切ラス続ケ居ル次第ナレハ貴方ヨリ然ルヘキ売価指定セラルレハ幸ナリト答ヘ

川上代表ハ

多少ノ歩ミ寄りハ為シ得ルヤモ計ラレサルモ斯ル過当ノ價格ニテハ如何トモ致シ難シト思考スル旨ヲ述ヘ此ニ

「ヨッフエ」代表ヨリ

然ラハ利権供与ノ形式ニ依リ「サガレン」問題ヲ解決スルノ外ナシ今回本国政府ヨリ接受セル報道ニ依レハ「シンクレーヤ」会社トノ利権契約ニハ破約ノ場合先日申シタル如キ賠償ヲ払フノ規定無シトノ事ナレハ同会社カ事業ニ着手セサル今日右利権ニ関連シ投シタル経費ヲ損害トシテ賠償

近「クラシン」帰国後労働政府ニヨリテ承認セラレタリ

（別紙）

尼港事件ニ関シ露国カ遺憾ノ意ヲ表スルヨッフエ代表ノ案文ニ対スル川上代表ノ修正案

露西亜社会主義連邦「ソヴィエト」共和国政府ハ千九百二十年三月十二日ヨリ同年五月二十七日ニ至ルノ間「アムール」河畔「ニコラエフスク」市ニ於テ発生セル残忍ニシテ罪惡ナル事件即チ日本軍人三百五十一名ノミナラス日本領事及平和ノ日本居留民三百八十四名男女小兒ノ別ナク「トリヤピーツイン」ノ率ユル部隊ノ兇手ニ斃レタルコトニ付日本帝国政府ニ対シ最モ深厚ナル遺憾ノ意ヲ表ス尚露西亜社会主義連邦「ソヴィエト」共和国政府ハ前記「トリヤピーツイン」以下多数ノモノニ対シテハ千九百二十年七月九日露西亜裁判所ニ於テ死刑ヲ宣告シ直ニ執行セラレタル旨玆ニ声明ス

註 右修正案ノ露文ヲ省略ス

二八八 七月十一日 川上代表
ヨッフエ代表 會議（第七回）議事録

日露會議ニ関スル非公式予備交渉議事録

(第七回正式会見)

大正十二年七月十一日(午後一時乃至五時)

築地精養軒「ホテル」ニ於テ

出席者日本側露国側共前回ノ通

本日ハ「ヨッフエ」代表ノ希望ニヨリ尼港事件陳謝ノ形式ヲ討議セリ同代表ハ前回會議ニ提出セラレタル川上代表ノ対案ヲ以テ日本側ニ不都合ナル部分ヲ全部巧妙ニ削除シタルモノニシテ露国ヲ全然悪者トナシ日本ヲ以テ清浄無垢ノ聖者トナスモノナリトナシ露国側ニ於テ讓歩ニ讓歩シテ尼港事件ニ対スル精神上ノ責任ヲトリタル以上日本側モ多少露国ノ立場ヲ考慮スヘキナリト申出テタルニヨリ一応同代表ノ草案ニ付討議スルコトトシ川上代表ヨリ右案「事件ニ付」ノ次ニ「日本ニ対シ」ナル五字ヲ挿入スルコト「『バルチザン』団ノ兇手」トアルヲ「『トリヤビーツイン』ノ率ユル部隊ノ兇手」トシ「日本軍人三百五十一名ノミナラス」ノ次ニ「領事ヲ始メ」ナル五字ヲ挿入センコトヲ主張シタルニ「ヨッフエ」ハ「領事ヲ始メ」ナル文字ヲ挿入スルコトニハ前回ニ反シ何等格別ノ反対ヲ為ササリシカ世界ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スル次第ナルハ態々「日本ニ対シ」ナ

モ結局「前記兇行後「トリヤビーツイン」ハ其ノ部隊ト共ニ日本軍ノ駐屯セサル地域ニ逃レタリ」ト訂正シ且ツ死刑宣告ノ日付ヲ挿入スルコトニ同意セリ

次ニ日本側ヨリ「占領軍ト戦争ノ為」「戦争ノ禍中ニ云々」ノ字句ニ反対シタル結果「事情右ノ如クナル上」以下ヲ訂正全文別紙記載ノ通り訂正セリ

「ヨッフエ」代表ヨリ前記訂正案ニ対スル日本側ノ確定意見ヲ承知シ度キ旨申出テタルニヨリ川上代表ハ自分トシテハ大体右ニテ差支ナキ様思考スルモ今日外務大臣ニ報告シ次回迄ニ何等政府ノ意向ヲ貴方ニ通知シ得ル様取計フヘシト答ヘ置ケリ

右ニテ會議ヲ終リ左ノ新聞公表ヲ作成セリ

日露両国代表ハ本七月十一日ノ會議ニ於テ引続キ尼港問題ヲ討議セリ

出席者前回ノ通り

(別紙)

尼港事件ニ関シ露国力遺憾ノ意ヲ表スルヨッフエ案文ヲ訂正セルモノ

露西亜国ハ千九百二十年三月十二日ヨリ同年五月二十七日

五 日露国交回復交渉関係 二八八

ル文字ヲ挿入スル必要ナカルヘキコト「トリヤビーツイン」ハ正規軍ニ非ス「バルチザン」ナレハ原案ニテ差支ナカルヘキコトヲ主張シタルニヨリ川上代表ハ露国ハ世界ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スル位ナラハ「日本ニ対シ」ナル文字ヲ挿入スルモ差支ナカルヘキコト「トリヤビーツイン」ノ部隊カ「バルチザン」ニ非スシテ正規ノ赤軍ナルコトハ既ニ勞農政府ノ認メタル所ニシテ右ニ関シテハ当方ニ充分ノ証拠アリトテ一九二〇年三月二十三日付ノ内田大臣宛「チチェリンノート」ニ「赤軍司令官」「赤軍本部」ナル文字アルコト「チチェリン」ハ當時既ニ右流血ノ慘事ニ対シ哀悼ノ意ヲ表セルコト又露国裁判所ノ判決文ニモ「ニコラエフスク」地方赤軍司令官ト明記シアルコトヲ指摘シタルニ「ヨッフエ」代表ハ「チチェリン」ニモ誤リアリ得ヘシナト強弁セルモ結局日本側主張ヲ容レ原案「ニコラエフスク」全市ハ云々「該団匪ノ為」トアルヲ「『トリヤビーツイン』ノ為」ト訂正セリ

次ニ川上代表ヨリ「同地方ハ當時日本ノ軍事占領地帯内ナリシモ露国領内ニ逃レタル匪徒ヲ云々」ナル字句ニ反対シタルニ事実戦争アリタルナリト從來ノ戦争論ヲ主張シタルニ至ルノ間「アムール」河畔「ニコラエフスク」市ニ於テ發生セル残忍ニシテ罪惡的ナル事件ニ付「日本国ニ対シ」最モ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表ス

當時日本軍人三百五十一名ノミナラス「領事ヲ始メ」平和ノ日本居留民三百八十四名男女小兒ノ別ナク「トリヤビーツイン」ノ率ユル部隊ノ兇手ニ斃レ続イテ「ニコラエフスク」全市ハ約八千ノ露西亜住民ト共ニ「トリヤビーツイン」ノ為焦土ニ歸セシメラレタリ

前記兇行後「トリヤビーツイン」ハ其ノ部隊ト共ニ「日本軍隊ノ駐屯セサル地域ニ逃レタルカ」露国正當裁判所ニ於テモ之ヲ仮借スルコトナク彼等ハ最高刑罰即チ死刑ニ宣告セラレ右「一九二〇年七月九日付」宣告ハ直ニ執行セラレタリ

事情前述ノ如クナル上露西亜国ハ到ル処平和ヲ念トシツツモ猶諸処ニ於テ自己及革命ノ成果ヲ防衛スルノ已ムナキニ到レリ然レ共婦女子ニ至ル迄悲惨ナル事件ノ渦中ニ誘致セラレタル疑ナキ事実ニ対シ既ニ再三表示シタル遺憾ノ外更ニ深甚ナル憤怒ノ情ニ堪ヘサルモノアリ全文明人類社会ノ觀念ニ依レハ婦女子ノ如キハスル事件ヲ一警スルコトサヘ

有り得サル様擁護セラルヘキモノナリ
 総テ此等ノ事實ハ痛嘆ノ至リナレトモ露西亞社会主義連邦
 「ソヴィエト」共和国政府ハ赤軍ノ規律アル部隊中ニハ最
 早此ノ如キ事実ナク又有り得サルコトヲ疑モナキ誠意ヲ以
 テ確言スルノ絶対權利ヲ有スルコトヲ誇トナスト共ニ斯ル
 事件カ総テ何レノ時何レノ場所ニ於テモ發生スルコト能ハ
 サルヘキ時期ノ遼遠ナラサルコトヲ喜ンテ期待スルモノナ
 リ

註 露語ノ新案文ヲ省略ス

二八九 七月十三日 川上代表
 ヨッフエ代表 會議（第八回）議事録

日露會議ニ関スル非公式予備交渉議事録
 （第八回正式會見）

大正十二年七月十三日（午後一時乃至四時半）

築地精養軒ニ於テ

出席者前回ノ通

本日モ陳謝ノ形式ヲ討議スルコトナリ前回會議ニ於テ
 「ヨッフエ」代表ノ提議ニ基キ訂正シタル陳謝ノ形式（前
 回議事録別紙参照以下之ヲ露国側第二案ト称ス）ニ付川上

代表ヨリ右篤ト考量シタル処右ハ露国側第一案ヲ基礎トシ
 テ為サレタル訂正案ニシテ日本側第一対案ト相去ル甚タ遠
 ク其儘ニテハ政府ニ於テ到底之ヲ採用セサルヘシト思考セ
 ラル当方ハ「ニコラエフスク」全市カ約八千ノ露西亞住民
 ト共ニ同シク「トリヤピーツイン」ニ焼カレタリ」トノ文
 句ヲ挿入スルコトニハ同意スヘキモ「日本軍ノ駐屯セサリ
 シ地域ニ逃レタル云々」ナル文句ハ七月四日ノ會議ニ於テ
 「ヨッフエ」代表ニ於テ「トリヤピーツイン」カ逃レタリ
 ト述ヘラレタル所謂「アントーノフ」共和国ニハ日本軍ハ
 内政ニコソ干涉セサレ駐屯シタルモノニシテ事実ニ相違ス
 ル点モアルニ付削除セラレ度ク第三項ハ婦女子カ参加シタ
 ルヤ否ヤハ事実不明ニモアリ全然同意シ難キニ付削除セラ
 レタク第四項ハ前半ヲ残セハ意味充分ナルヘク後半ヲ削除
 セラレタシト別紙日本側第二案ヲ提出シタルニ

「ヨッフエ」代表ハ之ヲ閱讀シ不滿ノ面持ニテ前回モ申上
 ケタル通り露国ヲ徹頭徹尾惡者扱トナス多少ハ面ヲ立テ
 得ル様云ヒ開キヲ為サシメンコトヲ要求シタル次第ナルカ
 今貴案ヲ見ルニ又々日本ニノミ都合ヨキ様当方ノ言ヒ分ヲ
 全部削除セラレアリ右ハ互譲妥協ノ精神ニ反スルモノニシ

テ同意致シ難シト述ヘタリ
 川上代表ハ先方カ事実精神上ノ責ヲトリ遺憾ノ意ヲ表スル
 コトニ同意シタル以上右ノ事實ハ文面ニモ表ハレサルヘカ
 ラス一面遺憾ノ意ヲ表シ乍ラ他面之ヲ抹殺スルカ如キハ甚
 タ面白カラス当方第二対案ハ最後のノモノナリト述ヘタル
 ニ

「ヨッフエ」代表ハ最初先方第二案モ最後のノモノナリト
 応酬シタルモ後「事情前述ノ如クナル上」以下ノ文案ハ前
 回會議ノ終リニ時間迫リ急キ起草シタルモノニテ実ハ文章
 整備シ居ラス甚タ拙劣ノモノナレハ意味ヲ變更スルコトナ
 クハ字句及文体ヲ變更スルコトニハ同意スヘシト折レ

川上代表猶頑トシテ之ニ応セサルヤ「ヨッフエ」ハ
 自分ハ是迄幾多ノ国ト交渉セルモ成功セサリシハ独リ独逸
 ト日本トノミナリトカ自分ハ如何ニ日本ト円満ナル解決ヲ
 希望スルモ利益一致セサレハ話ハ出来ストカ話カ又々長春
 會議ニ逆戻リシタル感アリトカ日本ハ独リ求ムルノミニシ
 テ何等与フル所ナシ今讓歩シタランニハ日本ハ之ニ付ケ込
 ミ更ニ他ノ問題ニ関シテモ過大ノ要求ヲナスナラントカ果
 累長広舌ヲ弄シ又尼港事件ノ責任ニ関シテモ先方從來ノ弁

論ヲ繰返シタルカ更ニ折レ先方第二案ノ第四項ヲ全然削除
 スルコトニ同意スヘキニ付第三項ノ意味ヲ保存シ文体ヲ變
 更スルニ止メンコトヲ求メタルモ川上代表ハ当方第二案ノ
 變更シ難キ所以ヲ説明シ次回會議迄先方ノ再考ヲ求メ會議
 ヲ終リタリ

會議中「ヨッフエ」ノ口吻ヨリ察スルニ先方ハ更ニ本件ヲ
 國際義務問題トノ掛引ニ利用セントスルモノノ如シ
 本會議ニ関スル新聞發表次ノ如シ

日露兩國代表ハ尼港問題ニ関シ更ニ討議ヲ續ケタリ

出席者 前回ノ通り

（別紙）

尼港事件ニ関シ露国カ遺憾ノ意ヲ表スル案文ノ日本側第二案
 露西亞国ハ千九百二十年三月十二日ヨリ同年五月二十七日
 ニ至ルノ間「アムール」河畔「ニコラエフスク」市ニ於テ
 發生セル残忍ニシテ罪惡的ナル事件ニ付「日本国ニ対シ」
 最モ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表ス
 當時日本軍人三百五十一名ノミナラス「領事ヲ始メ」平和
 ノ日本居留民三百八十四名男女小兒ノ別ナク「トリヤピ
 ーツイン」ノ率ユル部隊ノ兇手ニ斃レ統テ「ニコラエフ

スク」全市ハ約八千ノ露西亜住民ト共ニ「トリヤピーツイン」ノ為焦土ニ帰セシメラレタリ
「トリヤピーツイン」及其部下ハ露国正当裁判所ニ於テ最高刑罰即チ死刑ニ宣告セラレ右「一九二〇年七月九日付」宣告ハ直ニ執行セラレタリ総テ此等ノ事實ハ痛嘆ノ至リナレトモ露西亜社会主義連邦「ソヴィエト」共和国政府ハ赤軍ノ規律アル部隊中ニハ最早此ノ如キ事実ナク又有り得サルコトヲ誠意ヲ以テ確言スルノ権利ヲ有スルコトヲ誇トナスモノナリ

註 露語ノ本案文ヲ省略ス

二九〇 七月十六日

折原兵庫県知事ヨリ
外務、内務、農商務各大臣宛

マツチ製軸業者ノ日ソ予備交渉ノ成行ニ対ス
ル憂慮ノ念ニ付報告ノ件

兵発秘第七五三号

(七月十八日接受)

大正十二年七月十六日

兵庫県知事 折原 己一郎(印)

内務大臣 水野 錬太郎殿
農商務大臣 荒井 賢太郎殿

築地精養軒「ホテル」ニ於テ

出席者日本側露国側共前回ノ通

本日モ引続キ陳謝文ノ形式ヲ討議スルコトナリ川上代表ヨリ前回會議ニ提出セル日本側第二案ヲ全部其ノ儘容レンコトヲ求メタルニ「ヨッフエ」代表ハ多少露国側ノ面ヲ立テンコトヲ求メサスレハ文案等ハ如何様ニモナスヘシトテ露国側第二案第三項ノ意味ヲ記入センコトヲ求メ日本側第二案第二項迄ヲ容レタリ

川上代表ハ事ハ遺憾ノ意ヲ表スルモノナレハ露国側第二案第三項ハ必要ナルヘク政府ニ於テモ当方第二案ナラハ異議ナキコト殆ト疑ナキモ露国側第二案第三項ヲ容ルコトニハ絶対ニ反対スヘシト思考スル旨ヲ述ヘタルニ
「ヨッフエ」代表ハ露国ノ如キ大国ニトリテハ謝罪ナト云フコトハ愚カ遺憾ノ意ヲ表スルコトサヘ容易ノコトニアラストテ容易ニ当方ノ要求ニ応セス且「チチェリン・ノート」ナルモノハ三月二十三日付ナルヲ以テ尼港虐殺前ニ発送セラレタルモノニシテ尼港事件ニ関係ナシトカ「トリヤピーツイン」ノ率ユル部隊ハ赤軍ナリトノ日本側証拠不充分ナリトテ又々従来ノ議論ヲ繰返シタルニ依リ

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

従来燐寸軸木ニ製造スル原木ハ我北海道ニ於テ無尽蔵ト称セラレ何等植林ヲ為サズシテ伐採シタルガ為ニ今ヤ其需用ヲ満ス能ハズ其大半ハ露領西伯利亞烏蘇里線方面ニ求メ居レル状態ナルガ今回ノ日露予備交渉ガ尼港問題ニ於テ行詰リノ状態トナルヤ露国ハ木材ノ輸出ヲ禁止シタルガ為ニ我燐寸製軸業者ハ前途ヲ憂慮シツツアリ為ニ早クモ原木価格ハ昂騰シ楡木百石八百円内外白楊樹一才十錢内外ヲ唱ヘ居タルモノ今回ノ日露予備會議開催後前者石七八十円後者才二錢内外ノ奔騰ヲ見タリ而シテ尼港問題ハ「ヨッフエ」ノ譲歩ニ依リ問題解決ノ曙光ヲ認メタルモ本會議ニ移リテ兩國ノ交渉如何ニ変化スルヤ図ラレズトナシ尚前途ヲ憂慮シ燐寸界ノ不況ト相俟ッテ不安ノ状態ニアル模様ニ有之
右及申報候也

二九一 七月十八日

川上代表
ヨッフエ代表 會議(第九回)議事録

日露會議ニ関スル非公式予備交渉議事録

(第九回正式會見)

大正十二年七月十八日(午後一時乃至五時)

川上代表ハ「チチェリン」ノ「ノート」ハ成ル程三月二十三日付ニシテ五月二十四日乃至同二十七日間ニ至ル慘殺行為前ニ發送セラレタルモノニシテ尼港事件ノ全般ニハ触レサルモ「チチェリン」ハ既ニ事件ノ前半タル三月十二日ノ日露軍衝突ノ一事ヲ以テ遺憾ニ値スト云ヘルモノニシテ五月二十四日乃至二十七日ノ事件後ナランニハ更ニ遺憾ノ意ヲ強フシタルナルヘシ又「トリヤピーツイン」ノ率ユル部隊カ赤軍ナリトノコトハ右「チチェリン・ノート」ノ外「ケルビ」村国民裁判所判決文中ニ明白ナリトテ同判決文中「トリヤピーツイン」ヲ「ニコラエフスク」地方赤軍司令官トシテ記載シアルコトヲ指摘シタルニ
「ヨッフエ」代表ハ自分ノ手許ニアル判決文ニハ斯カル文句ナシトテ日本側証拠書類ハ何等カ為ニスルタメニ作ラレタルモノナルヘシト強弁シタルニ付

川上代表ハ右ハ「ニコラエフスク」軍管区軍事革命本部機關紙ニ掲載セラレタルモノナリ貴方ニハ立派ナル判決文写有リト云ハルルモ貴方ハ判決ノ行ハレタル日時サヘ明確ニ示スコトヲ得サルニアラスヤ右判決ハ当方ノ材料ニヨレハ貴方モ承諾セラレ陳謝文案ニ記載シアル通り七月九日ヲ以

テ宣告セラレタルモノナリト述ヘ寧ろ露国側ノ材料コソ不
充分ナリト詰リタルニ

「ヨッフエ」代表ハ不満ナル面持ニテ秘書ヲ顧ミ判決文ノ
写ハ取寄スルコトヲ得ヘシト答ヘタリ

「ヨッフエ」代表ハ重ネテ先方第二案第三項ノ意味ヲ何等
カノ形式ニテ挿入センコトヲ求メタルニヨリ

川上代表ハ右ハ政府ニ於テ絶対ニ承諾スルコトナカルヘシ
ト思考スルニ付之ヲ削除スル代リニ『前記兇行後「トリヤ
ピーツイン」ハ其部隊ト共ニ日本軍隊ノ駐屯セサリシ地域
ニ逃レタリ』ナル文句ヲ復活スルニ同意スヘシト述ヘタル
ニ

「ヨッフエ」代表ハ猶モ執拗ニ第三項ノ挿入ヲ主張シ文案
ハ如何様ニモ起草シ得ヘシト述ヘタルニ依リ

川上代表ハ政府ニ於テ之ニ同意スヘシトハ信セサルモ一応
相談シ見ルコトハ差支ナシト述ヘタルニ

「ヨッフエ」代表ハ「右事件ハ干渉及封鎖時代ニ起リタル
ニ拘ラス露国側ハ犯人ヲ嚴重ニ処分シタリ然レトモ他面露
国ハ常ニ平和ヲ念トシツツモ自国及革命ノ成果ヲ擁護セサ
ルヘカラサル地位ニアリシコトヲ特記シ且尼港事件ハ本条

申出テタルニ依リ

川上代表ハ日本政府トシテ当方第二案ヨリ動かサルヘシト
思考スルモ送付セラルレハ一応先方案ヲ考量スルコトト致
スヘシト答ヘ置ケリ

右ニテ会議ヲ終リ次ノ新聞発表ヲ作成セリ

日露両国代表ハ本七月十八日ノ会議ニ於テ更ニ尼港問題
ヲ討議セリ

出席者前回ノ通

付録

本日ノ会議前「ヨッフエ」代表ハ去ル七月十六日同十四日
付「カラハン」電報ニ接シタル趣ヲ以テ「オデッサ」出発
浦潮又ハ「オホツク」方面ニ航海中ノ露国汽船「デカブリ
スト」ヲ炭水補給ノ為唐津ニ寄港セシメタキニ付取急キ日
本政府ノ同意ヲ得タシトノコトナリシヲ以テ川上代表ハ会
議ノ場所ヨリ本省ニ電話シ関係官庁ト打合ノ後同船力単ニ
炭水補給ノ為必要ノ期間唐津ニ寄港スルコトニハ異議ナキ
モ宣伝ヲナササルコトヲ条件トナス旨申渡セリ

二九二 七月十九日 宮川通訳官ヨリ

川上公使宛

五 日露国交回復交渉関係 二九二

ヲ以テ解決セラレタルモノナルコト從テ本件ハ日露両国間
ノ善隣関係ヲ設定スル為開始セラレタル交渉ノ妨害トナル
コトナカルヘシ」トノ意味ヲ挿入センコトヲ求メタリ依ッ
テ

川上代表ハ干渉、封鎖時代ナル文字ハ穩当ナラサルニ付之
ヲ除キ露国ハ自国民ノ犯罪者ヲ仮借セサリシト雖モ露国ハ
又自国及革命ノ成果ヲ擁護セサルヘカラサリシナリトノ文
句ヲ日本側第二案第二項ト第三項トノ間ニ挿入シテ大臣ノ
意見ヲ聞クコトハ差支ナシト答ヘタルモ第二段尼港事件カ
本条ヲ以テ解決シタリト云フカ如キハ日本カ物質的賠償ノ
要求ヲ抛棄シタルコト明白トナリ対内関係上面白カラサル
ノミナラス全ク新シキ提議ナルニ依リ右ハ第二案第三項ノ
意味外ナリ親善関係設定等ノ文句ハ条約ノ前文ニ記載スヘ
キコトナリトテ同意セサリシカ

「ヨッフエ」代表ハ日本案全部ヲ容ルレハ他ノ総テノ問題
ニ於テ日本ハ譲歩セラルヘキヤト途方モナキコトヲ尋ネタ
ル後

陳謝ノ形式ハ之ヲ未決ノ儘トナシ置クヤソレトモ自分カ只
今起草シタル第三項別案ヲ練リ本日中貴方ニ送ルヘキヤト

宮川通訳官レーヴィン秘書官ト非公式予備交

渉ニ関スル会談報告ノ件

大正十二年七月十九日

宮川通訳官

川上公使閣下

去ル七月十七日日本官ハ閣下ノ命ニ依リ「ヨッフエ」代表ノ
秘書官「レーヴィン」「シワルサロン」「ツェルーパー」三名
ヲ赤坂飯屋ニ招待シ晚餐ヲ饗応シタルカ其節首席秘書官
「レーヴィン」ハ頻ニ非公式予備交渉関係ノ談話ヲ挑ミ本
官ト次ノ如キ談話ヲ交換セリ
(レーヴィン) 「ヨッフエ」氏ノ病状ハ実ハ何時何時不幸
ナル変化ヲ見ストモ計ラレサル状態ニアリ殊ニ近来ノ如ク
交渉カ予想ニ反シ長引クトキハ氏ノ病状之ニ堪ユルヤ否ヤ
憂慮セサルヲ得ス

(宮川) 「ヨッフエ」氏ノ病氣ニ對シテハ川上代表ハ勿論
政府国民モ等シク同情ヲ禁セサル所ニシテ其ノ恢復ノ一日
モ速カナランコトヲ祈リ居ルモノナリ談判ノ円満迅速終了
ヲ希望スル点ニ付テハ川上代表ニ於テ決シテ「ヨッフエ」
氏ニ譲ルモノニ非ス交渉ノ遷延スルハ双方意見ノ一致ヲ見

四〇七

サル結果ニシテ罪ヲ何人ニモ帰スヘキニ非ス「ヨッフエ」氏ノ病状不良ナルコトハ談判前ヨリ既ニ明ニシテ吾人ハ氏當時ノ病状ヲ以テシテ果シテ此ノ交渉ニ堪ユルヤ否ヤヲ心配セル位ナリ如何ニ予備交渉ナリトテ斯ク簡單ニ纏マルモノニ非サルコトハ賢明ナル「ヨッフエ」氏ニ於テモ夙ニ了得セストハ思考セラレス自分ハ此ノ予備交渉ハ正式會議ニ入ル基礎条件ヲ見出スニアルヲ以テ甚タ重要ナリト思考ス此ノ非公式予備交渉ニ於テ完全ナル相互ノ諒解ヲ得レハ正式交渉ノ如キ格別困難ナク短日ニシテ終了シ得ルモノト思考ス

(レ) 「ヨッフエ」氏ハ日本渡来以来永キニ亘ル後藤子トノ話ニテ大体ノ諒解ヲ得居ルコトニモアリ最初本交渉ノ如キ極メテ簡單ニ纏マルモノト思考セリ「ラパロ」条約ノ如キ僅カ数日ニシテ纏マリタル例モアルニ非スヤ

(宮) 自分ハ「ヨッフエ」後藤、政府間ノ關係ヲ詮索スルモノニアラサルモ其ノ間ニハ種々ノ誤解アリタルナルヘク其結果今回ノ非公式予備交渉ニ入ルニ当リ「ヨッフエ」後藤間ノ話ハ之ヲ存在セサリシモノト認ムル旨日本政府ニ於テ御断リ致シタルモノト解セラレ従ッテ各種ノ問題ニ付川

一部日本人間ニ術策多キ露国旧来ノ外交ヲ忘レサルモノアルコト之ナリ

(レ) 川上代表ハ或方面ノ「インフルーエンス」ヲ受ケ漸次態度強硬トナル氣味アルハ遺憾ナリ

(宮) 「ヨッフエ」氏ハ談判中克ク日本ノ輿論ナルモノヲ引用セラルル処露国問題カ種々論議セラレ一部ニハ「ヨッフエ」氏ノ引用セラルル如キ議論アルハ事実ナルモノ之ヲ以テ直ニ日本全般ノ輿論ト見ルハ誤レリ日露兩國カ親善關係ヲ保タサルヘカラサルコトニ關シテハ異論ナキモ其ノ道程ニ横タハル個々ノ問題ニ關シテハ必スシモ「ヨッフエ」ノ思考セラルル如キモノニアラス且日本ニハ表面ニ表ハレタル輿論ノ外潜在輿論トモ云フヘキモノアリ今日日露交渉ニ對シテ公然反對ノ措置ニ出テサルモ機ヲ見テ日露交渉ヲ攻撃ノ材料トシテ政府ヲ倒サントスルモノアリ川上代表ノ立場モ容易ニ非ス然シ川上代表ノ如ク露国ノ事情ニ精通シ同国ヲ理解スル人物カ交渉ノ任ニ當リタルコトハ貴方ノ幸ヒナリ

(レ) 「ヨッフエ」代表ハ本国ニ於テ勢力アル人物ナレハ之ト話ヲ纏ムルコトハ日本ノ為得策ナリ只心配ニ堪ヘサル

上「ヨッフエ」両代表間ニ意見ノ交換行ハルヘキコトハ最初ヨリ予見シ得タル所ナリ貴方ハ「ラパロ」条約ノ例ヲ引用セラレタルモ貴国カ独逸ト急速ニ「ラパロ」ニ於テ条約ヲ締結シタルコトハ連合國ニ對スル貴方ノ外交的「デモンストレーション」ニシテ巧妙ナル *Manoeuvre diplomatique* トハ思考スルモ右締結ノ交渉カ僅々数日ノ仕事ナリトハ信スル能ハス露独間長キニ亘リ伯林ニ於テ予備交渉ノ行ハレタルコトハ周知ノ事実ナリ時ニ「モスコ」ハ「ヨッフエ」氏ノ病氣ニ對シ果シテ如何ナル態度ヲ採リ居ルモノニヤ

(レ) 莫斯科モ最初「ヨ」氏ハ離床シ得サル程ノ病氣ナリトノ報知ニ接シ乍ラ間断ナク「ヨッフエ」ノ筆ニナル種々ノ報告ニ接スル為如何ナル訳ナルヤ諒解ニ苦シミ「エチンゲル」ヲ見舞ニ派シタル次第ナリ「ヨッフエ」ハ誠心誠意ノ外交官ニシテ常ニ術策ヲ弄シテ一時ノ利益ヲ得ルモ怨ヲ将来ニ買フカ如キハ拙劣ナル外交ナリト我等後輩ヲ諫メ居レリ

(宮) 川上代表ノ外交ニ對スル見解ハ全然「ヨッフエ」氏ノソレト一致ス氏モ誠心誠意ノ人ナリ只予ノ遺憾トスルハ

ハ「ヨッフエ」氏ノ病状ナリ折角ノ交渉中途中万一ノ事アリテハ勞シテ功ナキコトナルニ付川上代表カ何トカ話ヲ急カレンコトヲ希望ス又斯クスルコトハ日本ノ利益ナリト思考ス

(宮) 「ヨッフエ」氏ノ病状ニ關シテハ川上代表ニ於テモ常ニ憂慮シ居ル所ニシテ同代表ニ於テ掛引ノ為談判ヲ遷延セシムルカ如キコト絶対ニナシ「ヨッフエ」氏ニ於テモ淡泊ニ出テ譲ルヘキハ譲リ早ク話ヲ纏メタキモノナリ

(レ) 露国側ハ今日迄讓歩スルノミナルニ日本ハ反對ニ自己ノ利益ノミヲ主張ス尼港事件ノ陳謝文ニセヨ「日本ニ對シ」「領事ヲ始メ」等日本ノ希望ヲ容レテ挿入セリ就テハ露国ノ希望ヲモ容レラレ度シ抑尼港事件ハ露国側ニ責任アリト云ハルルモ日本ニシテ出兵セサリシナランニハ尼港ノ不幸事起リタルヘキヤ

(宮) 此ニ論者アリ曰ク事ハ總テ原因ナクシテ結果ナシ貴下等カ露国ニ革命ヲ起スコトナク露国カ何処迄モ連合國ト事ヲ共ニシ戰爭ヲ繼續シタランニハ世界戰爭モ早目ニスミ露国モ「ダーダネルス」及君府ヲ得テ満足シタリシナラン

(レ) 「トリャビーツィン」ハ赤軍司令官ナリト云ハルルモ然ラス当時労働政府ハ未タ勢力極東ニ及ハス「トリャビーツィン」ノ率ユル部隊ハ赤軍ト称スルモ之ニ対シ何等責任ヲ負フコト能ハス

(宮) 「トリャビーツィン」ハ貴下等カ「モスコ」及「ペトログラード」ニ於テナシタル所ニ倣ヒ尼港ニ於テ「ツヴィエト」ヲ組織シ執行委員会ヲ選舉シ之ニ行政各部ノ「コミサリアト」ヲ設ケタリ貴方カ現ニ尼港ニ対スル正当政府ヲ以テ任スル以上貴方カ精神のニ勢力ヲ及ホシタル時代ニ於テ起リタル事件ニ関シテハ責任ヲ負ハサルヘカラス況ンヤ「トリャビーツィン」カ赤軍司令官ナルコトハ「チチュリン」モ之ヲ認メ且「ケルビ」村国民裁判所ノ裁判文中ニ明記セルニ於テヤ貴方ハ一ニモ譲歩シ二ニモ譲歩スト云ハルルモ日本本来ノ主張ハ今日迄ノ所ヲ以テスレハ露国側カ同意セントスルモノヨリ遙ニ強キモノナルコトハ御承知ノ通りナリ從ツテ譲歩シタルハ露国側ニ非スシテ日本側ナル訳ナリ殊ニ露国ノ要求タル撤兵及承認ノ二条件ハ余リニ最後の絶對のニシテ折衝ノ余地ナク日本ノ条件ヲ容ルレハ其儘全部容ルル次第ニテ自然之ニ関スル論議ヲナ

テ日本ノ感情ヲ融和スルニ努メサルハ甚タ遺憾ナリ

偶然ノ機會ニ知己トナリタル露国文豪「ゴリキー」ハ曾テ予ニ書面ヲ寄セ日本国民ノ精力ハ進シテ全東方ノ創造力ヲ振興シ美ト自由ニ於テ調和のナル生存ニ対スル一般人類ノ向上心ニ新シキ力ヲ与フルモノナリト云ヘルカ之レ実ニ吾人ノ理想ナルカ自分ハ日本国民ニシテ一面東洋のナル露国民ト提携シタランニハ必ス此ノ理想ヲ實現シ得ヘシト固ク信スルモノナリ

(レ) 貴説尤モナリ然レトモ日本ニハ貴下ノ如キ日露親善ヲ信スルモノアリヤ

(宮) 日露親善ヲ信スルモノハ独リ我輩ニ限ラス貴下等ノ知ラルル後藤子ハ言ハスモカナ其他有力ナル政治家中多数ノ日露親善論者アリ只現在ノ国際政局ニ顧ミ日露親善論ハ未タ表面ニ現レサルモ其ノ潜勢力ハ大ナルモノナリ

(レ) 内田大臣ハ如何

(宮) 自分ハ内田伯カ在露大使時代在露大使館員トシテ親シク伯ノ意見ヲ聞キ又自分ノ意見ヲ具申シタルコトアルモ外相ハ予カ知ル限ニ於テ最モ熱心ナル日露親善論者ナリ且伯ノ日露親善論ハ最モ深キ研究ノ結果ニシテ根底深シト信

ササル為露国側ハ日本ノ要求ノミアリテ露国ノ要求ナキカ如クニ考ヘラレ事毎ニ日本ニ譲歩セルカ如キ感ヲ懷カルルヤモ知レサルモ之レ大ナル誤謬ナリ事実ハ貴方ニ於テ日本側ノ要求ヲ切り崩シ譲歩ヲ強ヒツツアルニアラスヤ次ニ貴方ノ云ハルル尼港問題ニ対スル陳謝文ナルカ右ハ遺憾ノ表示ナリ残忍極マル尼港事件ノ發生カ遺憾ニ値スルコトハ何人モ異論ナキ所ニシテ之ニ対シ露国カ遺憾ノ意ヲ表スルコトハ左程其ノ体面ヲ損スルコトナラスト思考ス露国民モ之ヲ諒トシ反対セサルヘク日本国民モ露国政府ニ於テ一旦同事件ニ対シ遺憾ノ意ヲ表シサヘスレハ從來ノ憤怒ヲ忘レ露国民ト親善融和スルニ至ルヘシ然ルニ徒ニ貴案ノ如ク後世露国民カ陳謝文ヲ一読シテ其ノ胸裡ニ多少ナリトモ不快ノ感ヲ残スカ如キ文句ヲ挿入スルコトハ今回ノ国交復旧ヲ期トシテ永遠ニ親シムヘキ運命ヲ有スル兩國政府者ノ慎ムヘキコトニアラスヤ日露間ノ総テノ問題ハ将来兩國ハ事ヲ共ニスヘキ重大ナル使命ヲ有ストノ自覺ニ出テ解決セサルヘカラス此ノ高大永遠ナル見解ヨリスレハ貴方ハ須ラク露国人ノ特性タル *широкая гартя* ヲ以テ尼港及「サガレン」問題ニ於テ快ク日本ノ希望ヲ容レ陳謝文ノ文案等ニ

ス

(レ) 貴下ヨリスノ如キ事情ヲ承知シ大ニ安堵セリ尼港事件ノ如キモ日本側カ国際義務問題ニ関シ譲歩セラルレハ譲歩スヘシ露国ハ第一現在ノ状態ヲ以テシテハ債務ヲ償還シ得ス第二ニ戰時中ノ債務ハ軍需品ノ購入ニ当テタルモノニシテ悉ク連合国内ノ共同作戰ノ為ニ使用セラレ然モ連合国内何レモ戦利品ヲ得タルニ露国ハ数百万ノ死者ト不具者ヲ得タルノミナリ

(宮) 世界何人モ露国ノ現状ヲ以テシテハ現金ヲ以テ債務ヲ償還シ得ルモノトハ信セサルヘシ故ニ貴方ハ債務者トシテ支払ニ窮シタル際普通ニ行ハルル当然ノ措置ヲ採ラルレハ可ナラスヤ只公債ノ無効ヲ主張スルカ如キハ世界ノ容易ニ首肯セサル所ナルヘシ

(レ) 米國ハ露国ニ資本ヲ投セントシテ盛ニ調査ヲナシツツアリ日本カ徒ニ逡巡セハヨキ計ハ総テ米國ニ吸ハルヘシ(宮) 米國ノ張り切レンハカリニ蓄積セル大資本ハ大ナル投資場ヲ要求ス之ヲ与ヘサルハ自然ニ反ス露国ニシテ異議ナケレハ吾人ハ決シテ米國資本ノ露国活動ヲ妨害セントスルモノニアラス又サリトテ其ノ独占ヲ喜フモノニ非ス何処

迄モ機會均等主義ヲトルモノナリ只露国ニトリテ考フヘキハ如何ナル資本ニ活動ヲ許スヲ得策トスルヤニアリ米国ノ如キ英国ノ如キ強力從ツテ侵略的ナル資本ニ活動ヲ許シ後日ニ至リ其ノ羈絆ヲ脱スルコト能ハサルニ至リテ淺見ヲ悔ユルコトナキヤソレヨリ寧ロ何等斯ノ如キ危険ナキ日本資本ニ活動ヲ許スカ露国ニトリ安全ナラスヤ

(レ) 本非公式予備交渉ノ結局ハ如何

(宮) ヨクハ承知セサルモ自分ノ考ニテハ先ツ兩代表ニ於テ意見交換ヲ行ヒ幸ヒ双方意見ノ一致ヲ見ナハ其ノ結果ヲ一括代表限リノ覚書トナシ置キ之ニ関スル各当該政府ノ意向ヲ尋ネ其ノ同意ヲ得ルト共ニ兩代表ハ各自本国政府ヨリ正式予備交渉代表者タルノ任命ヲ受ケ前記覚書ヲ兩当事国政府ヲ拘束スル予備取極トナシテ調印シ後直ニ正式交渉ニ入ル順序トナルニアラスヤ

(レ) 今夜ノ会谈ニテ大分貴方ヲ諒解シ得タル様感ス今後モ斯ル会合ノ機ヲ得タシ最後ニ繰返シ申シタキハ「ヨッフエ」ノ容態ナリ万一ノ事アリテハ折角ノ交渉モ水泡ニ帰スヘキニ付貴方ニ於テモ話ヲ急カレンコトヲ望ム

(宮) 右ハ川上代表迄貴下ノ意見トシテ伝ヘ置クヘシ

シト提議シタルニ

「ヨッフエ」代表ハ尼港事件ノ問題ハ根本ニ於テ即チ露国カ一方のニ日本ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルコトニ於テ且又陳謝文案ノ一部ニ付双方ノ合意ヲ見タルモ猶一部ノ文案ニ付意見全然一致スルニ至ラサルニ付暫ク之ヲ未決ノ儘ニ留保スルコトト承知スヘキヤトテ本件ニ関シ特ニ記録様ノモノヲ作ラントスル意向ト察セラレタルニ依リ

川上代表ハ日本ハ露国側ニ於テ一方のニ遺憾ノ意ヲ表スルニ於テハ尼港事件ノ際蒙リタル日本人ノ損害ニ対シ物質上ノ賠償ヲ要求セサルヘキモ露国ハ其ノ代リトシテ「サガレン」問題ヲ日本ノ有利ニ解決スヘキ諒解ナリト断リタルニ「ヨッフエ」代表ハ露国ハ物質的賠償ニハ応スルコト能ハス抑尼港事件ハ日本ニ於テ責任ヲ負フヘキ筋ノモノナリ等従来ノ議論ヲ繰返シ頑強ニ抵抗セル外米國ハ露国ニ同情シ華府會議等ニ於テ日本ノ「サガレン」占領ヲ難シ居ルニ今露国自身カ尼港事件ニ対シ日本ノ要求ヲ認メテ一方のニ陳謝スルコトヲ約スルノミナラス尼港事件ニ対スル物質的賠償ノ代リトシテ「サガレン」問題ニ於テ更ニ讓歩スルカ如キハ米國ニ対シ不快ノ感ヲ与ヘ露国ノ對米關係ニ惡影響ヲ

二九三 七月二十日 川上代表
ヨッフエ代表 會議(第十回) 議事録
日露會議ニ関スル非公式予備交渉議事録
(第十回正式會見)

大正十二年七月二十日(午後一時乃至同四時)

築地精養軒「ホテル」ニ於テ

出席者日本側露国側共前回ノ通

本日「ヨッフエ」代表ハ川上代表カ將ニ築地精養軒ニ向ハントスル二十分前ニ至リ漸ク前回會議ニ於テ約束セル先方第三案(別紙ノ通り)ヲ特使ヲ以テ送付シ来レリ川上代表ハ一読直チニ同案第四項カ前回會議ニ於テ先方カ主張シタル所ト甚シク相違シ且大ニ緩和シアルヲ認メタルモ會議ノ時刻迫リタルヲ以テ大臣ノ意向ヲ確ムルコトナク其ノ儘會議ニ臨ミタリ

川上代表ヨリ「ヨッフエ」代表ニ対シ貴方第三案カ出發間際ニ届キタル為政府ノ意向ヲ確ムルコト能ハサリシモ政府ハ恐ラク当方第二案ヨリ讓歩セサルヘシト思考ス尤モ新案ハ自分ニ於テ充分研究ノ上政府トモ相談スルコト致スヘシ就テハ本問題ハ此ノ儘未決トシテ留保スルコト致シ度

与フルコトトナルヘキニヨリ親米論者多キ勞農政府ノ絶對

ニ首肯セサル所ナルヘシ自分モ極東ニ來ル迄ハ親米論者ナリシカ今ヤ米國ノ倚ムヘカラサルヲ知り自分ハ日露独支ノ四国同盟論者トナレリ從テ尼港事件ニ関シテモ日本ニ対シスル讓歩ヲナス次第ナリ露国ニ於テ此ノ四国同盟ヲ信スルモノハ自分ノ外恐ラク「ラデク」ノミナラント述ヘタリ

川上代表ヨリ「レーニン」ハ如何ト問ヒタルニ対シ「ヨッフエ」代表ハ同人ハ今ヤ病氣ニテ駄目ナレト矢張り親米論者ナリキト答ヘタリ「ヨッフエ」代表ハ日本ニハ交渉ノ誠意ナク只本年九月ニ衆議院議員ノ総選舉アリ本交渉ヲ遷延シ何等内政上ニ利用セントスルモノト誤解シ居ルヤニ見エタルニ付

川上代表ハ本年ハ衆議院ノ総選舉ナキコト日本ハ誠意交渉ノ円滿終結ヲ希望スルモノナルコトヲ述ヘ先方ニ於テ非公式予備交渉ノ結果ヲ如何ニシテ拘束力アラシメントスルヤヲ尋ネタルニ未タ確タル方法ヲ考ヘ居ラサルモノノ如シ

「ヨッフエ」代表ハ阪本主治医ノ勸告モアリタルヤニテ今後會議ヲ一週二度トナサンコトヲ提議シタルニヨリ川上代表ハ之ニ同意シ今後毎週火金ノ二度午後一時乃至三時會議

ヲ催スコトナセリ

本日ハ之ニテ会議ヲ終リ左ノ新聞公表ヲ作成セリ

日露両国代表ハ本七月二十日ノ會議ニ於テ引続キ尼港問題ヲ議シ次回ニ於テハ同問題ノ或ル点ニ関シ審議ヲ遂ケ同時ニ他ノ議題ニ移ルコトナセリ

出席者前回ノ通り

(付録)

余談トシテ鈴木重治カ締結セル沿海州森林利権契約話題ニ上リタルヲ以テ右利権契約カ「モスコ」ノ批准ヲ得サルタメ当業者窮境ニ陥リ居ル事情ヲ述ヘ応分ノ助力ヲ望ミタルニ「ヨッフエ」代表ハ右ハ「コーボゼフ」カ越權ノ処置ニ出テタルタメ不快ナル誤解ヲ惹起シタルモノニシテ同契約カ露國ノ法律ニ触ルル以上如何トモスルコト能ハサルモ莫斯科ニ於テ出来ル文同情ヲ以テ之ヲ解決スル様努力スヘシト述ヘタリ

(別紙) 訳文

露國側第三案

露西亞國ハ千九百二十年三月十二日ヨリ同年五月二十七日ニ至ルノ間「アムール」河畔「ニコラエフスク」市ニ於テ

発生セル残忍ニシテ罪惡ナル事件ニ付「日本國ニ對シ」最モ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表ス當時日本軍人三百五十一名ノミナラス「領事ヲ始メ」平和ノ日本居留民三百八十四名男女小兒ノ別ナク「トリヤビーツイン」ノ率ユル部隊ノ兇手ニ斃レ續テ「ニコラエフスク」全市ハ約八千ノ露西亞住民ト共ニ「トリヤビーツイン」ノ為焦土ニ歸セシメラレタリ

「トリヤビーツイン」及其部下ハ露國正當裁判所ニ於テ最高刑罰即チ死刑ヲ宣告セラレ右「一九二〇年七月九日付」宣告ハ直ニ執行セラレタリ

露西亞ハ前記ノ事實即チ自國ノ犯罪者ニ對シ充分峻嚴ナリシト共ニ眞実平和ヲ切念シツツモ如何ナル惡運ノ為ニヤ到ル処自國及革命ノ成果ヲ擁護スルノ已ムヲ得サリシ事實ヲモ摘示セント欲スルモノナリ

露西亞ハ尼港事件ニ關スル本条ニ依リ日露ノ相互關係上最モ重大且困難ナル問題カ完全ニ解決セラルルノミナラス同事件ハ既ニ兩大国間ニ於テ自然ニ成熟シツツアル接近ヲ阻止スルコト能ハサルヘク而モ右接近ハ早晚兩國ヲ善隣關係ニ導クヘキノミナラス或ハ兩國民中ノ幾千人カ今日既ニ切

望シツツアル親善ニ導クモノナルコトヲ信シ且望マント欲スルモノナリ

註 露語ノ露國側第三案ヲ省略ス

二九四

七月二十四日

川上代表
ヨッフエ代表

會議(第十一回)

日露會議ニ關スル非公式予備交渉議事録

(第十一回正式會見)

大正十二年七月二十四日(午後一時乃至六時)

築地精養軒「ホテル」ニ於テ

出席者日本側露國側共前回ノ通

川上代表ヨリ政府ハ露國側第三案ヲ其儘受諾スルコトヲ肯セサルニ付日本側第二案ニ同意セラレンコトヲ求メタルニ「ヨッフエ」代表ハ然ラハ本問題ハ未決ノ儘トシ他ノ問題ノ審議ニ移ルコトトシテハ如何ト答ヘ

川上代表ヨリ然ラハ七月四日ノ會議ニ於テ先方ニ交付セル當方要求中國國際義務ノ履行ニ關スル先方ノ回答ヲ求メタルニ

「ヨッフエ」代表ハ

貴方ハ旧條約ノ承認ヲ以テ國際信義ノ表章國際關係ノ根本

原則ト云ハルルモ國際條約ニハ種々ノ條約アリテ必スシモ國際信義ニ適合スト云フコトヲ得サルモノアリ又旧條約モ時勢ニ適応セサレハ之ヲ廃棄シ之ヲ改訂スルコトアリ況ンヤ露國ニハ大革命起リ國內ノ組織制度全然革マリタルニ於テヲヤ新シキ主義ノ上ニ立チタル露國ハ帝政時代ニ締結セラレタル侵略的帝國主義的條約ハ之ヲ認ムルコトヲ得ス外國債務ニ對スル露國ノ態度ハ「ゼノア」及「ヘーグ」會議ニ於ケル態度ニテ明白ナリ殊ニ戰時債務ハ之ヲ承認セサルコトハ當時ノ聲明及予カ幾度カ新聞紙上ニ聲明シタル所ニ依リテ明ナリ今回ノ世界戰爭ハ帝國主義的戰爭ニシテ之ヲ一ツノ經濟的商取引ト見ルコトヲ得ルナリ連合國ハ互ニ戰捷ヲ得タル場合如何ナル利益ヲ獲得スヘキカヲ約シ露國ニ對シテハ君府及海峽ヲ約セリ

然ルニ露國民ハ戰爭中途ニシテ革命ヲ起シ自ラ政權ヲ掌握スルト共ニ其ノ當然受クヘキ前記權利ヲ拋棄セリ今連合國ニシテ戰爭ニ使用セル債務ノ償還ヲ求メハ露國ハ連合國ニ對シテ君府及海峽ノ引渡ヲ要求スヘキナリ日本ニ對スル露國ノ債務ハ總テ戰爭ノ用途ニ使用セラレタルモノニシテ而モ現金ヲ以テセルモノニ非ス品質劣等ナル軍需品ヲ以テセ

ルモノナリ右債務ハ戦争ノ為使用セラレタルモノナルヲ以テ日本ノ利益ノ為ニモ使用セラレタルモノナリ一般戦勝ノ為日本及連合国カ露国ニ対シ財政上ノ援助ヲ与ヘタルニ対シ露国ハ千五百万ノ肉弾ヲ戦線ニ送り五百万ノ死傷者ヲ出セリ其ノ四ケ年間ニ蒙レル戦争ノ損害ハ連合国ヨリ供給セラレタル軍需品ノ価格ヨリ遙カニ大ナリ故ニ露国ハ既ニ債務ヲ償還セリト云フモ過言ニ非ス又露国カ中途ニシテ戦争ヨリ脱退セリト責ムルモノ之レ不可抗力ニ依ルモノナリ次ニ没収セラレタル私有財産及権利ノ返還又ハ賠償問題ナルカ露国ハ之ヲ承認スルコトヲ得ス殊ニ本問題ハ日本人ニ関係スルコト極メテ少ク日本人ノ財産及権利ハ主トシテ極東方面ニアリ極東方面ニハ国有制度実施セラレサリシヲ以テ日本人ノ損害ハ云フニ足ラサルモノナリトテ国際義務履行問題ノ全般ニ亘リ頑トシテ其ノ主張ヲ枉ケス

茲ニ於テ川上代表ハ更ニ次ノ声明ヲ為セリ
 国際法ノ根本原則ニヨレハ一國カ旧来ノ領土及住民ヲ基礎トシテ存立スル限リ其ノ國際的地位ハ国内ノ改革又ハ政変ニヨリ変化ヲ招来スルモノニアラス如ク革命ニヨリテ樹立セラレタル新政府ハ従前政府ノ權利義務ヲ完全ニ継承

年ノ維納條約ヲ以テ仏國ヲ拘束スルモノニ非ストノ宣言ヲ發表シタルカ列強ハ極力之ニ反対シ前記條約カ列國相互ノ同意ニヨリテノミ廃棄セラレ得ルモノナルコトヲ立証セリ故ニ勞農政府ニシテ日本ヨリ正式承認ヲ得ント欲セハ今日迄日露間ニ締結セラレタル總テノ條約ノ効力ヲ認めサルヘカラス之レ國際信義ノ根本原則ナレハナリ

日露間ノ條約カ戦争ノ為効力ヲ失ヒタリト云フ理由ハ兩國間ニ戦争ナルモノナカリシテウ單ナル理由ニヨリテ成立セス日本及連合国カ西伯利ニ出兵シタルハ當時露國ノ政情混沌トシテ与軍タル「チエク・スロヴァク」軍極度ニ窮迫ノ状態ニアリシ為之ヲ救援センカタメナリキ「チエク・スロヴァク」軍ハ曾テ露國政府ヨリ与軍ト認めラレ壞國ニ対シテ露國軍ト戦争ヲ共ニセリ日本カ其後引続キ軍隊ヲ西伯利ニ駐屯セシメタルハ最初「チエク・スロヴァク」軍ノ無事救援ノタメ交通路ヲ守備スルニアリシモ後日本居留民ノ保護ヲ必要トシタルカ為ナリキ日本軍ハ最モ誠実ニ其任務ヲ遂行シ曾テ戦争當事國トシテノ權利ヲ行使シタルコトナク軍事占領又ハ戦争ト称スヘキ行為ヲ為シタルコトナシ若干地点ニ於テ事實彼我ノ間ニ衝突アリタルモ右ハ日本軍隊ニ

スルモノニシテ政變ヲ理由トシテ従前政府カ外国政府ト締結セル國際條約ノ効力ヲ否定スルコトヲ得ス此ノ一般法則ハ一八三二年二月十九日白耳義王國ノ獨立ヲ正式ニ承認セル五大國ノ倫敦宣言書中ニ表示セラレアリ

以上ノ如キ類例ハ歴史上乏シカラス英國ノ第一及第二革命ノ際（一六四九、一六八八年）同國民「クロムウェル」「ウィルヘルム」孰レモ「カール」一世及總テ「スツアルト」朝ノ締結セル條約ノ効力ヲ否定セサリキ「スツアルト」朝ハ「カルロ」二世ノ時（一六六〇年）政權ヲ復興シタリシカ彼ハ又「クロムウェル」ノ締結セル條約ヲ承認セリ一七八九年ノ仏蘭西革命ハ仏國ノ旧制度ヲ根本的ニ變更セルニ拘ラス一七九〇年ノ國民議會ハ「リュドヴィク」十六世ノ時及其ノ以前ニ締結セラレタル國際條約ニヨル仏國ノ義務ヲ免カレントスルコトナカリキ尤モ一七九二年ノ國民議會及「コンヴェント」議員中ニハ強烈ナル反對者アリテ従前政府ノ締結セル條約ヲ以テ仏國ヲ拘束スル力ナシト宣言セルコトアルモ歐洲列國ハ之ヲ肯セス右條約ノ違反ヲ以テ列國ノ權利ヲ侵害シタルモノト認めタリ又第二仏國共和國時代（一八四八年）仏國外務大臣「ラマルチン」ハ一八一五

於テ守備ノ任ニ當レル鐵道線路ヲ破壊セントスル敵對行為ニ対シテ執レル軍事行動自然ノ結果ニシテ戦争ト称スヘキニアラス日本ニハ何等戦争セントノ意図ナク又戦争状態ナカリシナリ

吾人ハ日露間ノ國際條約中時勢ノ變遷ニ伴ヒ改訂ヲ要スルモノアルコトヲ否定スルモノニ非ス吾人ハ後日正式交渉ニ於テ從來ノ條約又ハ協定ニ依リ我方カ獲得シタル權利又ハ利益ヲ露國側ニ於テ尊重シ既成事實ニ就キ變更ヲ加ヘス從前ノ條約又ハ協約ニヨル我方ノ地位ヨリ不利ナラサル様新條約ヲ締結スルコトトスルニ於テハ旧條約ヲ廃棄スルコトニ同意スヘシ

但シ日露兩國ヲ包含スル多數當事國間ノ條約ノ存廢又ハ改訂ニ關スル問題ハ他日關係諸國間ノ共同決定迄留保スルモノトス

國際法ニ依レハ如何ナル國家モ革命ヲ理由トシテ外國ニ對スル其ノ債務ヲ廃棄スルコトヲ得ス債務ノ原因又ハ用途ハ之ヲ問フノ必要ナシ從ッテ露國カ日露間ニ現存スル國際債務ヲ認メストノ理由ナシ

露國ハ戦勝ノ分配ニ与ラス故ニ戦争ニ使用セラレタル債務

ヲ認ムル理由ナシト云フモ之レ露国カ与国ヲ売リ且单独講和ヲナサストノ約ニ背キテ「プレス・リトフスク」平和ヲ締結シ自ラ戦勝ノ分配ヲ抛棄セルモノニシテ露国自身ノ罪ナリ

若シ露国ニシテ困難ナル財政状態ノ為前記債務ノ支払ヲ不可能トナシ其ノ支払猶予又ハ一部ノ免除ヲ得ンコトヲ希望スルニ於テハ日本政府ハ斯ル問題ノ解決ニ関シテ露国ト交渉ニ入ルコトヲ拒ムモノニ非ス然レ共露国カ日本ニ対スル其債務ヲ廃棄スルコトハ仮令右債務カ戦時債務ナリトスルモ之ヲ認ムルコトヲ得ス

如何ナル国家ト雖モ其ノ制度又ハ国内法ノ変化ニヨリ外国人ニ属スル權利及財産ヲ不当ニ侵害スルコトヲ得サルハ国際法上確立セラレタル所ナリ

故ニ露国ハ日本人ノ權利及財産ニ加ヘタル侵害ニ対シ責任ヲ負ヒ既ニ没収セル權利又ハ財産ヲ返還スルカ又ハ賠償ヲナササルヘカラス日本臣民ノ有セル私有財産ニ加ヘタル侵害ニ付露国ノ責任ヲ免除スルニ於テハ日本政府ハ当該自国民ニ対シ右免除ニヨル損害賠償ヲ自ラ負担セサルヘカラサルニ至ルヘシ

二、尼港問題ニ関シテハ

露国ハ日本ニ対シ尼港事件ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルコトニ同意ス但シ文案ハ未決

日本ハ尼港事件ニ際シ自国人ノ蒙リタル損害ノ賠償ヲ要求セサルコトニ同意ス

三、露国ハ北「サガレン」以外ノ極東ニ於ケル森林及鉱業ニ関スル利権ヲ日本人ニ与フルコトニ同意ス

四、国際義務問題ニ関シ

露国ハ日本ノ要求ヲ承認スル能ハス

五、相互ニ他ノ当事国人民ノ生命ノ安全ヲ保障シ私有財産ヲ尊重シ之ニ可成広汎ナル商業及産業ノ自由ヲ与フルコトハ何レ通商条約ノ締結ノ際規定スヘキ問題ナルヘキモ實際問題トシテ反対ナカルヘク商業ノ自由ノ如キ多少反対アルヘント思考スルモ貴案ノ如ク「可成広汎ナル範圍ニ於テ」我法律ニ基キ最惠待遇ヲ与フルコトニハ異議ナカルヘシ

六、露国ハ当事国相互ノ安寧秩序ヲ害スル有害ナル宣伝又ハ侵略行動ヲ禁止スルコトニハ同意ス但シ日本帝国領土及其ノ租借地内ニ於テ所謂白衛軍人即露国ニ対シテ為セ

「ヨッフエ」代表ハ右声明ニ回答スルニ先チ予テ述ヘタル先方要求即チ「日本政府ハ自己ヲ拘束スル何等カノ形式ニ於テ正式交渉開始前露国ノ受諾シ得ヘキ北「サガレン」撤兵期日ヲ公ニ明示スルコト」ニ対スル当方ノ意向ヲ承知シタシト申出テタルニヨリ

川上代表ハ北「サガレン」ノ撤兵ハ当然正式交渉ニ於テ決定スヘキコトナルヲ以テ夫レ迄ハ政府ニ於テ撤兵ノ期日ヲ明示スルコト能ハスト思考ス加之尼港問題及「サガレン」問題其ノ他ニ関スル双方ノ意見未タ全ク一致スルニ至ラサル今日貴方ノ要求ニ応スルコト能ハサルヘント思考スル旨回答シタルニ

「ヨッフエ」代表ハ

日本側ノ要求

一、「サガレン」問題ニ関シテハ

売却ノ場合露国側ノ評価ハ十五億留ニシテ日本側ノ評価ハ一億五千万円ナリ

利権提供ノ場合露国ハ石油森林等ノ富源開発ニ関シ日本政府又ハ日本会社ニ対シ九十九ヶ年乃至五十五ヶ年ノ長期利権ヲ与フルコトニ同意ス

ル武力干渉ニ参加セル旧露国人ノ滞在ヲ禁止スルコト及日本帝国領土及其ノ租借地内ニアル露国軍需品(奪掠セル露国船舶ヲ含ム)ヲ返還スルコトヲ追加スヘキモノトス

トテ日本側要求ニ関スル先方ノ立場ヲ説明シ之ニテ大体話カ尽キタルモノト思考スル旨述ヘタルニヨリ

川上代表ハ各種ノ問題ニ付キ全部双方ノ意見一致セリト云フコトヲ得ス之ヨリ更ニ一致点ヲ見出ササルヘカラスト思考ス殊ニ最後ニ追加セラレタル白衛軍人ノ滞在禁止ノ条件ノ如キハ同意スルコトヲ得ス日本政府ハ刑事犯人ノ引渡シニハ異議ナカルヘキモ政治犯人ノ引渡シニハ同意シ難カルヘシ露国カ結ヒタル何レノ国トノ条約ニモ個々ノ露国人ニ対シ曾テ対露国武力干渉ニ参加セリトノ理由ニテ滞在ヲ禁止ストノ規定ヲナシタルコトナシ露国政府ニ反対ナル団体ノ組織及滞在ヲ禁スルコトハ有リ得ヘキモ個々ノ露国人ニ対シ滞在ヲ禁スルコトハ有リ得サルコトナリ有害ナル宣伝及侵略的行爲ヲ禁止スルコトハ「ゼノア」ニ於テ締結セラレタル非侵略協定中ニアル文句ニテ右ニテ充分ナリト思考ストテ前記文句ノ挿入ニ反対シタルニ

「ヨッフエ」代表ハ最初容易ニ肯セサリシモ当方提議ノ意味ヲ詳細且明確ニ説明スルコトトシテ結局日本側ノ提議ヲ容ルル旨申出テタリ

「ヨッフエ」代表ハ更ニ國際義務問題ニ関スル当方声明ニ対スル回答ヲナスニ先チ前記ノ如ク大分議論ヲ尽シタルニ付露国側ノ要求ニ対スル日本側ノ意向ヲ承知シ度シテ露国側ノ第一条件タル平等待遇ハ此ノ會議ニ於テ之ヲ削除スヘキモ第二ノ条件タル撤兵期日ノ明示及第三条件タル正式承認ニ対スル当方ノ意向ヲ尋ネタルニ付

川上代表ハ当方要求ヲ全部容ルレハ撤兵期日モ明示シ正式承認ニモ同意ヲ与フヘシト答ヘタリ

「ヨッフエ」代表ハ右当方ノ意向ヲ聴取リタル後國際義務問題ニ関シ貴方ハ「ブルジョア」時代ノ國際法ヲ引用セラルルモ國際法ナルモノハ習慣法ナリ時ト共ニ変化ス前世紀ノ革命ハ貴説ノ通り外國ニ対スル從前政府ノ義務ヲ認メタリ之レ當時革命ヲナシタルモノカ等シク「ブルジョア」ナリシカ為ナリ露国ハ暴動即革命ノ權利ヲ認ム「ブルジョア」的現代國際法学者中ニモ之ヲ認ムルモノナキニアラス革命ハ帝政時代ニ締結セラレタル侵略の帝國主義的國際条

ニ對シテハ自分ハ掛値ナキ最後ノ回答ヲナシタル次第ナレハ之レ以上讓歩ノ余地ナク貴方ニシテ讓歩セラルレハ格別然ラサレハ後藤子トノ會談ノ際逢着セル難関ニ再ヒ逢着スル訳ナリ我々ノ間ニテハ既ニ話ヲ尽シタレハ之ヨリハ意見ヲ交換セル結果ヲ各自本國政府ニ報告シ夫々之ヲ基礎トシテ正式予備交渉又ハ正式本交渉ヲナス意向アリヤ否ヤ確ムルコトトスルノ外ナシ就テハ貴方ニ於テ今迄ノ話ヲ基礎トシテ正式予備交渉ヲ開始セラルルコトニ同意ナルニ於テハ其旨本國政府ニ電報ヲ以テ請訓スヘシ又日本ニシテ撤兵期日ノ明示及正式承認ノ二条件ヲ容ルレハ露国ハ直ニ正式交渉ニ入ルノ用意アリト述ヘタリ

川上代表ハ日本ハ露国ニシテ当方ノ要求ヲ全部容ルレハ露国側ノ二条件ヲ容ルルニ異議ナカルヘシ但本日ノ會議ヲ以テ最後トナスカ如キハ到底不可能ナリ次回ニ於テ徐ニ審議スルヲ可トスヘシト述ヘタルニ

「ヨッフエ」ハ遽ニ話ヲ急クモノノ如ク然ラハ明日ニモ會議ヲ開カント提議シタルモ結局常例會議日タル来ル金曜日ニ會議ヲ開クコトトシ其ノ代リ會議開催以來今日迄ノ成行即會議中問題トナリシ議題ニ付双方意見ヲ交換シタル結果

約ヲ認メサルノミナラス之ヲ排斥スルモノナリト述ヘタリ川上代表ヨリ露国ハ如何ナル法律ヲ以テ總テノ國際條約ヲ無効トナシタリヤト尋ネタルニ

「ヨッフエ」代表ハ露国ハ秘密條約ハ之ヲ廃止シタルモ一般條約ハ之ヲ廃止シタルコトナキ筈ナリト答ヘタリ

川上代表ハ予テ「ヨッフエ」代表主治医及秘書ヨリ再三ノ注意モアリ會議規定ノ時間超過シタルニ付玆ニ會議ヲ打切り次回ニ讓ランコトヲ提議シタルニ

「ヨッフエ」代表ハ突然會議ハ本日ヲ以テ最後トナスヘキニ付時間ヲ延長センコトヲ求メタリ

川上代表ヨリ自分モ可成速ニ終了センコトヲ希望スルモ種種ノ重大問題ヲ控ヘ乍ラ交渉開始後僅カ一ヶ月ニシテ全部ヲ議了スヘシトハ思ヒモヨラサリシ所ナリ貴方ハ本日ノ會議ヲ以テ最後ト云ハルルモ未タ双方ノ間ニ意見ノ一致ヲ見サル点多シ之ヲ如何ニスヘキヤト尋ネタルニ

「ヨッフエ」代表ハ自分トシテハ最初明ニ政府ノ意ヲ受ケタル後藤子ト非公式ニ交渉シタルヲ途中ヨリ加藤首相ノ発意ニテ官吏タル貴下ト非公式予備交渉ヲ統クルコトトナリタル迄ニテ既ニ六ヶ月モ交渉ニ費シタリ而シテ貴方ノ要求

即意見ノ一致点及不一致点ヲ取纏メ一ノ覺書トシ明日夕刻迄貴方ニ送付スヘキニ付次回ハ之ニ基キ最後ノ意見交換ヲ行ハンコトヲ提議シ且國際義務問題ニ関シテハ次回ニ於テ更ニ先方ノ意見ヲ開陳センコトヲ申出テタリ

川上代表ハ右覺書送付ノコトヲ諾シ本日ノ會議ヲ終リタルカ本日會議ニ関スル新聞公表左ノ如シ

日露兩國代表ハ本七月二十四日ノ會議ニ於テ尼港問題ヲ議シ更ニ國際義務問題及其ノ他ノ問題ノ審議ニ移レリ出席者前回ノ通り

(付録)

一、「ヨッフエ」代表ハ最近支那側ヨリ今回ノ會議ニ於テ支那ノ利益ヲ害スル取極ヲ為ササランコトヲ請求シ来レリト述ヘタリ

一、「ヨッフエ」代表ハ曩ニ後藤子ノ招待ニ応シ日本ニ遊ハントスルヤ勞農政府ハ日本ハ容易ニ交渉ニ応セサルヘシトテ其ノ日本行ニ反対セルコトヲ述ヘタリ

二九五 七月二十六日 ヨッフエ代表ヨリ
川上代表宛

露日正式代表ニ依リテ行ハレタル露日非公式

交渉ノ結果總括ヲ送付ノ件

付屬書 右總括

一九二三年七月二十六日

ア・ヨッフエ

露日非公式交渉日本代表

川上 俊彦殿

以書翰致啓上候

双方提議ノ審議点ハ交渉ノ發議者カ予想セシカ如キ精神ヲ以テ即各自ノ名ヲ以テ然モ可成各自政府ノ予期スル所ニ接近シテ全部審議シ尽シタルヲ以テ予ハ約束ニ基キ此ニ露日正式代表ニヨリテ行ハレタル露日非公式交渉ノ結果總括ヲ玆ニ添送ス

露国代表ニ於テハ此ノ事全部ヲ前記ノ趣旨ニ依リ履行シ日本代表ニ對シテナスヘキ何等ノ予備問題ナク又日本代表ニ於テモ既ニ交渉ノ非公式時代ニ相当スル何等ノ問題ヲ之レ以上露国代表ニ提示スルコト能ハサルヲ以テ極東諸邦駐派露西亞社会主義連邦「ソヴィエト」共和国特命全權代表ハ今後引續キ前記非公式交渉ヲ為スコト不可能ト認メ且六月二十八日乃至七月二十四日ニ亘リ行ハレタル非公式交渉ニ

於テ兎ニ角正式代表ニヨリテ採決セラレタル決定ヲ基礎トシ且長春ニ於テ決裂点ナリシ露領「サガレン」ノ即時撤兵ヲナス用意アル旨ノ日本側自主的の聲明ヲ以テ正式交渉ヲ開始スルコト必要ナリト思惟ス「サガレン」ハ現在迄不法ニ日本ノ手中ニ抑ヘラレアリ（況ンヤ非公式交渉ニ於テ兩大国間眞実ナル善隣關係ノ創造ヲ阻止スルコト甚ダシキ占領ナクシテ「サガレン」問題ヲ解決スルノ可能既ニ判明セルニ於テヲヤ）

而シテ未解決ノ儘ナル問題ハ來ル會議ニ於テ解決スヘキモノナリ
日本側カ今ヤ將ニ結了セムトスル非公式交渉中表示セルヨリモ更ニ大ナル「誠意」ヲ以テスルニ於テハ既ニ四回善隣關係ニ關スル正式條約ノ締結ニ着手セントスル双方ハ遂ニ相互ノ協定ニ到達スヘキ總テノ望アリ

恐ラク貴下ハ記憶セラルルナランカ予ハ之ヲ容易ニセンカ為本書翰中屢々記載セラレタル非公式交渉ニ於テ採決セラレ又ハ採決セラレサル決議全部ヲ總括スルコトヲ約セリ予ハ玆ニ貴下ニ對シ完全ナル敬意ヲ致スト共ニ今回ハ露日間ノ決裂カ成立セサル様全力ヲ尽スヘキ用意アルコトヲ証

言ス

註 本文書冒頭ニ左ノ記載アリ

「本書ハ七月二十七日午後十時「シワルツサロン」カ川上代

敬具

表邸ニ持參セリ」

尚露語ノ本文書及ビ付屬書ヲ省略ス

（付屬書）

右總括

露日正式代表ニ依リテ行ハレタル露日非公式交渉ノ結果總括

正 式 代 表

露西亞側

極東諸邦駐派露西亞社会主義連邦「ソヴィエト」

日本側

日本側提議

一、「サガレン」問題ニ關シ

（イ）露西亞ハ相當價格ヲ以テ露領「サガレン」ヲ日本ニ売却スルコトニ同意ス
日本ハ一億五千万円ヲ相當價格ト認ム

本問題ハ未決ノママ留保セラレタリ

（ロ）又ハ露国ハ日本政府又ハ日本会社ニ對シ北「サガレン」ニ於ケル石油、石炭及森林ニ關スル富源開発ノ長期利権ヲ供与スルコトニ同意ス

（ろ）利権ノ根本及利権ノ形式一般ニ關シ長キ論議ノ後日本代表ハ日本ニトリ最モ望マシキ利権ハ石油、石炭及森林富源ノ開発

五 日露国交回復交渉關係 二九五

露西亞側回答

一、「サガレン」問題ニ關シ

（イ）露西亞代表ハ露領「サガレン」ヲ日本ニ売却スルノ事實其ノモノハ露国ニ於テ応諾シ得ルモノト思惟ス但シ提示ノ案文ハ之ヲ變更スヘキモノト思考ス

露西亞代表ハ經濟上、政治上及軍事戰略上ノ考量ヨリ見テ売価ハ十五億金留以下ナルコト能ハサルモノト思惟ス

（ロ）露国代表ハ本提議ヲ以テ根本ニ於テ応諾シ得ヘキモノト思考シ得ヘキコト但何等賠償ノ形式タラサルコトヲ聲明セリ

（ろ）露国代表ハ之ニ回答シテ抑々右利権ノ形式カ露西亞ノ希望スルコト最モ少ク且應諾シ得ルコト最モ少キモノナルコトヲ指

五 日露国交回復交渉関係 二九五

ニ関スル五十五年乃至九十九年ノ長期利権ニシテ第一ニ日本政府自身ニ第二ニ当該日本会社ニ与ヘラルヘキモノナルコトヲ声明セリ

而モ日本代表ハ露国代表ニ於テ直ニ本国政府ニ問合スヘキコトヲ頻リニ主張セリ

二、尼港問題ニ関シ

(イ) 露西亜ハ在尼港日本領事領事館員及居留民ノ殺害ニ付遺憾ノ意ヲ表ス

(ロ) 露西亜ハ尼港事件ニ際シ日本人ニ与ヘタル損害ヲ賠償スル義務アルヲ認ム

←日本側ハ問題第二ヨリ損害賠償ニ関スル(ロ)項ヲ全然削除シ(イ)項ヲ唯一ノ審議事項トシテ残シ置クコトトナル新提議ヲナセリ

四二四

摘シタリシカ尚之ヲ問合ハスヘキコトヲ約束シ且此約束ヲ履行セリ回答今日迄到著セス

二、尼港問題ニ関シ

(イ) 本問ハ議論多キ為最初各項ニ付別別ニ審議シ後一括審議セリ

露西亜側ハ日本ノ見解ニ反対ナル総テノ証拠書類ヲ指示セリ其結果

之ニ対シ露国代表ハ同意ノ旨回答スルト共ニ本問題ノ煽動の意義ハ露国ニ於テ夙ニ理解セル所ニシテ露国政府ハ日本ト速ニ平和ヲ達成センカ為他人ノ罪ヲ自ニ負フコトニ同意スルハ大イニアリ得ヘキコトナル旨ヲ指摘セリ且本問題ハ「プレスチージ」問題トナルヲ以テ一ニ懸リテ文案ニ在ルコトヲ付言セリ
露西亜側ハ幾多ノ案文ヲ提議シタルモ総テ日本側ヨリ拒否セラレタリ露国側ハ幾多ノ譲歩ヲナセリ日本側ヨリ回答アルヘカリシ露西亜側最終提議ハ次ノ如シ
(注意) 露西亜及日本側ニ於テ応諾スルコトアルヘキ譲歩ハ赤線ヲ付セリ)

第 条

露西亜国ハ千九百二十年三月十二日ヨリ同年五月二十七日ニ至ルノ間「アムール」河畔「ニコラエフスク」市ニ於テ発生セル残忍ニシテ罪惡的ナル事件ニ付「日本国ニ対シ」最モ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表ス

当時日本軍人三百五十一名ノミナラス「領事ヲ始め」平和ノ日本居留民三百八十四名男女小児ノ別ナク「トリヤビーツイン」ノ率ユル部隊ノ兇手ニ斃レ続イテ「ニコラエフスク」全市ハ約八千ノ露西亜住民ト共ニ「トリヤビーツイン」ノ為焦土ニ帰セシメラレタリ「トリヤビーツイン」及其部下ハ露国正当裁判所ニ於テ最高刑罰即チ死刑ニ宣告セラレ右「一九二〇年七月九日付」宣告ハ直ニ執行セラレタリ

前記兇行後「トリヤビーツイン」ハ其ノ部隊ト共ニ日本軍隊ノ駐屯セサル地域ニ逃レタルカ露国正当裁判所ニ於テモ之ヲ假借スルコトナク彼等ハ最高刑罰即チ死刑ニ宣告セラレ右「一九二〇年七月九日付」宣告ハ直ニ執行セラレタリ

露西亜ハ同国ニ反対ナル封鎖及干渉歴史ニ屢々有リシ前記ノ事實即チ自国ノ犯罪者ニ対シ充分峻厳ナリシト共ニ真実平和ヲ切念シツツモ如何ナル惡運ノ為ニヤ到ル処自国及革命ノ成果ヲ武力ヲ以テ擁護スルノ已ムヲ得サリシ事實ヲモ摘示セント欲スルモノナリ

露西亜ハ尼港事件ニ関スル本条ニ依リ日露ノ相互関係上最モ重大且困難ナル問題カ完全ニ解決セラルルノミナラス同事件ハ既ニ両大國間ニ於テ自然ニ成熟シツツアル接近ヲ阻止スルコト能

ハサルヘク而カモ右接近ハ早晚両国ヲ善隣関係ニ導クヘキノミ
ナラス或ハ両国民中ノ幾千人カ今日既ニ切望シツツアル親善ニ
導クモノナルコトヲ信シ且望マント欲スルモノナリ

↓茲ニ於テ露国代表ハ本項ハ問題第一(イ)項同様トスルコト即
問題ヲ未決ノママトシテ留保シ次ノ問題ノ審議ニ移ルコトノ提
議ヲナセリ

↓本提案ハ日本代表ニヨリテ拒否セラレタリキ

↓之ニ対シ日本側代表ノ同意アリ

三、露国ハ日本人ニ対シ在極東領土内ニ於ケル森林及鉱産開発ノ利
権ヲ供与スルコトニ同意ス

三、之レニ対シ露国代表ハ露国ハ如何ナル場合ニ於テモ日本ニ対シ
他ノ外国ニ比シ惡シキ待遇ヲ為サントスル意志ナク故ニ此等日
本ノ希望カ満足ヲ得サルヘシト思惟スル根拠ヲ有セサルコトヲ
回答セリ

四、國際義務問題ニ関シ

(イ) 露国ハ旧条約ヲ認ム

四、國際義務問題ニ関シ

(イ) 露国代表ノ弁明ニヨレハ旧条約ハ國際信義ノ表章ニシテ国
際關係ノ根本原則ナリト云フコトハ甚タ眞ニ非ス

如何トナレハ旧条約カ進歩シツツアル時勢ニ適合セス從テ双方
其變更ヲ利益トスル時代常ニ来ルモノナレハナリ總テノ戰爭ハ
旧条約ヲ變更セシムルモノナリテフ單ナル理由ヲ以テスルモ此
等旧条約ハ既ニ國際信義ノ表章タルコト能ハサルモノナリ此等
ノ理由ニヨリ(露国代表ハ勿論此ノ点ヲ更ニ詳細論説セリ)露
国ハ本項ニ同意スルコトヲ拒絶セリ

(ロ) 露国ハ日本ニ対スル其債務ヲ承認ス

(ロ) 勞農政府ハ一般ニ從前政府ノ締結セル如何ナル債務ヲ承
認スル義務アリト思考セス如何トナレハ露国ノ諸民族ハ約十年
ノ間此等ノ債務ヲ締結シ又露国民ニ対シ敵意ヲ有シタル此等政

府ニ反対シテ激烈ナル鬭争ヲナシタレハナリ殊ニ露国ハ德義上
ノ見解ヨリ如何ナル戰時債務ヲモ支払ハサル充分ナル權利ヲ有
スルモノト認ム如何トナレハ此等債務ハ何等露国民ニ対シテ利
益ヲ齎ラササリシノミナラス全ク戰爭ノ為メノ供給ニシテ同一
戰爭ニ依リテ直ニ消滅セラレタルモノニシテ從テ露国及同盟諸
國ノ共同企業即戰爭ノ為ニ使用セラレタルモノナレハナリ此ノ
戰爭カ共同企業ナリシコトハ良好ナル一般商企業ニ於ケルト同
様本件ノ場合モ予メ各参加者ノ為戰勝ノ場合ニ於ケル分配ノ歩
合ヲ計算シアリタルニ見テ明ナリ然ルニ同盟國及連合國中露國
ノミハ何物ヲモ取得セサリキ企業ノ最モ主要ナル契約者カ其共
同經營者ニ対シ収益ノ歩合ヲ支払ハサル場合ハ右共同經營者ヨ
リ損害ノ歩合ヲモ要求スルコト能ハサルハ何人モ知ル所ナリ加
之露国ハ前記ノ期間前其債務ヲ忠實ニ支払ヘリ如何トナレハ露
國ハ戰爭最初ノ四ケ年間ニ於テ戰爭遂行ノ為同盟諸國ヨリモ遙
カニ多クノ額ヲ費シタレハナリ右ハ戰前ニ於ケル露國ノ正貨準
備カ現在ニ於ケル日本ノ正貨準備ニ等シカリシトノ實証ニヨル
モ充分明白ナリ(一九一四年ニ於ケル露國ノ正貨準備ハ二十億
以上ニシテ日本ノ正貨準備ハ約十億ナリキ)現在日本ノ正貨準
備ハ二十億以上ナルニ露國ノ正貨準備ハ殆ト何モノモナシ最後
ニ露國ハ何人モ知ル如ク最早戰爭ヲ継続スルコト能ハスシテ之
ヨリ脱失セリ不可抗力ハアラユル國際法ノ認ムル原則ナリ總テ
此等ノ理由ニヨリ露國ハ旧債務ヲ支払フヘキ何等根拠ヲ有セス
況ヤ日本ニ対スル債務ハ「ケレンスキ」時代ニ締結セラレタ
ルモノナルニ於テオヤ同人ハ多少之ヲ利用シタリトスルモ殆ン
ト連合國全部ノ支持ヲ受ケタル同人カ約八ヶ月ノ把權後ニ於テ

(ハ) 露国ハ没収シタル私有財産ヲ旧所有者ニ返還シ又ハ其損害ヲ賠償スルコトニ同意ス

五、以上ノ外双方ハ通商条約ノ締結ニ際シ他ノ一方ノ人民ニ対シ生命ノ安全ヲ保障シ私有財産権ヲ尊重シ可成汎汎ナル範圍ニ於テ商工業ノ自由ヲ保障スルコトヲ互約ス

六、一方当事国ノ安寧秩序ヲ脅威スル有害ナル宣伝及侵略行為ノ禁止

労働政府ノ為ニハ何等残サレサリシコト全然明白ナリ

(ハ) 本項ハ日本ニトリ何等問題トナスニ足ラス如何トナレハ極東ニ於テハ其ノ主要部分ニ於テ「ソヴィエト」政權ナルモノナク從テ個々ノ場合ニ於テノ此ノ革命ノ措置アリ得タレハナリ然ルニ本項ハ露国ニトリ重大ナル主義上ノ意義ヲ有スルモノニシテ露国ハ如何ナル処如何ナル時ニ於テモ本項ヲ讓歩シタルコトナシ如何トナレハ之レ「ソヴィエト」革命ノ最重要ナル成果ナレハナリ露国革命ニ捷テ爾國民ハ決シテ復歸ニ同意セサルヘシ如何トナレハ復歸ハ殆ト常ニ復古ノ初ナルコトヲ知レハナリ「ゼノア」ニ於テ何等ノ妥協点ヲ見出し得サリシ唯一ノ点モ結局此ノ点ナリシナリ日本カ単ニ主義上ノ見地ヨリ露国ニトリ主義上及實際上斯クモ重大ナル意義ヲ有シ且常ニ有セル本項ヲ主張スルハ果シテ日本ノ為賢明ナリヤ露国代表ハ本項カ抑々他ノ孰レノ問題ヨリモ遙カニ決裂ノ点トナリ得ヘキコトヲ疑ハス何レニセヨ露国代表ハ本項カ革命露国ニトリ重大ナル意義アルコトヲ日本代表ニ予告スルヲ自己ノ義務ト思考ス

五、勿論多少文案ヲ訂正シ且主トシテ露国ノ国内法ヲ遵守スル条件ヲ以テ露国代表ハ大体ニ於テ本項ハ何等重大ナル反対ヲ惹起セスト思考ス

六、露国代表ハ本項ヲ著シク広汎詳細トナシ又説明ヲ付スルヲ条件トシテ受諾シ得ヘキモノト思考ス

二九六 七月二十八日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日露予備交渉ノ露国側代表交代説ニ関スル浦潮赤旗紙ノ社説報告ノ件

第五八三号

(七月二十八日接受)

往電第五七七号「ヨッフエ」、「カラハン」交代説ニ対スル当地有力者ノ意見ヲ総合スルニ「ラキーチン」ノ夫レト大同小異ニシテ中ニハ露骨ニ之レ日本側ガ為ニスル宣伝ナリト語ルモノアルガ当地露字新聞ハ浦潮日報ヨリ毎日本件電報ヲ受ケナガラ何レモ依然之ヲ掲載セズ本二十八日当県機関赤旗紙ハ初メテ社説ニ於テ大要「日報紙ガ最近連載セル本風説ハ日本ノ軍閥警官一派ガ己レノ欲スル目的ノ為ニ瀕路ミのニナセル幼稚拙劣ナル宣伝ヲ吾人熟知ノ御用的ニ流布スルモノニシテ論ズルニ足ラザル虚報ナリ之ニ反シ吾人ハ交渉ガ順調ニ進ミ居リ且ツ日本ノ輿論ガ深甚ノ同情ト注意ヲ之ニ払ヘルヲ知レルヲ以テ斯ル小策ヨリモ実情ニ重ヲ置カザルベカラズ「ヨ」ハ現予備交渉ヲ解決スル迄ハ健康ノ許ス限リ交渉スルモノニシテ尼港、薩哈噠問題ハ解決ニ近キモ外交関係復旧問題ノ解決セザル限リ其他ノ協商

五 日露国交回復交渉関係 二九六 二九七

ガ無意義ナルハ明白ニシテ之レ吾人ノ動カスベカラザル見地ナリ」云々ト論ジ居タリ

註 渡辺總領事七月二十六日発内田外務大臣宛電報第五七七号(ヨッフエ、カラハン交代説ニ関スル情報ヲ報告セルモノ)ヲ省略セリ

二九七 七月三十一日

川上代表 一會議(第十二回)
ヨッフエ代表 議事録

日露會議ニ関スル非公式予備交渉議事録
(第十二回正式会見)

大正十二年七月三十一日午後一時乃至六時

出席者 日本側露国側共前回ノ通
築地精養軒「ホテル」ニ於テ

七月二十七日接到シタル「ヨッフエ」代表作成ニカカル會議議事要録ニ関シ川上代表ヨリ之ヲ閱了シタル旨並同要録中ニハ当方ノ了解又ハ事実ト相異スル点アリ殊ニ「サガレン」問題(利權許与ノ項ニ於テ露国側ハ日本政府又ハ日本会社ニ対シ北「サガレン」ニ於ケル石油石炭及森林富源ノ開發ニ関スル長期利權ヲ許与スルコトニ付根本ニ於テ応諾シ置キナカラ貴方ヨリ進ンテ本国政府ニ問合ハサレタル利

四二九

權ノ期限(五十五ヶ年乃至九十九ヶ年)其ノ他ニ関シ何等御回答ナキノミナラス議事要録中ニハスル利權ノ形式ヲ以テ露國ノ希望スルコト最モ少ク且応諾シ得ルコト最モ少キモノナリ換言スレハ之ヲ与フルコト能ハサルモノナリト云フカ如キ文字ヲ見ルハ今日迄ノ会谈ノ諒解ニ反スルモノト思考スル旨ヲ述ヘ訂正ヲ要求シタルニ

「ヨッフエ」代表ハ右ハ決シテ利權ヲ与ヘスト云フ意味ニアラス「モスコ」ニ問合セタル如キ条件ノ利權ヲ与フルコト最モ困難ナリト云フ意味ナリト述ヘ又右要録ハ既ニ「モスコ」ニ報告済ニテ訂正スルコト能ハストカ利權ニ関シ莫斯科ニ問合セタルハ自分ノ好意ニシテ「モスコ」ヨリハ未タ何等ノ返電ニ接セス又仮令返事アリタレハトテ必スシモ之ヲ報道スルノ義務ナシトカ種々無理ナル強弁ヲ敢テシタルモ

川上代表ノ強硬ナル反対ニヨリ次ノ如キ本項付録ヲ作成シテ之ヲ同代表ニ交付セリ

「一ノ(五)ニ関シ誤解ヲ生シ日本代表ニ於テハ之ヲ以テ露國代表カ第一ニハ日本政府自体ニ次ニ始メテ日本会社ニ許スヘキ石油石炭及森林富源開発ニ関スル五十五ヶ年乃至

川上代表ハ正式交渉ノ開始ニ関スル政府ノ意向ハ何等承知セサルニ付即答シ難シト回答セリ

最後ニ「ヨッフエ」代表ハ

自分ノ日本ニ渡来セルハ数十年来日露親善ヲ唱ヘ居ル後藤子爵ノ招請ニ基クモノナリ

自分ハ最初極東ヲ知ラスシテ極東ニ来リタルカ滞支六ヶ月ニシテ支那ヲ知り支那ノ友トナレリ

現在日支間ノ感情ハ著シク阻隔シ居ルモ自分ハ日支兩國ノ友トナレリ乍遺憾自分ノ日本来遊ハ其ノ時機ヲ得ス日本ハ自己ノ発意ニテハ何事ヲモ為シ得サルコトヲ発見セリト述ヘ之ニテ会議ヲ閉会シタキ希望ヲ述ヘタルヲ以テ

川上代表ハ露國側ニ於テ会議ノ閉会ヲ求メラルル以上乍遺憾之ニ応スルノ外ナシト答ヘ會議ハ玆ニ打切リトナレリ

本日ハ露國側ノ申出ニヨリ新聞発表ヲ作成セサリキ

付録

一、會議中川上代表ヨリ新聞紙上「カラハン」ノ極東来遊説伝ヘラルル処右ニ関シ何等承知スル所アリヤト尋ネタルニ「ヨッフエ」代表ハ川上代表ニ於テ之ニ関シ既ニ確實ナル報道ヲ手ニシテ態ト質問シタルモノト曲解シ甚タシク感

九十九ヶ年ニ亘ル長期利權ノ許ヲ可能トスルコトヲ否定スルモノトナシタルヲ以テ露國代表ハ本交渉中此等条件ヲ以テ利權ニヨリ程度ヲ異ニスヘキモ日本ニ与フヘキ總テノ利權ニトリ応諾シ得ルモノト思考シ且思考スル旨再言セリ

川上代表ハ先方ノ議事要録ニ付之レ迄ノ了解又ハ事実ニ相違スル点ヲ指摘訂正セシメ出来得ヘクンハ共同覚書ヲ作成セムト提議セシモ「ヨッフエ」代表ニ於テ到底之ニ応スル色ナカリシヲ以テ先方書翰及要録ニ對シテハ当方ノ了解及心当ノ Remarks ヲ認メ数日中回答スヘシト断リ「ヨッフエ」代表病氣ノ為交渉ヲ継続スルコト能ハサルヲ遺憾トスルコトヲ述ヘタリ

「ヨッフエ」ハ之ニ對シ議論ハ既ニ尽セリ今ハ既ニ双方政府ニ於テ我々ノ話ヲ基礎トシテ正式予備交渉又ハ正式交渉ヲ開催スヘキヤ否ヤヲ決定スヘキ時機ナリト思考ス就テハ之ニ関スル貴國政府ノ意向ヲ承知シ度シ自分トシテハ正式予備交渉ノ必要ナク直ニ正式本交渉ニ入ルヲ可トスル意見ナリ自分ハ今日限り交渉ヲナスヘカラストノ訓令ヲ本國政府ヨリ受取レリトテ回答ヲ求メタルヲ以テ

情ヲ害シタルモノノ如ク貴下ハ「カラハン」ヨリ私信ニテモ受取ラレタルナルヘシトカ事実ヲ知りツツ人ニ尋ヌルハ人ヲ揶揄スルモ甚タシトカ自分ノ許ニハ病氣任ニ堪ヘサレハ代リノ代表ヲ送ルヘシト申越シタルノミナリトカ「カラハン」ハ自分ノ部下ナリシトカ貴下等ハ「カラハン」渡来ヲ喜ヘトモ彼トテ自分カナシタル以上ノ譲歩ヲ為スト考ヘラルルハ大ナル誤リナリトカ嫌味ヲ並ヘタリ

二、利權ニ関スル談判中日本ハ侵略的野心ヲ有セサレハ何等心配サルル必要ナカルヘシト述ヘタルニ「ヨッフエ」代表ハ「乍去日本ハ關東州ヲ支那ニ還付セサルニアラスヤ」ト質問シタルニヨリ勞農政府ハ果シテ最初ノ宣言ヲ守リ支那ニ東支鐵道ヲ返付スヘキヤト反問シタルニ彼ハ苦笑シナガラ支那トハ未タ談判ヲ開始シ居ラストテ返還ノ意ナキヲ仄メカセリ

五 日露国交回復交渉関係 二九八

一ノ(3)付録(一九二三年七月三十一日)

日本側提議

一ノ(3)ニ関シ誤解ヲ生シ日本代表ニ於テハ之ヲ以テ露国代表カ第一ニハ日本政府自体ニ次ニ始メテ日本会社ニ供与スヘキ石油石炭及森林富源開発ニ関スル五十五ヶ年乃至九十九ヶ年ニ亘ル長期利権ノ許与ヲ可能トスルコトヲ否定スルモノトナシタルヲ以テ

露国側回答

露国代表ハ本交渉中此等条件ヲ以テ利権ニヨリ程度ヲ異ニスヘキモ日本ニ与フヘキ利権ノ総テニトリ応諾シ得ルモノト思考シ且思考スル旨再言セリ

二九八 八月三日

川上代表ヨリ
ヨッフエ代表宛

ヨッフエ代表ヨリ送付越ノ日露非公式予備交渉ノ結果總括ニ関シ回答ノ件

付属書 日露非公式予備交渉ノ議事要領(日本側作成ノモノ)

以書翰啓上致候

陳者客月二十六日付貴翰並本年六月二十八日以降貴下トノ間ニ行ヒタル会谈ノ結果ニ就キ貴方作成ニ係ル議事要録御

送付相成客月二十七日正ニ受領致候

右非公式予備交渉ニ於テ両国代表ハ前後十二回ニ亘ル会議中相互ニ隔意ナキ意見ノ交換ヲ行ヒ諸般ノ問題ヲ審査討議シタル結果双方ノ主張及希望ハ大体ニ於テ明瞭トナリタルモ未ダ意見ノ一致ヲ見サル点尠シトセス殊ニ尼港問題及之ニ関連スル諸案件ノ具体的解決方法及國際義務問題ノ解決方法ニ就テハ引続キ充分ナル意見ノ交換ヲ行ハンコトヲ予期シタルニ拘ラス貴方ノ都合ニ依リ急ニ貴下トノ会谈ヲ打ちラサルヲ得サルニ至リタルハ予ノ遺憾トスル所ナリ

貴信中所載ノ北樺太撤兵ニ就テハ日本政府ハ尼港問題及之ト関連スル問題カ解決セラルル場合右ニ関スル声明ヲ為スニ躊躇セサルヘシト雖北樺太ニ於ケル我軍ノ駐屯ハ尼港事件ニ対スル保障占領ニ外ナラサルヲ以テ是迄屢次開陳シ置キタル通り前記諸問題ノ解決ニ関シ完全ナル了解ニ達セサル限り之ヲ如何トモスル能ハサルヘシ尚北樺太占領カ前記ノ目的以外他意ヲ包蔵セス從ツテ日本ハ不法且不当ニ他国ノ領土権ヲ侵害スルモノニ非サルコトハ予ノ屢次説明シタル所ニシテ今猶貴下ノ記憶ニ新ナルヘキヲ信ス貴下作成ノ議事要録中予ノ了解シタル所ト相違スル所アルノミナラス右ハ貴方ノ立場ノミヲ明カニシ我方主張ノ記載不充分ナルヲ以テ是等ノ点ニ精確ヲ期スル為當方作成ニ係ル議事要録ヲ玆ニ添付送付ス

玆ニ非公式予備交渉ニ於ケル貴下トノ会谈ヲ終了スルニ当リ予ハ貴下トノ腹蔵ナキ会谈カ将来日露間ニ一層良好ナル了解ヲ齎スニ資スル所アルヘキヲ期待シ且可成速ニ日露善隣修好關係ノ樹立セラルルニ至ラムコトヲ衷心希望スルモノナリ

終リニ臨ンテ貴下ニ対シ完全ナル敬意ヲ表シ候 敬復

大正十二年八月三日

(署名) 川上 俊彦

日露會議ニ関スル非公式予備交渉

露国代表

ア、ア、ヨッフエ殿

註 本件書翰ハ八月三日閣議決定ヲ了セリ

(付属書)

日露非公式予備交渉ノ議事要領(日本側作成ノモノ)

日露會議ノ開催ニ関スル非公式予備交渉千九百二十三年六月二十八日乃至七月三十一日議事要領

代 表

日本側 特命全權公使

露国側 極東諸邦駐露西亞社会主義連邦ソヴィエツト

共和国特命全權代表

川 上 俊 彦

ア、ア、ヨッフエ

五 日露国交回復交渉関係 二九八

日本側提議

一、「サガレン」問題ニ関シ

(イ) 露国ハ相当価格ヲ以テ露領「サガレン」ヲ日本ニ売却スルコトニ同意ス、日本ハ一億五千万円内外ヲ以テ相当価格ト認ム日本代表ハ「サガレン」ノ如キ一島ヲ二国ニテ領有スルコトハ将来種々ノ紛争ヲ惹起スル虞アルヲ以テ此際露西亜ニ於テ相当価格ヲ以テ其ノ領土タル北「サガレン」ヲ日本ニ譲渡セラレンコトヲ希望シ且日本学者専門家ノ調査ニヨレハ同島ノ経済価値斯ク大ナラサルノミナラス同島ノ富源ヲ開発スルニハ多額ノ投資必要ナルニ付買取価格ハ一億五千万円内外ヲ以テ相当ト認ムル旨声明セリ

日本代表ハ露国ヨリ北「サガレン」ヲ買取シタル場合日本ハ「サガレン」島ノ無防備並韃靼海峡及宗谷海峡ノ自由航行ニ関シ「ポーツマス」条約第九条第二項ノ趣旨ニ準シ約スルニ異議ナカルヘキ旨並露国ハ「サガレン」対岸ノ自国領土ニ堡壘等ヲ築造セサルコトヲ約スルコト必要ナル旨付言セリ

本問題ハ未決ノ儘留保セラレタリ

(ロ) 北「サガレン」ノ売買成立セサル場合露国ハ日本政府又ハ日本会社ニ対シ北「サガレン」ニ於ケル石油、石炭、森林ニ関スル富源開発ノ長期利権ヲ許スルコトニ同意ス

日本代表ハ北「サガレン」ノ利権ハ単ニ同島ノ一定地域ニ於ケル一定富源ノ開発ニ関スル経済的利権ニシテ露国カ曾テ旅順大連ヲ租借シタル時ノ如ク全島ヲ租借セムトスル政治的利権ニアラサルコトヲ指摘シ築港及鉄道布設等利権ニ関連スル施設権ヲ必要トスルコトヲ述ヘ露国側ノ提議セル露国政府ノ利権参加カ

露西亜側回答

一、「サガレン」問題ニ関シ

(イ) 露国代表ハ露領「サガレン」ヲ日本ニ売却スル事夫レ自体ハ露国ニ於テ応諾シ得ルモノト思惟スルコト但シ国民ヲ納得セシムルタメニハ其ノ価格ノ大ナルコトヲ要スル旨ヲ述ヘ最初經濟上、政治上、軍事戰略上ノ考量ニ基キ拾億金留以下ナルコトヲ得サルヘシト声明シタルカ後十五億金留以下ナルコトヲ得サル旨仄セリ

(ロ) 露国代表ハ本提議ヲ以テ根本ニ於テ応諾シ得ヘキモノト思考スルモ利権ニ関シ知ル所少キ故ヲ以テ日本代表ノ陳述ヲ基礎トシ

「日本ハ北「サガレン」ニ於ケル石油、石炭、森林ノ富源開発ニ関スル長期(五十五年乃至九十九年)利権ヲ希望スルコト、右利権ハ第一ニ日本政府第二ニ日本当該会社名義トスルコト、露国労働法其ノ他ノ法令ヲ尊重スルノ問題ハ日本側ニ於テ之等法令ヲ承知セサルニ付留保スルコト」ヲ本国政府ニ電報シ

利権収益ノ一定歩合(例ヘハ純益ノ五分乃至六分)ヲ同政府ニ支払フ意味ナルニ於テハ之ニ異議ナカルヘキコトヲ声明セリ尚利権ノ期限ハ九十九年少クトモ五十五年ヲ希望セリ

其ノ意向ヲ確ムヘキコトヲ約セリ

同代表ノ言ニ依レハ右電報ハ即時(七月九日)「モスコウ」ニ發送セラレ一週間目ニ回答アルヘキ筈ノ処最近會議迄同代表ハ何等之ニ関スル報道ヲ為シ得サリキ露国代表ハ七月三十一日ノ會議ニ於ケル日本代表ノ質問ニ対シ右諸条件ハ利権ニヨリ程度ヲ異ニスヘキモ日本ニ与フヘキ總テノ利権ニ取リ応諾シ得ルモノト思考シ且思考スル旨ヲ声明セリ

北「サガレン」ノ利権問題ニ関シ意見ノ交換ヲ行ヒタル際同島ニ於ケル「シンクレア」契約ニ言及シ露国代表ハ最初右契約ハ今後若干年限内ハ之ヲ破棄スルコトヲ得ルモ破約料ヲ支払フ必要アリト述ヘ後本国政府ヨリノ報道ニ基キ破約料ノ規定ナキコトヲ声明セリ尤モ運動費及其他ノ費途ニ対スル損害ヲ支払フ必要ヲ生スヘクレトモ其ノ価額ハ極メテ些少ナルヘシト付言セリ

二、尼港問題ニ関シ

二、尼港問題ニ関シ
(イ) 露国ハ在尼港日本領事、領事館員及居留民ノ虐殺ニ付遺憾ノ意ヲ表ス

(ロ) 露国ハ尼港事件ニ際シ日本人ニ与ヘタル損害ヲ賠償スル義務アルコトヲ認ム

日本代表ハ尼港問題ニ関シ大要次ノ声明ヲ為セリ
「日本カ連合諸国ト共ニ西伯利ニ出兵シタルハ連合国共同ノ決議ニ基キ當時露国ノ政情混沌タル為窮迫ノ状態ニ陥リタル与軍「チエッコ、スロワク」軍ヲ救援セムカ為ニシテ又之カ安全ナル輸送ヲ保障スル為西伯利鉄道ヲ守備スルニアリタリ
「チエッコ、スロワク」軍ハ曾テ露国政府ヨリ与軍ト認メラレ露軍ト共ニ対壘戦線ニ戦ヘリ

日本軍ハ黑竜鉄道全線及烏蘇里鉄道ノ一部ヲ守備スル任務ヲ負ヒタルカ最モ忠実ニ其ノ任務ヲ遂行シ會テ露国地方民ノ内政ニ干渉シタルコトナシ又西伯利亚占領シタルコトナシ日本軍ハ其後西伯利政情ノ悪化ト共ニ居留民ノ保護ニ当ラサルヘカラサルニ至レリ日本ハ其ノ守備ノ任ニ当レル「ウスリ」鉄道ノ交通杜絶スルノ虞アリシヲ以テ水路黑竜鉄道トノ交通ヲ保障シ且尼港ニ於ケル居留民保護ノタメ同地ニ一部隊ヲ派遣スルノ必要ヲ認メタリ右軍隊ハ其後三百五十一名ニ減セラレタルカ露国側ノ「プロヴォケーション」ニヨリテ「トリヤビーツイン」ノ率ユル露国軍隊ト戦闘スルニ至レリ、一九二〇年三月十二日より同年五月二十七日ニ亘ル期間ニ於テ「トリヤビーツイン」ノ軍隊ハ最モ残忍ナル方法ヲ以テ日本軍人三百五十一人ノミナラス領事及領事館員ヲ始メ婦女子ノ別ナク日本居留民三百八十四名ヲ虐殺セリ斯ル残忍ナル行為ハ歴史上類例ナキ所ニシテ全日本国民ノ憤怒激昂ヲ招致セサルヲ得サリキ、平和ノ日本居留民ヲ殺害シタルコトハ日本軍ニ何等關係ナキ平和ノ露国人数千人ヲ殺害シタルト同様何等軍事上ノ必要ニ依ルモノト弁護シ能ハサルナリ

露国側ヨリ出テタル諸種ノ証拠(例ヘハ一九二〇年三月二十三日付内田外務大臣宛「チチュリン」電報一九二〇年七月九日付「ケルビ」村民裁判所判決文ノ如シ)ニ見ルモ「トリヤビーツイン」ノ軍隊ハ独リ「モスコウ」ト關係ヲ有シタルノミナラス「ハバロフスク」及浦潮ニ於ケル赤衛軍司令部トモ關係ヲ有シ「トリヤビーツイン」ハ公ニ赤軍司令官ト認メラレ其ノ軍隊ハ赤軍ト認メラレ居レリ故ニ露国政府ハ前記虐殺カ匪徒又ハ「パルチザン」ニ依リテ行ハレ「トリヤビーツイン」カ露国裁判所ノ判決ニヨリ処刑

セラレタリトノ單ナル理由ヲ以テシテハ尼港事件ニ対スル責任ヲ免ルル能ハサルナリ

日本代表ハ尼港事件カ日露親善ノ道程ニ横ハル最大難関ノ一ナルコトヲ説明シ之カ円満解決ヲ希望セリ

(イ) 露国代表ハ日本ト速ニ平和ヲ達成センコトヲ切望シ尼港事件ニ付日本ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルコトニ同意セリ
露国側ハ遺憾表示ニ付逐次三個ノ案文ヲ提示セリ

露国側第一案

露西亞ハ一九二〇年三月十二日乃至同五月二十八日「アマール」河畔「ニコラエフスク」市ニ發生セル残忍ニシテ罪惡ナル事件ニ付最モ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表ス
當時日本人ハ軍人三百五十一名ノミナラス平和ノ住民三百八十四名男女小兒ノ別ナク「パルチザン」團ノ兇手ニ斃レ続イテ「ニコラエフスク」全市ハ約八千ノ露西亞住民ト共ニ該団匪ノ為焦土ニ歸セシメラレタリ

同地方ハ當時日本ノ軍事占領地帯ナリシモ露西亞裁判ハ露西亞領内ニ逃レタル匪徒ヲ仮借スルコトナク団匪ノ首領「トリヤビーツイン」ハ多数ノ徒党ト共ニ最高刑罰即チ死刑ニ宣告セラレ此宣告ハ直ニ執行セラレタリ

事情右ノ如クナル上露西亞赤軍ハ當時同シク占領軍ト戰爭ノ為遠ク南方ニ在リタルモ勞農政府ハ戦闘員タルコト能ハサル婦女子ニ至ル迄戰爭ノ渦中ニ誘致セラレタルノ事實ニ対シ遺憾ノ意ヲ表スルノミナラス更ニ一層深甚ナル痛憤ノ情ニ堪ヘサルナリ露西亞社会主義連邦「ソヴィエット」共和国政府ハ尼港事件ヲ想起スル毎ニ露西亞ヲ激動スル有ユル感情ヲ表示スルト同時ニ赤軍ノ規律アル部隊ニハ最早斯クノ如キ事實發生シ得サルコト

↓露国第一案ニ対シ日本代表ハ次ノ対案(第一)ヲ提議セリ

「露西亜社会主義連邦「ソヴィエト」共和国政府ハ一九二〇年三月十二日より同年五月二十七日ニ至ルノ間「アムール」河畔「ニコラエフスク」市ニ於テ発生セル残忍ニシテ罪惡的ナル事件即チ日本軍人三百五十一名ノミナラス日本領事及平和ノ日本居留民三百八十四名男女小兒ノ別ナク「トリヤビーツイン」ノ率ユル部隊ノ兇手ニ斃レタルコトニ付日本政府ニ対シ最モ深厚ナル遺憾ノ意ヲ表ス

尚露西亜社会主義連邦「ソヴィエト」共和国政府ハ前記「トリヤビーツイン」以下多数ノモノニ対シテハ千九百二十年七月九日露西亜裁判所ニ於テ死刑ヲ宣告シ直ニ執行セラレタル旨效ニ声明ス」

ヲ各人ニ了解セシメ得ルヲ誇トシ且斯ノ如キ事件カ何レノ時何レノ場所ニ於テモ発生スルコト不可能ナル時期ノ到来ハ遼遠ナラサルヲ期待シテ止マサル所ナリ

↓露国側ハ之ニ同意セス次ノ如キ第二案ヲ提出セリ

露西亜国ハ千九百二十年三月十二日より同年五月二十七日ニ至ルノ間「アムール」河畔「ニコラエフスク」市ニ於テ発生セル残忍ニシテ罪惡的ナル事件ニ付日本国ニ対シ最モ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表ス

当時日本軍人三百五十一名ノミナラス領事ヲ始メ平和ノ日本居留民三百八十四名男女小兒ノ別ナク「トリヤビーツイン」ノ率ユル部隊ノ兇手ニ斃レ続イテ「ニコラエフスク」全市ハ露西亜住民ト共ニ「トリヤビーツイン」ノ為焦土ニ帰セシメラレタリ

前記兇行後「トリヤビーツイン」ハ其ノ部隊ト共ニ日本軍隊ノ駐屯セサル地域ニ逃レタルカ露国正当裁判所ニ於テモ之ヲ仮借スルコトナク彼等ハ最高刑罰即チ死刑ニ宣告セラレ右千九百二十年七月九日付宣告ハ直チニ執行セラレタリ

事情前述ノ如クナル上露西亜国ハ到ル処平和ヲ念トシツツモ猶諸所ニ於テ自己及革命ノ成果ヲ防衛スルノ已ムナキニ至レリ然レトモ婦女子ニ至ル迄悲惨ナル事件ノ渦中ニ誘致セラレタル疑ナキ事實ニ対シ既ニ再三表示シタル遺憾ノ外更ニ深甚ナル憤怒ノ情ニ堪ヘサルモノアリ全文明人類社会ノ觀念ニ依レハ婦女子ノ如キハ斯ル事件ヲ一瞥スルコトサヘ有リ得サル様擁護セラルヘキモノナリ

總テ此等ノ事實ハ痛嘆ノ至ナレトモ露西亜社会主義連邦「ソヴィエト」共和国政府ハ赤軍ノ規律アル部隊中ニハ最早此ノ如キ事實ナク又アリ得サルコトヲ疑ナキ誠意ヲ以テ確言スルノ絶対權利ヲ有スルコトヲ誇リト為スト共ニ斯ル事件カ總テ何レノ時レノ場所ニ於テモ発生スルコトハ能ハサルヘキ時期ノ遼遠ナラサルコトヲ喜ンテ期待スルモノナリ

↓日本側ハ露西亜側ノ希望ヲ考量シ妥協的精神ヲ以テ作成セラレタル次ノ如キ第二対案ヲ提議セリ

「露西亜国ハ千九百二十年三月十二日より同年五月二十七日ニ至ルノ間「アムール」河畔「ニコラエフスク」ニ於テ発生セル残忍ニシテ罪惡的ナル事件ニ付日本国ニ対シ最モ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表ス当時日本軍人三百五十一名ノミナラス領事ヲ始メ平和ノ日本居留民三百八十四名男女小兒ノ別ナク「ト

リヤビーツイン」ノ率ユル部隊ノ兇手ニ斃レ続イテ「ニコラエフスク」全市ハ約八千ノ露西亞住民ト共ニ「トリヤビーツイン」ノ為焦土ニ帰セシメラレタリ「トリヤビーツイン」及其部下ハ露国正当裁判所ニ於テ最高刑罰即チ死刑ニ宣告セラレ右一九二〇年七月九日付宣告ハ直チニ執行セラレタリ
總テ此等ノ事実ハ痛嘆ノ至リナレトモ露西亞社会主義連邦「ソヴィエト」共和国政府ハ赤軍ノ規律アル部隊中ニハ最早此ノ如キ事実ナク又有り得サルコトヲ誠意ヲ以テ確信スルノ權利ヲ有スルコトヲ誇トスルモノナリ」

↓日本側第二対案ハ露国側ノ同意スルトコロトナラス露国代表ハ更ニ次ノ第三案ヲ提議セリ

第 条（注意、露西亞側及日本側ニテ応諾スルコトアルヘキ讓歩ハ横線ヲ付セリ）

露西亞国ハ千九百二十年三月十二日より同年五月二十七日ニ至ル間「アムール」河畔「ニコラエフスク」市ニ於テ發生セル残忍ニシテ罪惡的ナル事件ニ付「日本国ニ対シ」最モ深甚ナル遺憾ノ意ヲ表ス

當時日本軍人三百五十一名ノミナラス「領事ヲ始メ」平和ノ日本居留民三百八十四名男女小児ノ別ナク「トリヤビーツイン」ノ率ユル部隊ノ兇手ニ斃レ続イテ「ニコラエフスク」全市ハ約八千ノ露西亞住民ト共ニ「トリヤビーツイン」ノ為焦土ニ帰セシメラレタリ

「トリヤビーツイン」及其部下ハ露国正当裁判所ニ於テ最高刑罰即チ死刑ニ宣告セラレ右「一九二〇年七月九日付」宣告ハ直ニ執行セラレタリ

前記兇行後「トリヤビーツイン」ハ其ノ部隊ト共ニ日本軍隊ノ

駐屯セサル地域ニ逃レタルカ露国正当裁判所ニ於テモ之ヲ假借スルコトナク彼等ハ最高刑罰即チ死刑ニ宣告セラレ右一九二〇年七月九日付宣告ハ直ニ執行セラレタリ

露西亞ハ同国ニ反對ナル封鎖及干渉、歴史ニ屢有リシ前記ノ事実即自国ノ犯罪者ニ対シ充分峻厳ナリシト共ニ眞実平和ヲ切念シツツモ如何ナル惡運ノ為ニヤ到ル処自国及革命ノ成果ヲ武力ヲ以テ擁護スルノ已ムヲ得サリシ事実ヲモ摘示セント欲スルモノナリ

露西亞ハ尼港事件ニ關スル本条ニ依リ日露ノ相互關係上最モ重大且困難ナル問題カ完全ニ解決セラルルノミナラス同事件ハ既ニ兩大國間ニ於テ自然ニ成熟シツツアル接近ヲ阻止スルコト能ハサルヘク而カモ右接近ハ早晚兩國ヲ善隣關係ニ導クヘキノミナラス或ハ兩國民中ノ幾千人カ今日既ニ切望シツツアル親善ニ導クモノナルコトヲ信シ且望マント欲スルモノナリ

↓露国第三案第一及第二節ニ關シテハ双方ノ意見一致シタルモ露国第三案第三及第四節ニ關シ日本側ハ同意ヲ表スルコトヲ得サ
リキ

↓露国代表ヨリ遺憾表示ノ文案日本側第二対案第一節及第二節即露国側第三案第一節及第二節ニ就テハ雙方ノ意見一致シタルモ第三及第四節ニ就キ意見一致セサルニ付之ヲ未決ノ儘トシテ留保スルコトトシ他ノ問題ノ審議ニ移ルヘキコトヲ提議アリタルヲ以テ

↓日本側ハ之ニ同意セリ

日本代表ハ困難ナル露国現下ノ財政状態ニ鑑ミ同国ニシテ北「サガレン」問題ヲ日本ノ為有利ニ解決スルニ於テハ尼港事件ニ対スル物質的賠償ハ可成之ヲ要求セスシテ処理スルコトニ努力スル旨声明セリ

三、露国ハ日本人ニ対シ「バイカル」以東ノ露領ニ於ケル森林及鉱山等開発ノ利権ヲ供与スルコトニ同意ス

↓日本代表ハ之ニ同意シ本件提議ヲ次ノ如ク訂正セリ

「露国代表ハ日本人ニ対シ其ノ極東領土ニ於ケル森林及鉱山等開発ノ利権ヲ供与スルコトニ同意ス」

四、国際義務問題ニ関シ

(イ) 露国ハ旧条約ヲ認ム

本件ニ関スル日本側論拠次ノ如シ

国際法ノ根本原則ニ從ヘハ一國カ旧来ノ領土及住民ヲ基礎トシテ存在スル限リ国内ニ政変アルモ其ノ國際的地位ニハ變化ナシ故ニ革命ニ依リ樹立セラレタル新政府ハ従前政府ノ權利義務ヲ完全ニ繼承スヘキモノニシテ従前政府カ外國政府ト締結セル國際條約ノ効力ヲ否定シ一方的ニ廢棄スルコトヲ得ス依テ勞農政府ハ今日迄日露間ニ締結セラレタル總テノ條約ノ効力ヲ認メサルヘカラス

↓露国側ハ日本側提案ニ同意セリ

四、国際義務問題ニ関シ

(イ) 露国ハ本項ニ同意スルコトヲ拒絕セリ

三、之ニ対シ露国代表ハ露国ハ如何ナル場合ニ於テモ日本ニ対シ他ノ外國ニ比シ惡シキ待遇ヲナサントスルノ意志ナシ故ニ此等日本ノ希望カ満足ヲ得サルヘシト思惟スル根拠ヲ有セサル旨回答セリ露国側ヨリ日本側提議中「バイカル」以東ノ露領ハ「其ノ極東領土」トナサンコトヲ希望シタルニ依リ

日露間ノ條約カ戰爭ノ為効力ヲ失ヒタリトノ論拠ハ兩國間ニ戰爭ナルモノナカリシテウ單簡明瞭ナル理由ニヨリテ成立セス日本ノ西伯利出兵ハ与軍タル「チエッコ、スロウアク」軍ノ救援及救援ニ必要ナル鐵道ノ守備ヲ全ウセンカ為ニシテ其ノ後引統キ駐兵シタルハ日本居留民ノ保護ヲ必要トシタルニ依ル、日本軍ハ上記ノ任務ヲ誠實ニ遂行シタルモノニシテ曾テ露国地方民ノ内政ニ干渉シタルコトナク又戰爭當事国トシテノ權利ヲ行使シタルコト即軍事占領又ハ戰爭ト称スヘキ行為ヲナシタルコトナシ

然レトモ吾人ハ日露間ノ國際條約中、時勢ノ變遷ニ伴ヒ改訂ヲ要スルモノアルコトヲ否定スルモノニ非ス吾人ハ後日正式交渉ニ於テ從來ノ條約又ハ協定ニヨリ我方カ獲得セル權利又ハ利益ヲ露国側ニ於テ尊重シ既成事實ニ就キ變更ヲ加ヘス従前ノ條約又ハ協約ニヨル我方ノ地位ヨリ不利ナラサル様新條約ヲ締結シタル後ニ於テハ旧條約ヲ廢棄スルコトニ同意ス

但日露兩國ヲ含ム多數當事國間ノ條約ノ存廢又ハ改訂ニ関スル問題ハ他日關係諸國間ノ共同決定迄留保スルモノトス日本代表ヨリ露国ハ如何ナル法律ヲ以テ國際條約ノ無効ヲ發表シタリヤト尋ネタルニ

↓露国代表ハ秘密條約ハ之ヲ公表シ且廢棄スル旨宣言シタルコトアルモ一般國際條約ハ之カ廢棄ヲ宣言シタルコトナキ管ナリト答ヘタリ

(ロ) 露国ハ日本ニ対スル其ノ債務ヲ承認ス

本件ニ関スル日本側論拠次ノ如シ

國際法ニ依レハ如何ナル國家モ革命ヲ理由トシテ外國ニ対スル

(ロ) 露国代表ハ

勞農政府ニ於テハ一般ニ従前政府ノ締結セル如何ナル債務ヲモ承認スル義務アリト思考セサルコト殊ニ戰時債務ハ之ヲ支払ハ

五 日露国交回復交渉関係 二九八

其ノ債務ヲ廃棄スルコトヲ得ス債務ノ原因又ハ用途ハ之ヲ問フ所ニアラス從テ露国カ日露間ニ現存スル國際債務ヲ認メスト云フコトヲ得ス

露国ハ戦争ノ分配ニ与ラス故ニ戦争ニ使用セラレタル債務ヲ認ムル理由ナシト云フモ之レ露国カ与国ヲ売リ且單獨講和ヲ為サストノ約ニ背キテ「ブレスト、リトウスク」平和ヲ締結シ自ラ戦勝ノ分配ヲ抛棄セルモノニシテ露国自身ノ罪ナリ

若シ露国ニシテ困難ナル財政状態ノ為前記債務ノ支払ヲ不可能ト為シ其ノ支払猶予又ハ一部ノ免除ヲ得ンコトヲ希望スルニ於テハ日本政府ハ斯カル問題ノ解決ニ関シテ露国ト交渉ニ入ルコトヲ拒ムモノニアラス然レトモ露国カ日本ニ対スル其ノ債務ヲ廃棄スルコトハ仮令右債務カ戦時債務ナリトスルモ之ヲ認ムルコトヲ得ス

(ハ) 露国ハ没収シタル私有財産ヲ旧所有者ニ返還スルカ又ハ其ノ損害ヲ賠償スルコトニ同意ス

本件ニ関スル日本側論拠左ノ如シ
如何ナル国家ト雖其ノ制度又ハ国内法ノ変化ニヨリ外国人ニ属スル權利及財産ヲ不当ニ侵害スルコトヲ得サルハ國際法上確立セラレタル所ナリ

故ニ露国ハ日本人ノ權利及財産ニ加ヘタル侵害ニ対シ責任ヲ負ヒ既ニ没収セル權利又ハ財産ヲ返還スルカ又ハ賠償ヲ為ササルヘカラス露国カ日本臣民ノ有セル私有財産ニ加ヘタル侵害ニ付日本カ露国ニ対シ其ノ責任ヲ免除スルニ於テハ日本政府ハ当該自国民ニ対シ右免除ニヨル損害ノ賠償ヲ自ラ負担セサルヘカサルニ至ルヘシ

四四四

サル完全ナル權利アルコトヲ主張シ且ツ露国カ戦争ヲ脱退シタルハ不可抗力ニヨルモノナルコトヲ論シタリ

(ハ) 露国代表ハ

「露国代表ハ本項ヲ承認スルヲ拒絶シ殊ニ日本人ノ財産及權利ハ主トシテ極東ニアリタルトコロ同方面ニハ国有制度実施セラレサリシニ依リ日本人ハ本項ニ関シ利害關係ヲ有スルコト少シ」ト述ヘタリ

五、以上ノ外通商条約ノ締結ニ際シ露国ハ日本臣民ニ対シ生命ノ安全ヲ保障シ私有財産權ヲ尊重シ可成汎汎ナル範圍ニ於テ商工業ノ自由ヲ保障スルコトヲ約ス

六、両当事国ハ他ノ一方ノ安寧秩序ヲ脅威スル有害ナル宣伝及侵略行為ヲ禁止スルコトヲ互約ス

二九九 八月十一日

内田外務大臣ヨリ
在米大使、在中國公使、在浦潮、
哈爾濱總領事宛(電報)

日露非公式交渉ノ露国側代表ノ交替ニ関シ通

報ノ件

合第一五九号

日露非公式交渉ニ関シ「ヨッフエ」ハ七月末莫斯科ヨリ召還命令ヲ受ケ「カラハン」代リテ来ルヘキ旨ノ電報ヲ受ケタリト認ムヘキ理由アリ「ヨ」ハ我方ニ対シ之ヲ秘スルト共ニ急遽交渉ヲ終了スルコトニ焦慮スルノ態度ヲ執リ日露双方未ダ意見ノ一致ヲ見サル点多キニ拘ラス強イテ交渉ヲ取纏メタルコトトシ莫斯科ニ帰還シタキ意図ヲ有シタルモノノ如ク議事要録ヲ送付スルト共ニ我方ニ此ノ上ハ北陸哈噠撤兵ヲ声明シテ正式交渉ニ入ルヲ必要ト認ムル旨ヲ申入レタリ一方「カラハン」ハ八月二日莫斯科ヲ出発シ北京ニ

五 日露国交回復交渉関係 二九九 三〇〇

五、之ニ対シ露国代表ハ主トシテ露国ノ国内法ヲ遵守スル条件ヲ以テスレハ本項ハ大体ニ於テ何等重大ナル反対ヲ惹起セサルヘシト思考スル旨回答セリ

六、露国代表ハ本項ヲ著シク広汎詳細ト為シ又説明ヲ付スルヲ条件トシテ受諾セリ

向ヒタル処同人ハ同地ニテ露支會議ヲ開クコトトシタル上ニテ自己ハ日露交渉ニ当ラムトスルモノノ如ク或ハ露支會議ヲ起シテ日本側ヲ牽制セント考ヘ居ルヤモ計ラレス何レニスルモ「カ」ハ結局日露交渉ヲ担任スル目的ヲ以テ来ルモノト察セラル尚「ヨ」一行ハ十日午後十時半東京発十一日午後四時敦賀出帆浦潮ニ向ヘリ右ノ内大部分ハ「ヨッフエ」ト共ニ莫斯科ニ向フ筈
(在米大使ヘ) 在欧各大使ヘ転電アリタシ

三〇〇 八月二十日

在浦潮渡辺總領事代理ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

露国ノ國際的現地位、日露交渉等ニ関スル
カラハンノ哈爾濱新聞記者ヘノ談話報告ノ

件

第六四三号

(八月二十一日接受)

四四五

往電第六二六号「カラハン」ガ哈爾賓新聞記者ニ為シタル会见談トシテ十九日当県機関紙ノ報ズル所ハ前電其他莫斯科ガ予テ宣伝シ来レル所ト大差無キモ御参考迄左ノ諸点電報ス

露国ノ国際的現地位ハ有利ナリ曩ノ我が対英態度ハ英国ヲシテ政策変更ヲ余儀ナクセシメ且意外ノ好結果ヲ得タリ仏国モ我ニ対シ漸次平和的政策ニ変更シアリ独逸トハ素ヨリ友好的トナリ米国ハ最近有力ナル政治家実業家ヲ派遣スル等対露感興ノ著シク増シ来レルヲ認ム又近來総ベテノ国際的政治中心ガ極東ニ移リ太平洋岸ニ於ケル各国利害衝突ヲ予想セル露国ハ新嘉坡ニ於ケル英国ノ根拠地問題等ノ現象ニ対シ注意ヲ怠ラズ対日、支交渉ハ緊急解決ヲ要ス日露交渉ハ既ニ三回行ハレタルガ大連ニ於テ若干ノ犠牲ヲ覚悟シ又長春ニテハ正式承認無クシテモ締約セントシタル吾人ハ今ヤ正式且對等的關係承認ヲ基礎条件トスルニ至レリ承認ハ吾人ノ欲スル所ナルモ我國勢ハ今ヤ著シク改善セラレ居ルヲ以テ數年待ツモ苦痛トセズ日本ガ常ニ我國情ヲ見損ジ来レル為交渉ニ影響セルヲ恨ム東京交渉ハ相互ノ意見ヲ明カニシタルヲ以テ從前ノモノニ比シ著シキ成功ナルモ非公

式ナルヲ以テ相互ノ声明ハ将来ニ對スル義務ヲ生ゼザル為不満足ノモノタリ云々ト語り尚對支交渉ヲ説キタル後東支鐵道ニ関シ往年「カ」ノ發シタル例ノ對支「ノート」ニ関シテハ該主義ハ依然効力ヲ持續セル事露国ガ他ノ帝國主義者ト異リ支那ノ主權尊重ヲ旨トスルモ同鐵道ニ對スル生命の利益ヲ拋棄スルヲ得ズ云々ト語レリト

註 渡辺總領事代理八月十五日發第六二六号ヲ省略セルガ右電報ハ浦潮赤旗紙八月十四日掲載ノ「カラハン」ノ記者団ニ對スル談話中日露予備交渉ニ関スル部分ヲ報告セルモノナリ

三〇一 八月二十五日 在スウェーデン国烟公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

露国イズヴェスチャ紙掲載ノ日露交渉ニ関スルウィレンスキーノ評論報告ノ件

第一一一号 (八月二十六日接受)

八月十四日「イズベスチャ」ニ發表セル「ウィレンスキー」ノ日露交渉ニ関スル評論大要左ノ通

日本政府カ今回露国ト審議ヲ開始セルハ露支交渉ヲ破壊シ露国ヲ欺キ又日本国民ヲ欺カントノ目的ナリシカ恰モ獅師ノ一時ニ二三兎ヲ追ハントスルト同シク日本ハ何等ノ獲物

ノ接近ニ全力ヲ注クハ其ノ最良ノ策ト謂フヘシ云々

三〇二 九月(日付不明)

川上公使意見

日露間正式交渉開始ノ必要ナルコト、正式交渉ニ於ケル諸問題處理策、日露国交回復問題等ニ関スル件

ヲモ得サルヘシ「ヨッフエ」ハ北京ヲ離レ日本ニ赴キタルカ為露支交渉遅延セルモ決シテ停止セルニアラサルハ今回「カラハン」ノ北京行ニ見テ明カナリ支那モ亦右日本ノ露支接近防止策及支那政策ヲ看破シタルヲ以テ其ノ結果今回ノ如ク排日運動ノ勃発ヲ見ルニ至レリ露国ハ衷心極東ノ平和ヲ愛スルヲ以テ日本ノ提言ヲ受諾シ「ヨッフエ」ハ重忠ヲ押シテ之ニ参加セリ然レトモ露国ハ差當リ急速ニ日本ト取極ヲ為スノ意思ナク又初メヨリ交渉ノ容易ナラサルヲ看破セリ吾人ハ加藤内閣カ露国ヲ承認スルヲ予期シ居ラス然シ早晚日本ハ露国ヲ承認スルノ余儀ナキニ至ルヘシ露国ハ平和ヲ得ルカ為再三ノ努力ヲ為セルモ日本ノ主ナル政治家ハ真ニ平和ヲ欲スルモノニアラサリシヲ以テ露国ノ努力ハ水泡ニ帰セリ露国ハ極東ノ平和ヲ欲スルモ太平洋岸ニ於テ大國トシテノ体面ヲ汚シ或ハ支那ノ利益ヲ無視シテ迄モ之ヲ求ムルニアラス極東ニ於ケル平和ハ露支兩國ノ提携ニ依ッテ初メテ實施セラルヘク唯一部支那帝國主義者ノ徒輩アリテ國民ノ覺醒ヲ妨碍シ且日本ハ帝國主義者ノ主ナルモノアリ支那ハ露国ノ援助ニ依リテノミ其ノ北辺ノ安全ヲ維持シ得ヘシ現下ノ國際政局ニ際シ露国ハ日本ヲ放任シ支那ト

去ル大正六年十一月「ソヴィエト」政府カ全露ノ政權ヲ把握セシ以来今日ニ至ル迄既ニ六星霜ヲ閱セリ此期間中ノ前半三箇年ハ所謂革命時代ニ屬シ内乱相踵キ民心安定ヲ缺キ動モスレハ秩序紊乱シ未タ渾沌状態ヲ脱却スル能ハサリシカ其後該政府ノ基礎漸次鞏固ヲ加ヘ国内ノ政權統一セラルルト同時ニ内乱殆ト終熄シ秩序全然恢復セラルルニ至レリ而シテ前記期間ノ後半三箇年ハ夙ニ革命時代ヲ經過シテ建設時代ニ入り該政府ハ内治外交ノ振作ニ全力ヲ傾注シ其ノ成績ノ稍見ルヘキモノアルハ掩フヘカラル事ニシテ内ニシテハ百般ノ施政其緒ニ就キ一度根本ヨリ破壊セラレタル商工業モ今ヤ漸次復興ノ途ニ向ヒ殊ニ國產ノ大宗タル農産物ノ如キ既ニ国内ノ需用ヲ充タシ剩餘ノ産額ハ之ヲ獨国及其他ニ向ケ輸出シツツアル狀況ナリ又外ニシテハ独逸

ヲ始メ歐露ト接壤スル波蘭、芬蘭、「エストニア」、「ラトヴィヤ」、「リシアニア」、土耳其、波斯等ノ諸邦ハ率ネ皆本条約ヲ締結シ法律上「ソヴィエト」政府ヲ承認シ英、伊、「チエコ・スロヴァキヤ」、諾、丁等ノ諸国モ亦前後相踵イテ予備条約ヲ締結シ事実上之カ承認ヲ為スニ至レリ然ルニ我邦ハ極東ニ於ケル接壤国ニシテ對露關係ニ於テハ欧米諸邦ト其趣ヲ異ニシ政治及經濟上全然特殊ノ地位ニ在リ而モ露国ノ債務ニ関シ英、仏、米ノ如ク重大ニシテ複雑ナル事情ナキニ拘ラス今日迄未タ何等ノ國際關係ヲ有スルニ至ラス一面ニ於テ露国ニ住居シ若ハ之ト商の關係ヲ有シタル数千ノ帝国臣民ハ皆其ノ業務ヲ失ヒ或ハ露国ヲ引揚ケ或ハ残留シテ何レモ慘憺タル悲境ニ沈淪シツツアリ他面ニ於テハ漁業（我投資額約六千万円生産年額約四千五百万円）林業、通商、交通等ノ諸問題ノ如キ国交ナキカ為種々ノ困難ニ遭遇シツツアル幾多案件ノ急速ニ之カ解決処理ヲ要スルモノアリ若シ此等ノ諸問題ヲ看過シテ其ノ運命ノ儘ニ放擲シ置カンカ将来意外ノ結果ヲ生スルナキヲ保シ難シ「ソヴィエト」政府ノ基礎益々鞏固ヲ加ヘ近キ将来ニ於テ国内之ニ代ルヘキ権力ナク且露国ノ復興狀態カ頗ル良好ニ向ヒツ

セハ左記ノ覺悟ヲ以テ本問題ヲ解決スルニ非サレハ恐ラク満足ナル成果ヲ取ムルコト不可能ナラント信ス（以下「日露非公式予備交渉ニ関スル交換文書」参照）

一、尼港問題

露国ハ尼港事件ノ發生ニ関シ日本ニ対シ片務的ニ陳謝ノ意ヲ表シ而シテ日本ハ該事件ニ由リ生シタル損害ノ賠償ヲ要求セサルコト但予備交渉ニ於テハ前記陳謝ノ形式上未タ双方ノ意見一致セサルノ点アリシモ自ラ之カ解決ノ途ナキニ非ス

二、樺太問題

北樺太ノ買収ハ露国代表ニ於テ承諾セサルニ非サルモ拾億乃至拾五億金留ヲ要求シ日本ノ提示シタル価格一億五千万円ト雲泥ノ差アリテ到底妥協ノ余地ナキ旨ヲ云為セルニ至リテハ是レ畢竟先方ニ売却ノ意思ナキコトヲ証明スルモノト認メサルヲ得ス從ツテ本問題解決ノ途ハ利權ノ獲得ニ在ルノミト断定セサルヘカラス露国ハ北樺太ニ於ケル石油石炭及森林ノ各利權ヲ五十五年乃至九十九年ノ長期租借ニ由リ日本政府又ハ日本会社ニ讓渡スルコト但右利權ノ獲得条件中露国政府ヘノ納金・借区等更ニ具

ツアルノ事實ハ最近露国ニ赴キシ内外人ノ異口同音ニ高調スルトコロニシテ今ヤ露国復交問題ハ最早研究ノ時ニ非ス実行ノ秋ナリ此際速ニ露国ト善隣關係ヲ復興スルハ実ニ焦眉ノ急務ナリト謂ハサルヲ得ス畢竟スルニ最近三年間ニ於ケル大連長春及東京ノ三會議ハ此目的ノ達成ヲ期シタルニ外ナラサリシカ大連長春ノ兩會議ハ不幸ニシテ決裂シ何等ノ成果ヲ見サリシト雖モ東京ニ於ケル予備會議ハ彼我意見ノ一致セサル点ナシトセサルモ双方ノ主張及希望ハ略明瞭ニ歸シ今後ノ交渉ヲ一層有望ナラシメタルヲ以テ今日ハ改メテ公式會議ヲ開クニ最モ利便ナル機會ナリト謂ハサルヲ得サルナリ況ンヤ曩ニ在北京露国極東代表「カラハン」氏カ「ロスタ」通信員「ウォズネセンスキー」氏ヲ經テ小官ニ対シ交渉開否如何ヲ問合セ続イテ芳沢公使ニ対シ我政府ノ意向ヲ聞糺シ何時ニテモ開談ノ準備アルヲ仄メカシ最近ニ至リ後藤子爵ニ宛テタル書面中再ヒ日露交渉ノ開始ヲ切望シ居ル旨ヲ明示シタルニ於テヤヤ

過般ノ日露非公式予備交渉ニ於テ双方ノ主張及希望カ既ニ明瞭トナリタル以上今後更ニ日露會商ヲ為ストセハ最早正式交渉ニ入ルノ外ナシ而シテ現内閣力愈々該交渉ヲ開クト

体的ニ協定シ置クノ必要アリ又露国ノ希望ニ応シ右利權ノ讓渡ヲ尼港問題ト関連セシメサル形式ヲ執ルヘシ

三、北樺太以外露領極東ニ於ケル利權問題

従来ノ關係上勘察加方面ニ於ケル漁業ハ特殊ノ協定ヲ要スルコト勿論ナレトモ其他ノ森林鉾山等ニ関スル利權ハ一般国内法ノ規定ニ基キ適當ナル条件ノ下ニ日本会社又ハ個人ニ讓渡スルコト

四、國際義務問題

(イ) 条約

日本ハ予備交渉中旧条約ノ承認ヲ強硬ニ主張セシモ溯ツテ考フルニ日露条約中ニハ或ハ既ニ期限經過シテ消滅ニ帰シ或ハ時勢ノ變遷ト共ニ実行ニ適セス又ハ廢棄シ得ヘキモノ等少カラサルニ由リ露国力飽ク迄旧条約ヲ承認セサル場合主義上之カ廢棄問題ニ触レス従前ノ条約及協定ニ由リ日本カ獲得シタル權利又ハ利益ニ何等ノ變更ヲ加ヘサル様新条約ヲ協定スルコト尚日露兩國ヲ包含スル多數当事国間ノ条約ハ其ノ存廢又ハ改訂ノ問題ハ他日關係諸国ト露国トノ共同決定迄留保スルコト

(ロ) 債務

露国カ債務殊ニ戦時債務ヲ承認スルハ「ゼノア」及其他ノ會議ニ於ケル露国代表ノ態度ニ徴シ困難ナルコト明瞭ナルカユニ若シ先方ニ於テ飽迄之カ承認ヲ拒否スル場合ハ本問題ヲ露国承認条件ヨリ切り離シ之ヲ後日ノ決定迄留保スルコト

(ハ) 私有財産問題

露国ハ本問題ヲ以テ最モ重大ナルモノトシ若シ列国ノ要求ニ応スル場合ハ革命ノ本旨ニ悖戾シ同国政府ノ威信ヲ失墜セシムルノ虞アルニ依リ私有財産ノ返還及賠償ハ正式交渉ニ於テモ從來ノ通り露国ハ峻拒スヘキニ付不得已場合ハ債務問題ト同様ノ方針ニ由リ之ヲ後日ノ決定迄留保スルコト

前記(ロ)及(ハ)両項ニ関シ露国ハ恐ラク対列国關係モアリ我要求ノミヲ容ルルコト不可能ナルヘキニ依リ結局前述ノ通り両問題ノ解決ヲ何レモ後日ノ決定迄留保スルノ外致方ナカルヘシ而シテ日本カ如此讓歩ヲナス場合露国ヲシテ尼港事件ニ関スル陳謝形式ニ於テ讓歩セシムルコト必スシモ難事ニアラサルヘシ

議ニ於テハ最早ヤ之ヲ望ミ難ク法律上ノ承認ヲ与フヘキ本条約ヲ締結スルノ外途ナキニ至レリ故ニ交渉ノ時期ニシテ一日遅延セハ我ニトリ一日ノ不利ヲ招致スヘキヤ論ヲ俟タス将来万一ニモ欧米各国カ事実上及法律上露国ヲ承認スルト同時若クハ其後ニ於テ談判ヲナス場合アラハ到底今日ノ如ク我ニトリ有利ナル条件ノ下ニ協定ヲ遂ケ得ヘカラサルハ火ヲ観ルヨリモ明カナリ故ニ帝國政府ハ此際速ニ其ノ態度ヲ決シ對露政策上一新生面ヲ展開スルコト緊急ナリト信セサルヲ得サルナリ

茲ニ特殊ノ注意ヲ払フヘキハ日本人士中国民思想ノ悪化ト欧米各国ニ對スル氣兼トニ依リ日露国交ノ回復ヲ尚早シト唱道スル者少カラサルノ事實ナリ

日露国交ノ回復ハ日本ニ於ケル社会主義及共產主義ノ伝播ヲ助成スルモノナリト云フハ一道理由ナキニ非サルモ該主義ノ侵入ハ素ト思想上ノ問題ニ属シ国交ノ回復如何ニ依ルモノニ非ス多数ノ国民ナレハ早晚之ト共鳴スル者多少輩出スルヲ免レサルハ之ヲ予期セサルヘカラス現時ニ於ケル世界ノ交通状態ニ鑑ミ軍隊及警察ノ権力ハ勿論如何ナル鎖国政策ト雖モ根本的ニ之ヲ防止スルコト到底不可能ナルヘシ

五、露国ニ居住スル日本人ノ生命及財産ニ對スル保障、通商及産業上ノ自由、宣伝ノ禁止等ニ関シ相互主義ニ基キ適當ノ協定ヲ為スコトハ何等困難ノ事情アルヲ發見セサルコト

以上ハ専ラ日本側ヨリ提議シタル条件ニ就キ敘述シタルモノナルカ露国側ノ主要ナル目的ハ同国政府ノ正式承認ト北樺太ノ撤兵ニ在リ故ニ正式交渉ノ際我提議ニシテ彼ノ容ルルトコロトナラハ我モ亦前記承認ト撤兵ノ両問題ニ関シ彼ノ希望ヲ満足セシムルノ覚悟ナカルヘカラス若シ否ラサルニ於テハ暫ニ開カルヘキ交渉ヲ徒勞ニ帰セシムル虞ナキヲ保シ難キノミナラス前後數回ニ亘ル日露交渉ヲ決裂セシメタル責任ハ日本モ亦之ヲ分担セサルヲ得サルニ由リ寧ろ最初ヨリ正式交渉ニ入ラサルノ勝レルニ如カサルナリ

而シテ前段敘述シタル条件ニ基キ交渉ヲ開始セハ時機ヲ逸セサル限リ我希望通り速ニ善隣關係ヲ復興シ得ルコト必スシモ難事ニ非サルヘシト雖モ若シ今後更ニ躊躇逡巡セハ時局ノ推移ニ伴ヒ露国ノ地位ヲシテ益々有利ナラシムルノ虞ナシトセス現ニ大連及長春ノ両會議ニ於テ露国ヲ事実上ニ承認スル予備条約ヲ締結スルハ易々タリシモ今後ノ正式会

試ニ看ヨ露国ト最モ密接ナル波蘭又ハ独逸ノ如キ国内多少ノ共產主義者ナキニ非サルモ是レ纔カニ国民ノ一小部分ニ過キス且國民ハ常ニ内外ノ共產主義者ト接觸シツツアルカ故能ク該主義ノ何物タルヲ諒解シ寧ろ之ヲ避忌スルモ之ト共鳴スル者極メテ少数ナルハ世上周知ノ事實ナリ如此ニシテ仮令國民中多少ノ共產主義者アリトスルモ國民ノ大部分カ夙ニ自覺シテ之ニ感染セサル限リ何等恐ルルニ足ラサルナリ此点ヨリ考察スレハ寧ろ國民ヲシテ可成速ニ彼等ト接觸セシメ以テ自覺心ヲ喚起スルハ却テ得策ナラン然リト雖モ主義ノ蔓延ヲ其ノ儘ニ抛棄シ敢テ顧ミサルモ可ナリト云フニ非ス当該政府トシテハ相當ノ取締方法ヲ設クルコト肝要ナルハ言ヲ俟タス唯徒ラニ該主義者ヲ蛇蝎視シ且之ヲ窘逐スルノ愚策ヲ排セサルヘカラスト云フニアリ

而シテ日本ハ欧州ヲ距ル遼遠ナル極東ニ於テ露国ト接壤シ其政治及經濟上欧米各国ト全然其趣ヲ異ニスルノ地位ニ在リ今ヤ急速処理ヲ要スル漁業、林業、通商、交通等ノ國際的懸案ヲ眼前ニ控ヘツツアル特殊ノ重大關係ヲ有スルヲ以テ必スシモ各国ノ鼻息ヲ窺ヒ事毎ニ之ト歩調ヲ一ニスルノ必要ナキハ世人ノ異口同音ニ認ムルトコロナリ加フルニ各

国ハ重ニ欧露トノミ密接ノ関係ヲ有シ殊ニ債務問題ノ解決上重大ニシテ複雑ナル事情アルカ為露国ト急速国交ノ回復ヲ見ル能ハサルカ如キハ大ニ日本ノ境遇ト差異アルヲ思ハサルヘカラス然レトモ若シ我邦カ各国ニ率先シ単独ニ露国政府ヲ正式ニ承認スルヲ憚ラハ之カ承認ノ手續ヲ採ルト同時ニ各国ニ向ッテ前記ノ理由ト事情ニ由リ協調ヲ保ツ能ハサルコトヲ声明セハ充分ナラント信ス

又将来ニ於ケル「ソヴィエト」政府政綱如何ニ関シ世上杞憂ヲ抱ク者ナシトセサルカ該政府ハ因ト共產主義ノ社会制度ヲ創設センコトヲ綱領トシテ樹立セラレ劈頭第一ニ政治上及社会上国民ノ階級ヲ打破シ又經濟上ニ於テハ私有財産ヲ撤廃セリ即經濟組織上ノ問題トシテハ從來ノ資本財産ヲ国有トシ絶對ニ個人ノ所有權ヲ否認スル新制度ヲ建設シタルモノナリ該政府ハ其成立後直ニ土地ヲ国有トシ森林鉱山鐵道工場製造所ヲ国有トシ而シテ商工業ヲ国家ノ独占事業トナセリ先ツ農業ニ於テハ總テノ土地ヲ国有トシ之ヲ農民ニ貸与シテ耕作セシメ其生産物ハ農民ニ必要ナル分量ヲ除キ剰余ハ之ヲ政府ニ徵收シテ一般国民ニ分配スルコトトシ次ニ工業ニ於テハ森林鉱山及工場ノ全部ヲ国有トシ国家カ

天下ヲ取りタルヲ以テ苟且ニモ此主義ヲ抛棄センカ忽チ其威信ヲ失墜シ復タ之ヲ挽回スヘカラサルニ至ルヘキハ必然ノ勢ナリ故ニ露国ノ政策ハ全然資本主義ニ復帰スルコトナシトスルモ漸次之ニ傾キツアルハ既ニ争フヘカラサル事實ナレハ結局共產主義ト資本制度ノ中間ニ落付キ一種変態ノ折衷制度ヲ執ルニ至ルヘシト予測スルコト必スシモ不当ニアラス

次ニ「ソヴィエト」政府ハ猶太人ノ政府ニシテ露西亜ヲ支配スル者ハ猶太人ナリト速断スル者鮮少ナラスト雖モ是レ重ニ反過激派其ノ他ノ宣伝（「ニールス」氏著「猶太禍」ノ如キハ最モ甚シキモノ）ニ依ルト中央執行委員会ノ幹部及國務大臣（人民委員）ノ内ニ比較的多数ノ猶太人「トロツキー」、「カーメネフ」、「ジノウウィエフ」等ノ如キアリテ相当有力ノ人物アルニ基因スルモノナリ然レトモ之ヲ以テ直ニ露国ハ猶太人ノ天下ナリト称スルハ失当ニシテ現ニ「ソヴィエト」政治ノ柱石ト称セラルル「レーニン」ハ勿論露国ノ最高権力タル連邦會議及中央執行委員会ノ議長タル「カリーニン」モ亦露人ナリ其他國務大臣及共産党領袖中露国人ノ外波蘭人、「アルメニヤ」人、独逸人ノ如キ外

自ラ之カ經營ニ從事シ其ノ生産品ヲ一般国民ニ分配スルコトトセリ故ニ最初労働者ニ対シテハ賃銀制度ニ依ラスシテ切符ニ由ル現品給与制度ヲ採レリ又商業ニ於テハ内地商業モ外国貿易モ皆之ヲ国家ノ独占トシ個人ノ營業ヲ否認セリ要スルニ總テノ生産手段ヲ国家ノ手ニ収メ国家自ラ總テノ生産ヲ營ミ其生産品ヲ国家ヨリ直接国民ニ分配給与スルヲ以テ市場又ハ個人商業ノ必要ヲ認メサリシナリ如此ニシテ「ソヴィエト」政府ハ「マルクス」ノ思想學說ヲ主義上ニモ實際上ニモ其儘実行セント努力セシカ理論ト實際ハ常ニ背馳シ易ク人間ノ經濟的性能ヲ無視シタル組織制度ハ忽チ農民ヲ始メ一般国民ヲ懶惰ニ導キ産業ハ振ハス国民ノ日用必需品スラ供給スル能ハス民心ノ動搖ト反感ヲ招キ主義ニ忠ナラント欲セハ自己ヲ破滅セントスルノ危険ヲ感シ政策ヲ改ムレハ主義ニ不忠ナルノ謗ヲ免カレス進退維谷ノ窮境ニ陥リタルヲ以テ茲ニ一種ノ緩和手段タル新經濟政策ヲ案出シ或ル程度迄私有財産ト個人ノ商工業ヲ認メ僅カニ一道ノ活路ヲ得タルノ觀アリ而シテ前記政策ハ実施後漸次資本制度ニ復帰スルノ傾向愈々濃厚ナラントシツツアルモ「ソヴィエト」政府ハ其成立ニ際シ共產主義ノ大旗ヲ標榜シテ

国人ハ猶太人ニ比シ遙カニ多数ナルハ論ヲ俟タサルトコロナリ由來露西亜ハ反猶太思想ノ最モ旺盛ナリシ邦国ニシテ国民ノ大部分カ露人タル以上猶太人ノミノ政府ニテハ民心ヲ收攬シ輿望ヲ繫クコトハ不可能ナリ故ニ単ニ政府部内ニ多数ノ猶太人アリテ且有力ナリト云フ事實ノミヲ以テ直チニ猶太人ノ露国ナリトカ或ハ猶太人ノ世界的革命ニ関スル陰謀ノ一端ナリト速断スルハ早計ナリト信ス

3 北京ニ於ケル予備折衝

三〇三 七月二十八日 在北京坂西中将ヨリ
武藤參謀次長宛（電報）

カラハン來支ニ関連セル中国側情報報告ノ件

坂電第二三六号 （七月二十九日接受）

在莫斯科沈崇勳二十四日付外交部宛來電

「カラハン」ハ三十日莫斯科出發「チタ」ニ赴キ二日滞在後哈爾濱ヲ經テ北京ニ到ル旨日露會議ハ頓挫セリ「カラハン」ノ渡日期モ未定ナリ又尼港問題ニ関シ「ソビエット」會議ハ「ヨッフエ」カ国權ヲ損失セルヲ攻撃シアリ是レ同人召還ノ原因ナリト云々